会 議 録

令 和 7 年 第 2 回 定 例 会

会期：令和7年6月 2日
令和7年6月13日
(12日間)

小 海 町 議 会

第2回定例会会議録目次

議事日程等	2
第1日（招集、上程、説明、議案質疑、委員会付託）	
開会	5
招集あいさつ・報告	7
同意第5号（教育委員会委員の任命）	10
承認第1号（条例）	11
承認第2号～5号（補正予算）	11
議案第31号～33号（条例）	22
議案第34号・35号（補正予算）	23
陳情・請願等	32
第4日（一般質問）	
第1番 黒澤 敦史 議員	34
第5番 渡邊 晃子 議員	45
第12番 渡辺 均 議員	64
第2番 小池 喜昭 議員	78
第1番 中村 佳太 議員	86
第6番 的埜美香子 議員	96
第12日（委員長報告、討論、採決、追加議案）	
開会・報告	114
議員派遣の件	116
承認第1号（条例）	116
承認第2号～5号（補正予算）	117
議案第31号～33号（条例）	119
議案第34号・35号（補正予算）	121
陳情第3号	123
陳情第4号・発議第3号	124
陳情第5号・発議第4号	127
陳情第6号・発議第5号	128
陳情第7号	130
陳情第8号・発議第6号	131
発議第7号	133
議案第36号（補正予算）	134
署名	136

令 7 年 第 2 回
小海町議会定例会議事日程

開会年月日時	令和7年6月 2日 午前10時00分	
閉会年月日時	令和7年6月13日 午後 4時11分	
開会の場所	小海町議会議場	
議件番号	付 議 件 名	審議結果
	開会宣言	
	会議録署名議員の指名 第3番議員、第4番議員	
	会期の決定 (1) 会期 自 令和7年6月 2日 至 令和7年6月13日 12日間	
	町長招集あいさつ	
	諸般の報告 (1) 議長の報告 (2) その他の議員の報告	
	行政報告 (1) 町長の報告 (2) その他の報告	
同意第5号	小海町教育委員会委員の任命同意について	原案同意
承認第1号	小海町税条例の一部を改正する条例について	原案承認
承認第2号	令和6年度小海町一般会計補正予算(第8号)について	〃
承認第3号	令和6年度小海町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)について	〃
承認第4号	令和6年度小海町介護保険事業特別会計補正予算(第5号)について	〃
承認第5号	令和6年度小海町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について	〃
議案第31号	小海町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第32号	災害に際し応急措置の業務に従事した者に係る損害賠償に関する条例の一部を改正する条例について	〃
議案第33号	小海町消防団員の定員・任免・給与・服務等に関する条例の一部を改正する条例について	〃

議案第 34 号	令和 7 年度小海町一般会計補正予算(第 2 号)について	原案可決
議案第 35 号	令和 7 年度小海町介護保険事業特別会計補正予算(第 1 号)について	〃
陳情第 3 号	フォワード導入に関する補助金の陳情書	採択
陳情第 4 号	女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める陳情	〃
陳情第 5 号	「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める陳情書	〃
陳情第 6 号	「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書採択の陳情について	〃
陳情第 7 号	国保制度の改善を求める陳情書	継続審査
陳情第 8 号	高額療養費の限度額引き上げの撤回を求める陳情書	採択

《追加議案》

発議第 3 号	女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書について	原案可決
発議第 4 号	「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」と「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書について	〃
発議第 5 号	「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書について	〃
発議第 6 号	高額療養費の限度額引き上げの撤回を求める意見書について	〃
発議第 7 号	給食無償化に際し、質・量の確保を担保するための国による十分な予算措置を求める意見書について	〃
議案第 36 号	令和 7 年度小海町一般会計補正予算(第3号)について	〃

会議の顛末	令和7年6月 2日 午前10時00分に始め
	令和7年6月13日 午後4時11分に終る

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職、氏名	町 長 黒 澤 弘
	教 育 長 黒澤五雄 生涯学習課長 小平文仁
	総 務 課 長 吉澤君雄
	町 民 課 長 井出知之 やすらぎ園所長 井出重信
	産業建設課長 宮澤賢司
本会議に職務のため出席した者の職氏名	議会事務局長 小平弘恵
	書 記 中嶋晴基

会議開会日及び議員の出欠

議席番号	氏 名	6/2	6/5	6/9	6/10		6/11		6/13
					総産	予決	民文	予決	
第1番	中村 佳太	○	○	○	—	○	○	○	○
第2番	小池 喜昭	○	○	○	—	○	○	○	○
第3番	菊池 一巳	○	○	○	—	○	○	○	○
第4番	小池今朝之	○	○	○	○	○	—	○	○
第5番	渡邊 晃子	○	○	○	—	○	○	○	○
第6番	的埜美香子	○	○	○	○	○	—	○	○
第7番	黒澤 敦史	○	○	○	○	○	—	○	○
第8番	鷹野 文則	○	○	○	—	○	○	○	○
第9番	篠原 哲雄	○	○	○	○	○	○	○	○
第10番	古谷 恒晴	○	○	○	—	○	○	○	○
第11番	井出 和人	○	○	○	○	○	—	○	○
第12番	渡辺 均	○	○	○	○	○	—	○	○
計		12	12	12	6	12	7	12	12
地方自治法第123条第2項の規定による会議録署名議員		第 3 番 菊池 一巳 議員							
		第 4 番 小池今朝之 議員							

令和 7 年 第 2 回	
小海町議会定例会会議録	
「第 1 日」	
*	開会年月日時 令和 7 年 6 月 2 日 午前 10 時 00 分
*	閉会年月日時 令和 7 年 6 月 2 日 午後 3 時 42 分
*	開会の場所 小 海 町 議 会 議 場
会 議 の 経 過	
○ 開 会	
議 長	<p>皆さん、おはようございます。令和 7 年第 2 回定例会の開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>4 月 20 日に小海町議会選挙が行われ、19 期、12 名の議員が誕生し、新人議員 4 名、元議員 2 名と 6 名の議員が改選され、本日は改選後初めての定例会です。私は 5 月 1 日の臨時議会において、指名推選により、議員皆さんの全員の支持をいただき、議長に就任いたしました。改めて議員の皆さん、黒澤町長を始め、理事者職員の皆さん、よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>議員の皆さんにおかれましては、立候補にあたり、公約を掲げておりますが、4 年間公約に向けてしっかり議員活動に励んでいただきたいと思います。議会と行政は車の両輪と言われておりますが、同じ方向に向かって、町民のためにを第 1 に考えていかなければならないと思います。議会は、行政の意思決定と行政執行の監視、チェックをする役割を担っております。住民の代表として、町政の重要な事項について議論し、決議することで町政を運営します。そのためにしっかり町政と向き合い、議論を交わす必要があります。議会と行政は摩擦を起こすことではなく、様々な観点から是々非々の考えが必要ではないかと思ひます。そのためにも、議員 1 人 1 人がしっかり勉強していただきたい。昨年、議会報告会を開催しましたが、本年も昨年と同様の開催を進めてまいりたいと思ひます。議会報告会を含めて、できるだけ多くの町民と意見交換を開催し、町民の身近な議会を目指してまいりたいと思ひます。18 期会議員の皆さんで議論されました、議員定数、議員報酬等議会改革の様々な議題に対しても、任期の中でしっかり議論を進めてまいりたいと思ひます。以上、私の所信を述べさせていただきました。</p> <p>ここで皆さんに 2 点ほどお願ひがあります。1 つとして議員の新人の皆さんもおりますので、発言をする際には挙手をし、議席番号と氏名を述べてから発言をお願ひいたします。2 番として質疑については、同一議員につき、同一の議題について 3 回を超えることはできません。自己の意見を述べることもできないわけですから、こういったことをご承知しておいていただきたいと思ひます。</p>

	<p>ただ今の出席議員数は12名であります。 定足数に達しておりますので、ただ今から令和7年第2回小海町議会定例会を開会いたします。なお、議会のICT化推進の目的から、議場へのタブレットの持ち込みを許可します。 これから、本日の会議を開きます。暑いようでしたら上着を脱いでいただいで結構です。</p>
<p>日程第1 「会議録署名議員の指名」</p>	
議 長	<p>日程第1、「会議録署名議員の指名」を行います。 本定例会の会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により、議長において、第3番菊池一巳君及び第4番小池今朝之君を指名いたします。</p>
<p>日程第2 「会期の決定」</p>	
議 長	<p>日程第2、「会期の決定」についてを議題といたします。 本定例会の運営につきましては、去る5月19日に議会運営委員会を開催し協議をしておりますので、その結果を議会運営委員長から報告を求めます。 議会運営委員長 的埜美香子君。</p>
議会運営委員長	<p>ご報告いたします。 本日招集の、令和7年第2回小海町議会定例会の運営につきましては、去る5月19日に議会運営委員会を開催し、協議いたしましたので、その結果をご報告申し上げます。 本定例会に付議される案件は人事案1件、専決処分5件、条例改正案3件、補正予算案2件、陳情6件の合計17件であり、会期は本日より6月13日までの12日間とする案を作成いたしました。 会期中の日程につきましては、定例会の会期中に、全議員による現地視察及び全員協議会を開催いたします。 今のところ、一般質問が1日で済めば、9日午前10時から、合同現地視察及び全員協議会を開催する予定ですので、ご承知おき下さい。 なお、本日の昼休み12時30分から議会運営委員会、および各常任委員長の合同会議を開催しますので、併せてよろしくお願い申し上げます。以上でございます。</p>
議 長	<p>お諮りいたします。 本定例会の会期は、ただいま議会運営委員長から報告がありましたとおり本日から6月13日までの12日間にしたいと思います。 これにご異議ございませんか。</p>
<p>(異議なしの声)</p>	
議 長	<p>異議なしと認めます。 したがって、本定例会の会期は、本日から6月13日までの12日間と</p>

	決定いたしました。なお、本日の議事日程はお手元に配付申し上げたとおりであります。
日程第3 「町長招集あいさつ」	
議 長	日程第3、町長より招集あいさつをお願いします。 黒澤町長。
町 長	<p>皆様、おはようございます。</p> <p>令和7年第2回定例会を招集申し上げましたところ、大変お忙しい中、全議員のご出席を賜り開会できますことに、心より厚く御礼を申し上げます。</p> <p>去る5月1日の臨時会におきまして、篠原哲雄議長、鷹野文則副議長をはじめ新しい議会構成が決定され、本日は、新体制での初の定例会であります。町の発展のため、行政と議会が町民益を第一に、力を合わせて進んでいけますようご支援とご協力を心からお願いを申し上げます。</p> <p>さて、最近の新聞・テレビ等において米の価格高騰が報道されております。以前の2倍の価格は異常と言わざるをえません。昨年秋からキャベツ・白菜などの価格高騰もありました。現物が無いと価格が上がるのは市場の原理であります。米・野菜いずれも消費者目線と生産者目線があります。良い塩梅の価格が求められます。</p> <p>町の基幹産業の一つであります農業、高原野菜につきましては、ゴールデンウイーク明けから出荷が始まり、日増しに生産量が増加しております。価格につきましては安値となっており、5月下旬からはレタスやサニーレタスの廃棄が続いていると聞いております。5月中の廃棄は過去に例がないという事で、農業資材の価格高騰も以前から継続しておりますので、今シーズン通して張り合いの持てる価格が続いてくれることを願うばかりでございます。</p> <p>それでは、本定例会にご提案申し上げました議案につきまして、議事日程番号順に、総括的なご説明を申し上げます。</p> <p>同意第5号 小海町教育委員会委員の任命同意についてですが、これまで2期お務めいただきました本間川の篠原明子さん、適任であることから3期目をお願いするものであります。これにつきましては、本日採決をいただきたいというふうをお願いを申し上げます。</p> <p>承認第1号 小海町税条例の一部を改正する条例につきましては、地方税法の改正に伴い、「特定親族特別控除」の創設による住民税に係る改定、新基準原付バイクの規定、マイナ免許証の運用開始による軽自動車税に係る改正ほか、固定資産税、たばこ税についての改正を専決処分したものでございます。</p> <p>承認第2号 令和6年度小海町一般会計補正予算（第8号）につきましては、歳入歳出予算の総額に62,252千円を追加して総額を4,865,546千円としたものでございます。主な要因は精算によるものです。</p>

歳入につきましては、町税の確定により 10,695 千円の増額、地方譲与税では、10,382 千円の増、地方交付税では特別交付税が確定したことにより 39,006 千円の増額となりました。支出につきましては、総務費が 33,753 千円の減額、民生費が 36,389 千円の減額、衛生費が 25,763 千円、農林水産費が 15,920 千円、商工費が 6,926 千円それぞれ減額、土木費が 14,886 千円の減額、消防費が 2,964 千円、教育費が 20,634 千円、災害復旧費が 7,362 千円、公債費が 2,993 千円それぞれ減額し精算を行い、予備費を 230,863 千円増額調整し、4,865,546 千円としたものでございます。

承認第 3 号 令和 6 年度小海町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 3 号）につきましては、歳入歳出予算の総額から 31,801 千円を減額し、総額を 485,934 千円としたものでございます。主な要因は精算によるもので、歳入で県支出金を 31,604 千円の減額、歳出は保険給付費 33,657 千円を減額したものでございます。

承認第 4 号 令和 6 年度小海町介護保険事業特別会計補正予算（第 5 号）につきましては、歳入歳出予算の総額から 20,205 千円を減額し、総額を 706,996 千円としたものでございます。主な要因は保険給付費の精算によるものでございます。

承認第 5 号 令和 6 年度小海町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 2 号）につきましては、歳入歳出予算の総額から 821 千円を減額し、総額を 88,953 千円としたもので、主な要因は精算によるものでございます。

以上 5 件につきましては 3 月 31 日付で専決処分をいたしましたので、ご承認をお願いするものでございます。

続きまして、議案について概要を申し上げます。

議案第 31 号 小海町国民健康保険税条例の一部を改正する条例につきましては、国民健康保険事業の運営に関する協議会の答申をいただいた上で、保険料率を改正する他、地方税法の改正に伴い、関連する条項を改正するものです。

議案第 32 号 災害に際し応急措置の業務に従事した者に係る損害賠償に関する条例の一部を改正する条例につきましては、障がい者に関する用語の整理を行うものです。

議案第 33 号 小海町消防団員の定員・任免・給与・服務等に関する条例の一部を改正する条例につきましては、消防団員の定数を実状に合わせるため 2 名増の 141 人に改めるものであります。

議案第 34 号 令和 7 年度小海町一般会計補正予算（第 2 号）につきましては、歳入歳出予算の総額に 42,351 千円を追加し、総額を 4,973,631 千円とするものでございます。

主な補正内容につきましては、歳入では、国庫支出金の、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増額 1,198 千円、土木費補助金の社会資本整備総合交付金 14,818 千円、県支出金では、農林水産費補助金で最適土地利用総合事業 2,500 千円の増額、基金繰入金では、財政調整基金 20,000 千円の増額です。

	<p>歳出では、総務費の企画費において地域活性化企業人関係で 6,595 千円の増、障がい者高齢者の住まい整備事業の、開発許可申請委託料 23,454 千円、衛生費では旧リサイクルセンターの水質検査費用 1,623 千円、浄化槽設置補助金を 2,238 千円計上しました。農林水産費では農業振興費に最適土地利用総合事業 2,500 千円、消防費では、宿渡地区防火水槽設置費の増額 3,000 千円を計上しました。その他人事異動に伴う職員人件費の補正でございます。</p> <p>議案第 35 号 令和 7 年度小海町介護保険事業特別会計補正予算（第 1 号）については、歳入歳出予算から 394 千円を減額し、総額を 726,791 千円としたもので、人事異動に伴う一般会計からの人件費に伴う繰入金の減額でございます。</p> <p>以上本定例会にご提案いたしました議案につきまして、その概要を申し上げます。よろしくご審議の上、同意、承認、可決決定賜りますようお願い申し上げます。招集の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。</p>
日程第 4 「諸般の報告」	
議 長	<p>日程第 4、「諸般の報告」を行います。</p> <p>議長としての報告事項は、議事日程つづりの 4 ページに申し上げますので、ご確認の程をお願いいたします。そのほか、報告事項のある方はお願いします。</p>
議 長	<p>以上で「諸般の報告」を終わります。</p>
日程第 5 「行政報告」	
議 長	<p>日程第 5、「行政報告」を行います。町長から行政報告をお願いします。</p> <p>黒澤町長。</p>
町 長	<p>ご報告いたします。</p> <p>昨日 6 月 1 日、消防団南佐久郡ポンプ操法・ラッパ吹奏大会が佐久合同庁舎において開催されました。先月、町のポンプ操法大会で優勝しました第 4 分団が小型ポンプ操法の部、自動車ポンプ操法の部に出場し、郡大会では、小型ポンプ操法の部では第 5 位、自動車ポンプ操法の部では第 3 位となりましたが、他チームに引けを取らず大健闘をいたしました。また、ラッパ吹奏の部におきましては、栄えある優勝を収めました。7 月に行われます県大会へ出場となります。出場した選手の皆さんや周囲でサポートした団員の皆様のご労苦をたたえたいと思います。ご苦労様でございました。</p> <p>2 件目は、先月 24 日土曜日に行われました小学校の運動会です。議員の皆様も多数ご臨席いただき、小海町出身の長沢永子校長先生のもと盛大に開催することができました。雨天が心配され、時間を早めての開催となりましたが、最後まで雨には遭わずに終了することができま</p>

	<p>した。運動会では1年生の成長に驚くばかりでした。令和7年度が始まりまだ2か月余り、小学校の生活に慣れることも大変なところを、種目に合わせ仲間たちと一緒に行動できました。親御さんをはじめ周囲の皆さん全員に、感動を与えたことと思います。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	<p>以上で町長の報告を終わります。</p> <p>ほかに行政報告がありましたらお願いいたします。</p>
	<p>総務課長【令和6年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告】 【佐久広域連合議会選挙の報告】</p> <p>町民課長【佐久環境衛生組合議会臨時会の報告】 【小海町の国民健康保険事業の運営に関する協議会の報告】</p> <p>教育長【小海町結婚推進委員会の報告】 【小海町子育て支援推進委員会の報告】</p> <p>産業建設課長【松原湖高原観光交流センター運営委員会の報告】</p> <p>教育長【中学校組合議会第1回定例会の報告】</p> <p>総務課長【小海町開発公社経営状況の報告】</p>
議 長	<p>以上で「行政報告」を終わります。</p> <p>本日、会議事件説明のため出席を求めた者は、町長・教育長・代表監査委員・各課長・所長であります。</p> <p>なお、小池こども課長は療養のため欠席であります。</p>
議 長	<p>これより議案の上程をいたしますが、本日は議事日程のとおり、同意第5号は上程から採決まで、承認第1号から議案第35号、請願・陳情等につきましては上程から付託までといたします。</p> <p>それでは、順次議案を上程いたします。</p>
<p>日程第6「同意第5号」</p>	
議 長	<p>日程第6、同意第5号 「小海町教育委員会委員の任命同意について」を議題とします。</p> <p>事務局長に議案の朗読を求めます。</p> <p>小平事務局長。</p>
<p>(事務局長朗読)</p>	
議 長	<p>朗読が終わりました。提出者に提案理由の説明を求めます。</p> <p>黒澤町長。</p>
<p>(町長説明)</p>	
議 長	<p>説明が終わりました。</p> <p>これから質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いいたします。</p>
<p>(質疑なし)</p>	
議 長	<p>これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。</p>
<p>(討論なし)</p>	
議 長	<p>これで討論を終わります。これから同意第5号を採決いたします。同</p>

	意第5号を原案のとおり同意することに賛成の方の挙手を求めます。 (挙手全員)
議 長	挙手全員と認めます。したがって同意第5号は、原案のとおり同意することに決定されました。
日程第7「承認第1号」	
議 長	日程第7、承認第1号 「小海町税条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。 事務局長に議案の朗読を求めます。 小平事務局長。
	(事務局長朗読)
議 長	朗読が終わりました。提出者に提案理由の説明を求めます。 吉澤総務課長。
	(総務課長説明)
議 長	説明が終わりました。 これから質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いいたします。
	(質疑なし)
議 長	これで質疑を終わります。 ここで11時15分まで休憩とします。 <div style="text-align: right;">(とくに11時01分)</div>
日程第8「承認第2号」	
議 長	休憩前に引き続き会議を開きます。 日程第8、承認第2号 「令和6年度小海町一般会計補正予算(第8号)について」を議題と します。 事務局長に議案の朗読を求めます。 小平事務局長。
	(事務局長朗読)
議 長	朗読が終わりました。提出者に提案理由の説明を求めます。 吉澤総務課長。
	(総務課長説明)
議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。 歳入歳出ともページごとに行います。質疑のある方は挙手をお願いし ます。 7ページ、第2表繰越明許費補正。 歳入、10ページ、款1町税、項1町民税、項2固定資産税、項3軽自 動車税。 11ページ、軽自動車税つづき、項4市町村たばこ税、項5入湯税、款 2地方譲与税、項1地方揮発油譲与税。

	<p>12 ページ、項 2 自動車重量譲与税、項 3 森林環境譲与税、款 3 利子割交付金、款 4 配当割交付金。</p> <p>13 ページ、款 5 株式等譲渡所得割交付金、款 6 法人事業税交付金、款 8 ゴルフ場利用税交付金、款 9 環境性能割交付金。</p> <p>14 ページ、款 10 地方特例交付金、款 11 地方交付税、款 12 交通安全対策特別交付金、款 13 分担金及び負担金。</p> <p>15 ページ、分担金及び負担金つづき、款 14 使用料及び手数料、項 1 使用料。</p> <p>6 番的埜美香子くん。</p>
6 番議員	<p>はい、6 番的埜です。</p> <p>民生費負担金の先ほど説明がありました広域保育事業ということで、該当者 4 人というわけなんですけど、どうして 3 月に補正ができなかったのかということをお聞きしたいと思います。</p>
教育長	<p>はい該当者が 4 人おりまして、佐久市から川上まで、それぞれの町村に入園しております。そして親御さんの勤務とか、そういう状況によりまして、広域保育を打ち切る状況が発生をします。今おっしゃられるように、なるべく早い時期に見込みで補正予算を計上すべきだと私も考えておりますが、流動的なことが見え隠れしまして専決のこの機会の補正にさせていただいたという内容でございます。いずれにしましても、わかった範囲で補正対応し、明確に議員の皆様にお知らせをしていくということは基本姿勢だと感じております。以上でございます。</p>
6 番議員	<p>はい。流動的だということなんですけど、7 年度の方はどういうふうになっているか、やはり同じようなことなんでしょうか？</p>
教育長	<p>はい、7 年度につきましては年度の途中で入られたり途中で打ち切られたりしますので、やはり 9 月ではちょっと見込みが早い。12 月か 3 月おおよその数字がわかったところで、計上していく形になるかと思えます。以上でございます。</p>
議 長	<p>16 ページ、使用料つづき。</p> <p>17 ページ、項 2 手数料、款 15 国庫支出金、項 1 国庫負担金。</p> <p>18 ページ、国庫負担金つづき、項 2 国庫補助金。</p> <p>19 ページ、国庫補助金つづき、項 3 国庫委託金、款 16 県支出金、項 1 県負担金。</p> <p>20 ページ、県負担金つづき、項 2 県補助金。</p> <p>21 ページ、県補助金つづき、項 3 県委託金、款 17 財産収入、項 1 財産運用収入。</p> <p>6 番的埜美香子くん。</p>
6 番議員	<p>はい、6 番的埜です。</p> <p>すいません戻りますけど、4 目の 5 節林道費の補助金ということで、これ先ほど説明あったと思うんですけど、工法の変更があったということですが、事業費の方歳出の方ですね、それは 3 月の補正の方で減額済みだと思うんですけど、どうして歳入の方で今回なのかというこ</p>

	とをお尋ねします。
産業建設課長	事業費につきましては3月で精算ができるということ。それからこの手の工事は実績報告を上げると、ということで県の補助金の確定は5月になってくるということで、補正も今回専決でさせていただきます。以上です。
議長	22 ページ、財産運用収入つづき、項2 財産売払収入、款 18 寄付金。 5 番渡邊晃子くん。
5 番議員	5 番です、お願いします。 23 ページ基金繰入金ですが、財政調整基金これだけ減ということなんですけれども、まず財政調整基金ですが、これご説明がない充当先がわからないとどう判断していいのかわからないので、ちょっとご説明お願いします。
総務課長	すいません、この内容についてそれぞれ各事業いくつもありますので、どの事業がいくら減ということは言えないわけなんですけれども、各事業、この専決予算で減額確定しておりますので、それに合わせて歳入で、特定財源で見れるところはそこで見まして、その他のものをこの基金を繰り入れて充ててるといような作業になっていきますので、内訳につきましてはまた委員会のときでいいですかね。説明させていただきます。
議長	23 ページ、寄付金つづき、款 19 繰入金、項 1 特別会計繰入金、項 2 財産区繰入金、項 3 基金繰入金。 24 ページ、款 21 諸収入、項 1 預金利子、項 3 受託事業収入、項 4 雑入。 25 ページ、雑入つづき。 26 ページ、雑入つづき、項 5 延滞金加算金及び過料。 ここで1時まで休憩とします。 <p style="text-align: right;">(ときに 11 時 56 分)</p>
議長	休憩前に引き続き会議を開きます。 議事に入ります前に、先程、12 時 30 分から議会運営委員会および各常任委員長の合同会議を開催しましたので、その結果を議会運営委員長から報告願います。 議会運営委員長 的埜美香子 君。
議会運営委員長	ご報告いたします。 議会運営委員及び各常任委員長による合同会議の結果、各常任委員会の審査日程が決定しましたのでご報告いたします。 6 月 10 日 (火) 午後 1 時 00 分より 総務産業常任委員会、視察なし。 午後 2 時 00 分より 予算決算常任委員会、視察なし。 6 月 11 日 (水) 午後 1 時 00 分より 民生文教常任委員会、視察なし。 午後 2 時 00 分より 予算決算常任委員会、視察なし。 また、午前中も申し上げましたとおり、全員協議会につきましては、6 月 9 日に行います。以上で、報告を終わります。
議長	歳出に移ります。

	<p>27 ページ、款 1 議会費、款 2 総務費、項 1 総務管理費、目 1 一般管理費。</p> <p>28 ページ、一般管理費つづき。</p> <p>29 ページ、一般管理費つづき、目 2 財産管理費。</p> <p>30 ページ、財産管理費つづき、目 3 広報費、目 4 企画費。</p> <p>6 番的埜美香子くん。</p>
6 番議員	<p>6 番的埜です。</p> <p>2 目の委託料の関係ですけど、移住体験施設・憩うまちこうみ減額ということなんですけど、これの内訳はどのようになっていますか。お願いします。</p>
総務課長	<p>住体験施設の利用の状況ということでしょうか？すみません資料を持ち合わせていませんので、また後ほどご報告させていただきたいと思います。</p>
議 長	<p>31 ページ、企画費つづき。</p> <p>32 ページ、企画費つづき、目 5 地域振興費、目 6 積立金。</p> <p>6 番的埜美香子くん。</p>
6 番議員	<p>6 番です。お願いします。すみません 4 目の使用料および賃借料ということで、先ほど村上団地の埋設物撤去のことで説明ありましたが、コンクリートがそれほどね、大きなものではなかったというご説明なんですけど、これいつ着手していつ完了したのか、ちょっとその辺りお願いします。</p>
総務課長	<p>はいお答えいたします。具体的な日にちについては、ちょっと今はわからないんですけども、住宅を建設している、着手したときにそのようなことが起こったということでございまして、住宅は完成しております。周囲ももしかしたら影響があるのではなからうかということで、そのときに調査をした結果、周囲への影響はなさそうだと、無い見込みだということまで今に至っているということです。以上でございます。</p>
6 番議員	<p>今、今の時期の補正ということで、遅過ぎではないのかなということでお聞きしたんですけど、いかがでしょうか？</p>
総務課長	<p>はいお答えいたします。時期的にいいと言いますと確かに 3 月の段階でこれが間に合ったかどうかという部分になると思います。通常考えますと、掘削、基礎等の掘削ということですので、理想で言えば 3 月の定例会が理想ではなかったかという反省もございます。気をつけるようにしたいと思います以上です。</p>
議 長	<p>33 ページ、積立金つづき、目 7 総合センター運営費、目 8 駅周辺運営費。</p> <p>34 ページ、駅周辺運営費つづき、項 2 徴税费、目 1 税務総務費、目 2 賦課徴収費。</p> <p>35 ページ、項 3 戸籍住民登録費、項 4 選挙費、目 2 北牧財産区議員一般選挙費。</p> <p>36 ページ、北牧財産区議員一般選挙費つづき、目 3 衆議院議員総選挙</p>

	<p>費、項5統計調査費、項6監査費。 37 ページ、款3民生費、項1社会福祉費、目1社会福祉総務費。 38 ページ、社会福祉総務費つづき、目2老人福祉費。 39 ページ、老人福祉費つづき、目3やすらぎ園運営費、目4心身障害者福祉費。 40 ページ、心身障害者福祉費つづき、目5あゆみ園運営費。 41 ページ、項2児童福祉費、目1保育所費、目2児童措置費。 42 ページ、児童措置費つづき、目3児童館運営費、目4結婚推進・子育て支援費。 6 番的埜美香子くん。</p>
6 番議員	<p>はい、6 番的埜です。3 目の報酬ですけど、先ほど特に説明なかったんですけど、児童館の保育士結構な減額なんですけど、これはどういった理由でしょうか？お願いします。</p>
教育長	<p>はい。265 万 2000 円を減額をさせていただくという内容でございます。これにつきましては当初予算で5 人分の保育士を計上してございました。そういう中でありますが、なかなか人手不足というか、保育士がお願いができなかったというか、準備ができなかったということで、今携わっている人間でやりくりをして、今年度というか、令和6 年度は過ぎたということで、これこの数字が賃金として余ってきたという内容でございます。以上でございます。</p>
議 長	<p>43 ページ、結婚推進・子育て支援費つづき、款4衛生費、項1保健衛生費、目1保健衛生総務費、目2予防費。 44 ページ、予防費つづき。 45 ページ、予防費つづき、目3保健事業と介護予防の一体的実施事業費、項2生活環境衛生費、目1生活環境衛生総務費。 46 ページ、目2塵芥処理費、目3し尿下水処理費、目4住宅管理費、目5町営バス運行管理費。 5 番渡邊晃子くん。</p>
5 番議員	<p>はい、5 番です。お願いします。4 目住宅管理費ですが、10 需用費 10 節町営住宅の修繕なんですけども、ちょっと確認の意味も込めて、3 月に補正で95 万だったと思うんですが、で、今回81 万2000 円減額、ちょっとこれはどういうことなのかご説明をお願いします。</p>
町民課長	<p>はい、3 月補正しております部分についての修繕は実行しておりますし、また、それ以前の修繕をしております。その中での余剰というものの積み重ねを精算した分ということで、ご解釈いただければと思います。</p>
議 長	<p>47 ページ、町営バス運行管理費つづき、款5農林水産費、項1農業費、目1農業委員会費、目2農業振興費。 48 ページ、農業振興費つづき。 6 番的埜美香子くん。</p>
6 番議員	<p>はい。6 番です。お願いします。農業振興費ということで、先ほど説明いただいたんですけど、2 目の18 節の関係で新規就農者の総合対策</p>

	事業ということで該当がなかったというご説明でしたが、県の補助金があると思うんですけど、その関係の減額補正はないのかどうか、お願いします。
産業建設課長	はい、この18節の新規就農者総合対策事業でございますが、実際に年度末で1件の申請がありまして、ビニールハウスを建てる申請だったと記憶しております。それで、その他に申請がなく落とさせていただいたということなんですが、県の補助金の方の事業は、無いと思うんです。この新規就農総合対策事業という新規農業に携わる人にビニールハウスとかいろいろな資材とかそういうのを提供する。補助する事業ということで、うん町独自の事業だというふうに承知しております。
6番議員	そうすると県の補助の新規就農者育成総合対策事業とは関係ないのか。
産業建設課長	ええ関係は、農業のことですから関係はあると思うんですけども、県の事業は利子補給それから信用保証の分の補助事業だというふうに思っていますが、ちょっとよく調べてまた報告します。
議長	49 ページ、農業振興費つづき、目3畜産振興費、目4農地費。 50 ページ、項2林業費、目1林業振興費、目2県有林受託事業費。 51 ページ、県有林受託事業費つづき、目3林道費、款6商工費、項1商工費、目1商工業振興費。 52 ページ、商工業振興費つづき、目2観光費。 53 ページ、観光費つづき、目3国際交流センター運営費。 54 ページ、国際交流センター運営費つづき、目4松原湖高原観光交流センター運営費。 55 ページ、松原湖高原観光交流センター運営費つづき、款7土木費、項1土木管理費、目1土木総務費。 56 ページ、土木総務費つづき、項2道路橋梁費、目1道路維持費。 6 番的埜美香子くん。
6番議員	6番、お願いします。項2の道路維持費ということで、12節の委託料の関係ですけど、先ほど説明いただいたんですけど、これの測量設計管理調査委託料元のその769万ってあるんですけど、これがどこから出てきた数字なのかちょっと見当たらずで。それどの項目がこれ減額なのかということをお願いしたいです。
産業建設課長	測量設計委託につきましては、当初予算集落内の舗装ですとか、修繕の設計に200万。それから本間川の小海高校入っていく一番取っ付けのカーブのところを設計するので2号補正で451万。そして地方創生の道整備交付金に申請するにあたり110万。それから道整備の概算設計55万ということで、やっておりました。それが3月実績によりまして、集落内舗装修繕設計等につきましては、親沢の道路改良の設計187万で済みました。そして本間川の概算設計341万ですが、335万5000円で済みました。そして、3つ目の地方創生の道路、4番目の概算設計につきましては、165万円で済みましたということで、これらを当初

	予算から引いてきますと、これだけ余ったということでございます。
6 番議員	はい、何項目にもわたるといことなので、委員会の方で細かい、今言われました数字の方出していただきたいと思います。3月実績ということなんですけど、これまたどうして3月の時点で、載ってこなかったのか減額しなかったのかということをお願いします。
産業建設課長	様々な工事が動いていまして、3月に議会に間に合わせるように補正を組むこと、減額補正をすることが間に合いませんでした。申し訳ございませんでした。
議長	57 ページ、道路維持費つづき、目2道路改良舗装費。 58 ページ、項3都市計画費、目1都市計画事業費、款8消防費、項1消防費、目1非常備消防費。 6 番的埜美香子くん。
6 番議員	はい、6 番です。すいません上の都市計画事業費の関係ですけど、報酬都市計画審議会報酬ということで、12 月にわざわざ補正して増やしたと思うんですけど、結局のところ何回やったのか、なぜ補正してまで12月にね、補正したのにマイナスなのか。ちょっとその辺りをお願いします。
産業建設課長	先だっの議会で指摘された、回数が誤って3回の計上をしております、この中二つに分かれております。一つは、中部横断道自動車道の都市計画審議会。これにつきましては、佐久市の都市計画の決定で、中部横断道の南佐久南部以南が決まってくるということで、この中部横断道に関する都市計画については、予算を上げておかないと、いつ開かなければいけないかっていうことがわかりませんので、毎年これについては挙げさせていただいております。そして公園都市計画公園の審議会の方2回やるということですが、実際には1回で終わってしまいました。2回目は先進地を視察しようということで計画をしておったんですが、時間的にちょっと間に合わなくて、このような結果になってしまいました。以上です。
議長	59 ページ、款9教育費、項1教育総務費、目1教育委員会費、目2事務局費。 60 ページ、項2小海小学校費、目1学校管理費、目2教育振興費。 61 ページ、教育振興費つづき。 62 ページ、項3社会教育費、目1社会教育総務費、目2公民館費。 63 ページ、公民館費つづき、目3美術館運営費、目4音楽堂運営費、項4保健体育費、目1保健体育総務費。 64 ページ、目2小海小校学校給食費、目3スケートセンター運営費、款10災害復旧費、項1公共土木施設災害復旧費。 65 ページ、項2農林施設災害復旧費、款11公債費、項1公債費、目1元金、目2利子、款12予備費。
議長	その他全体を通じて質疑のある方はございますか。 12 番渡辺均くん。
12 番議員	12 番渡辺でございます。初めての予算で、補正予算で昨年度までの実

	<p>績はよくわからないところがありますので少し質問意見が矛盾するかもしれませんが、総じて補正予算っていうのは本来緊急的に配置する予算があつて、今年度これが第8号ということは、昨年度ですね、そういう緊急事態がかなり頻繁に生じたということがあつたのかどうかというのが一点と、それから予算内容について予算について予算の実行額がおおむね余ってるっていうか、緊急性がないにも関わらず出ているような費目があつて、補正に類さないような項目も多々あるんじゃないかと具体的に言えば画面上で見てるんでどこがどうってうまく言えないんですけども、印象として三角マークが結構項目ごとに付いていて、消化しきれない予算がついている帰来があるんじゃないかと。その辺について理事者側の見解をお聞かせいただければと思います。</p>
総務課長	<p>はい、お答えいたします。まず補正予算につきましての回数ということでございます。議会の定例会では4回でございます。その他にも場合によっては予算のために臨時議会の招集をお願いするというのもございます。なるべくこの定例会に合わせて計画も補正のあるものはしたいということですが、やはり年間4回っていうことは実施をしていく中では、緊急突発的に発生するものもございまして、途中でどうしてもお願いする。予算計上をお願いする、そういったことが出てきてしまいます。それなので大体6回8回そのような補正の回数があるわけですが、ご容赦いただければと思います。実行額についてということですが、今回の補正につきましては専決なるべく実態に合わせたものということで、決算に合わせたような数字のための補正専決をお願いしたところでございます。大幅な減というものもあるわけですが、当初予算に計上する際というのはあくまでも見積もりということでございます。実施前の数字ですので、どうしても実施前実施後、これが変わらない数字であればとてもやりやすいわけですが、特に工事のようなものを始めてみてそれで実際の実績がわかる。そしてそれは、同様の数字ではないということが往々にしてございますので、そこはまた決算というところでご審議いただければありがたいと思います。余分に予算をいただくとか、余分に実行させていただくというものではございませんので、そのあたりも内容を精査していただきまして、私達も最少の予算で最大の効果が図れるような、そういった行政を進めていきたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしく申し上げます。以上です。</p>
12 番議員	<p>はい、概要はわかりました。ただ項目の中にね、当初かなりきちんと見込めるような類の項目もあるんじゃないかと。例えば、ゴミの処理量とかですね。そういったものは経年変化を見れば、かなり精度高く予算設定ができると私は思うんですけど、その辺はいかがでしょう？</p>
町民課長	<p>はい、お答え申し上げます。ゴミにつきましては、今のところクリーンセンターへの搬入につきまして、目標的なものを持っておりますのが860tというところを年間の処理量の小海町の分ということで目標値</p>

	を立てて、その数に関してt当たり3万9500円という処理量を払っているというような状況でございます。ゴミは啓発をしておりますので、減量化には向かっておるとい状況ではあります。必ずしもそれ以上のものというかそれ以下になるか、増えるかというのはちょっと見込めない部分もありますので、常に860tという基準値から予算を算出しているというところがございます。減っているのでもそこら辺に合わせてという部分もございしますが、できればその年間の中での変化もわからない部分もありますので、クリーンセンターの方で示されている基準値の860tというところで予算立てをしているというようなところでございます。
6番議員	6番的埜です。すみません戻ってしまいますけど、57ページの道路維持費の関係ですけど、道路維持費の工事請負費、交通安全施設工事ということでプラス174万ということですけど、これ何か緊急の工事でもあったのかどうか、お願いします。
産業建設課長	はい、交通安全施設の施工工事は、町の皆さんの交通の危険箇所、カーブミラーですとか、区画線、それからガードレールと緊急を要することに、命に関わる安全政策の工事ということで、予算も大切なんです。が地区から挙がりましたこういう危険な箇所っていうところを、修繕していくということで増額補正になってしまいました。が、そういうことです。すみません。
6番議員	はい、その上の道水路の方の維持修繕ということで、マイナスになっているのもあったのでちょっとお聞きしたいんですけど、渡辺議員じゃないですけど、総じて専決補正でね歳出の大幅な追加っていうことが目立っていますので、やはりこれは事前に補正予算で処理すべきものじゃないかと思ます。
産業建設課長	これ水路維持補修じゃなくて道水路ですね、道路それから水路の維持補修ということで、この工事はこの工事。そして交通安全施設の工事につきましては、これを流用してやると以前にもお叱りをいただいたもので、こういうふうにつきっきりと増額するものは増額、減額するものは減額ということでやらさせていただきました。
議長	これで質疑を終わります。
日程第9 「承認第3号」	
議長	日程第9、承認第3号「令和6年度小海町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）について」を議題といたします。 事務局長に議案の朗読を求めます。 小平事務局長。
	(事務局長朗読)
議長	朗読が終わりました。本案について提案理由の説明を求めます。 井出町民課長。
	(町民課長説明)

議 長	<p>説明が終わりました。これから質疑を行います。歳入歳出とも補正予算書でページごとに行います。質疑のある方は挙手をお願いします。</p> <p>歳入、7ページ、款1国民健康保険税、款2使用料及び手数料、款3国庫支出金。</p> <p>8ページ、款4県支出金、款5財産収入、款6繰入金。</p> <p>9ページ、繰入金つづき、項8諸収入、項1延滞金及び過料、項2雑入。</p> <p>歳出、10ページ、款1総務費、項1総務管理費、項2運営協議会費。</p> <p>11ページ、項3趣旨普及費、款2保険給付費、項1療養諸費。</p> <p>12ページ、療養諸費続き、項2高額療養費、項3出産育児諸費。</p> <p>13ページ、出産育児諸費つづき、項4葬祭諸費、項5移送費、款3国民健康保険事業費納付金。</p> <p>14ページ、国民健康保険事業費納付金つづき。</p> <p>15ページ、款4保健事業費、項1特定健康診査等事業費、項2保健事業費、款5基金積立金。</p> <p>16ページ、基金積立金つづき、款6諸支出金、款7予備。</p> <p>全体を通じて質疑のある方はございますか。</p>
(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。
<p>日程第10 「承認第4号」</p>	
議 長	<p>日程第10、承認第4号「令和6年度小海町介護保険事業特別会計補正予算（第5号）について」を議題といたします。</p> <p>事務局長に議案の朗読を求めます。</p> <p>小平事務局長。</p>
(事務局長朗読)	
議 長	<p>朗読が終わりました。本案について提案理由の説明を求めます。</p> <p>井出町民課長。</p>
(町民課長説明)	
議 長	<p>説明が終わりました。これから質疑を行います。歳入歳出とも補正予算書でページごとに行います。質疑のある方は挙手をお願いします。</p> <p>歳入、7ページ、款1保険料、款2使用料及び手数料、項1手数料、項2使用料。</p> <p>8ページ、款3国庫支出金、款4支払基金交付金、款5県支出金。</p> <p>9ページ、款7財産収入、款8繰入金。</p> <p>10ページ、繰入金つづき、款10諸収入。</p> <p>歳出、11ページ、款1総務費、款2保険給付費、項1介護サービス等諸費。</p> <p>12ページ、介護サービス等諸費つづき。</p> <p>13ページ、介護サービス等諸費つづき。</p> <p>14ページ、介護サービス等諸費つづき。</p>

	<p>15 ページ、介護サービス等諸費つづき、項2介護予防サービス給付費。</p> <p>16 ページ、介護予防サービス給付費つづき。</p> <p>17 ページ、介護予防サービス給付費つづき。</p> <p>18 ページ、項3その他諸費、項4高額介護サービス費。</p> <p>19 ページ、高額介護サービス費つづき、項5高額医療合算介護サービス等費。</p> <p>20 ページ、項6特定入所者介護サービス等費。</p> <p>21 ページ、特定入所者介護サービス等費つづき。</p> <p>22 ページ、特定入所者介護サービス等費つづき、款3地域支援事業費、項1日常生活支援総合事業費。</p> <p>23 ページ、日常生活支援総合事業費つづき、項2一般介護予防事業費。</p> <p>24 ページ、項3包括的支援事業任意事業費。</p> <p>25 ページ、括的支援事業任意事業費つづき、項4その他諸費、款4基金積立金。</p> <p>26 ページ、基金積立金つづき、款5諸支出金、款6予備費。</p> <p>その他全体を通じて質疑のある方はございますか。</p> <p>12 番渡辺均くん。</p>
12 番議員	<p>12 番渡辺でございます。総じてですね、予算額に対して実際の利用額が少なくマイナスになっておりますが、その背景としては、先ほど利用者数が減るって言うようなことを言っていましたけども、もう少しその実際に利用の必要性があって、しかしながら、利用できないような人とかですね、そういったことの懸念はないのか。ちょっと見解をお聞かせください。</p>
町民課長	<p>こちらにつきましては、利用できないというような懸念ということはないというふうに思います。この計画は第9期の計画ということで、計画の中ではこの利用者の増減というものを前年第8期計画の中のものに基づいて第9期の計画を立て、この数値を出しているということで、計画の1期目今回は2年目になるようになりますが、1期目の6年度の部分について計画に対しての数値が精算で出てきているというような状況でありまして、数値の中でもやはり利用される方は予定よりは少なかったという状況の見込み、見解でございます。利用者の中では、今6年度についていう中では利用の中で、介護度というものがありますが、介護度の高い方というのは報酬収益が上がる部分でございます。ですが、介護度が低い方というのは収益的なものがそれほどない部分もございますので、そこら辺の兼ね合いというものも今回の6年度の中では出てきているというのが一つの要因でございますので、これはまたやはり介護度の高い方が多い年と少ない年という波は必ず出てきますので、そこまではちょっと私どもも予測というのとはできない部分がございますので、6年度はそのような形の波のちょっと介護度の低い方の部分が出てきたんではないかというふうに分析はしてございます。</p>

議 長	これで質疑を終わります。
日程第 11 「承認第 5 号」	
議 長	日程第 11、承認第 5 号「令和 6 年度小海町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 2 号）について」を議題といたします。 事務局長に議案の朗読を求めます。 小平事務局長。
(事務局長朗読)	
議 長	朗読が終わりました。本案について提案理由の説明を求めます。 井出町民課長。
(町民課長説明)	
議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。歳入歳出とも補正予算書でページごとに行います。質疑のある方は挙手をお願いします。 歳入、5 ページ、款 1 後期高齢者医療保険料、款 2 使用料及び手数料、款 3 繰入金。 6 ページ、款 5 諸収入、項 1 償還金及び還付加算金、項 2 雑入。 歳出、7 ページ、款 1 総務費、款 2 後期高齢者医療広域連合納付金。 8 ページ、款 3 諸支出金、款 4 予備費。 その他、全体を通じて質疑のある方はございますか。
(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。 ここで 2 時 25 分まで休憩とします。 (ときに 14 時 09 分)
日程第 12 「議案第 31 号」	
議 長	休憩前に引き続き会議を開きます。 日程第 12、議案第 31 号「小海町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。 事務局長に議案の朗読を求めます。 小平事務局長。
(事務局長朗読)	
議 長	朗読が終わりました。本案について提案理由の説明を求めます。 井出町民課長。
(町民課長説明)	
議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。 質疑のある方は挙手をお願いいたします。
(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。
日程第 13 「議案第 32 号」	

議 長	日程第 13、議案第 32 号「災害に際し応急措置の業務に従事した者に係る損害賠償に関する条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。 事務局長に議案の朗読を求めます。 小平事務局長。
(事務局長朗読)	
議 長	朗読が終わりました。本案について提案理由の説明を求めます。 井出町民課長。
(町民課長説明)	
議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。 質疑のある方は挙手をお願いいたします。
(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。
日程第 14 「議案第 33 号」	
議 長	日程第 14、議案第 33 号「小海町消防団員の定員・任免・給与・服務等に関する条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。 事務局長に議案の朗読を求めます。 小平事務局長。
(事務局長朗読)	
議 長	朗読が終わりました。本案について提案理由の説明を求めます。 井出町民課長。
(町民課長説明)	
議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。 質疑のある方は挙手をお願いいたします。
(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。
日程第 15 「議案第 34 号」	
議 長	日程第 15、議案第 34 号「令和 7 年度小海町一般会計補正予算（第 2 号）について」を議題といたします。 事務局長に議案の朗読を求めます。 小平事務局長。
(事務局長朗読)	
議 長	朗読が終わりました。本案について提案理由の説明を求めます。 吉澤総務課長。
(総務課長説明)	
議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。歳入歳出とも補正予算書でページごとに行います。質疑のある方は挙手をお願いします。

	歳入、7ページ、款13分担金及び負担金、款15国庫支出金、款16県支出金。 6番的埜美香子くん。
6番議員	はい、6番的埜です。県支出金の衛生費の補助の関係ですけど、循環型、そのすいません。国の方ですね国庫支出金の衛生費補助金、清掃費補助金の循環型社会形成推進交付金ということで出てますけど、3月の当初の予算の中で、県の補助金だけだったと思います。それで質問したところ、国には申請しないというふうな答弁だったと思うんですけど、どうして今回こういうふうになってくるのか、ちょっとその辺説明をお願いします
町民課長	ご説明申し上げます。3月時点は6年度の実績的なもので数がそれほどなかったという部分がありましたので、6年度の実績を踏まえて申請を行わないでおこうというふうに考えてございました。ですがここに来まして、4月5月で合併浄化槽の申請というものが上がってくるのはかなりちょっと件数が二、三件と出てきておりましたので、ちょっと私どもの予想を上回るという感覚でございましたので、ちょっと私どもが見積もりが甘かったかなという部分がございますので、それで今回また急遽追加というような形で補正をさせていただくということでございます。
6番議員	そうすれば、この合計額が県と国とで違ってきてるんですけど、もうこれはこのまんまということではよろしいのか。お願いします。
町民課長	県と国の方では違うという形はこのままでいきたいというふうに思っております。県の方は修正がききますが、国の方については、ある程度のスパン3年4年の中での調整という形をとるようでございますので、そこでまた調整をかけていくというふうに考えてございます。
議 長	8ページ、款18寄付金、款19繰入金。 6番的埜美香子くん。
6番議員	はい、6番です。ふるさと寄付金の関係ですけど、先ほど説明で歳出の方で返礼品の見直しなどあるという話だったんですけど、この200万というのは確実に見込めるということなんでしょうか？
総務課長	はいお答えいたします。どちらかといいますと、歳出の方をご覧くださいんですけども、10ページの企画費でございます。7節に30万円役務費としてふるさと寄付金の広告料として6万円。そして12節委託料にふるさと寄付金の業務委託これが66万計上をされております。こういった経費を計上するに当たって、200万円これをどう見るかということにはございますけれども、期待値も含めてこういった費用をかけることによって、消費ふるさと寄付金の内容も変えていくということで、収入増を見込みたいそのように考えての計上ということでございます。ちなみに昨年度ここ数年1400万円ほどの寄付金をいただいているわけですけども、もう少し伸びるのではないかとということでこの事業に取り組みたいということでございます。以上です。
議 長	歳出、9ページ、款1議会費、款2総務費、項1総務管理費、目1一

	<p>般管理費、目2財産管理費。 10 ページ、目4企画費。</p>
12 番議員	<p>先ほどは失礼いたしました。この企画費の中で地域活性化企業人の項目が何項目かに渡っておりますが、これの事業意図とそれからどういう人に何を委託して、どういう成果を期待するものなのか。また、どこまで緊急性があるのか、その辺をお聞かせいただきたいと思えます。</p>
総務課長	<p>はい、お答えいたします。まず地域活性化企業人の制度からお答えいたしたいと思えます。こちらは企業、名称にも入っております企業人、企業と地方の地方公共団体が協定書に基づいて社員を地方自治体に一定期間派遣するというもので、その目的は地方自治体が取り組む地域課題に対して企業の社員がそのノウハウを生かしながら、地域活性化に取り組みをしていく。そういうものでございます。これにつきましては昨年度からことは始まっております。Revive という事業、これは企業の皆さんが有志で集まっていたいて、小海町でテーマ設定はするわけですけれども、農業振興であったり、それから空き家の利活用、そういったテーマで昨年はお集まりいただいたわけですけれども、各々、集まっていたいて、小海ではこのような取り組みをしたらいかがかというように提案していただいた事業が、Revive という事業でございます。その中でグループがありまして、その中から一ついいものであれば、採用というようにすることで、その採用をしたものが小海町での空き家を活用した食用花の栽培ということでございます。空き家を利用して室内で食用花を栽培する。他の地域で実際に行われているもの、そういう確認もした上で実際にその花も市場に出回っていてどんどん増やしたい。そういう要望もあるようなことでございます。本年度の小海では、今年度の当初予算に空き家を改築してそういう場所を設けましょうという費用が計上されております。そして今回、この地域活性化企業人の費用を計上させていただきましたのは、それを実行していくための人件費ですね。ただいるだけでは駄目なんですけれども、ノウハウを持ってこれを前へ進めていく。そういう方を採用し、そしてそれを実現していくというような事業の内容でございます。かなり具体的なものを実施にあたっては、細かい打ち合わせをして本当にそれを実証して成果も上げる。そんなようなことを計画しての計上となっております。緊急性といいますのは、もうこの事業を当初予算で進めていくということですので、それをまた人もね関わる人もいないといけないので、今回計上させていただいたわけですけれども、もっと早く決まっていれば当初予算でも計上をさせていただきたいぐらいの内容だったわけですけれども、今回数字等確定しましたので計上させていただきました。以上です。</p>
12 番議員	<p>概略はわかるんですけど、これはまたいずれ検討しなくちゃいけないんですけども、何人ぐらいがどういうスキルを持った方々が町にどういう成果をもたらすのか。それをどういうふうに町は期待しているのか。それからもう一点は、先ほど、昨年度からスタートしたっておっ</p>

	<p>しゃいましたけども、昨年度からスタートしているのであれば、当然今年度の一般会計の方の計画で手当すべきであって、なぜ人が必要だから補正だっていう答弁は私は成り立たないと思うんですよね。サービス業はすべからく人ですから。そしたら全てのものに補正に対象になっちゃう。そういうことじゃないかと思うんで、私見を言う場合じゃないんでこれ以上申しませんが、どういう成果をどういう形で小海町にもたらすのか、その計画を具体的に書面か何かで提出していただきたいと思うんですがいかがでしょうか？</p>
総務課長	<p>はい、資料など用意をしまして、予算決算の常任委員会において内容詳しく説明もさせていただいたり、したいと思いますのでよろしくお願ひします。以上です。</p>
6番議員	<p>6番です。今の関係ですけど、Revive の関係だということで3月のときにも説明があったんですけど、これ結局あの採択になったということで捉えていいんでしょうか。国の。</p>
総務課長	<p>はい。お答えいたします。これはこの事業をやって補助金をいただくというものではございませんで、この費用を地域活性化企業人の制度を利用した場合に、経費の一定の部分を特別交付税でみれる。それが財源というようなこととなりますけれども、補助をもらうというわけではありませんので、これは事業実施したらそれを計上していくということで、ある程度の補填は受けられるという内容のものでございます。以上です。</p>
6番議員	<p>財源の方は国からの助成はないということでしょうか。一般会計というふうに、一般財源になってるんですけど、これ財調基金ということなんでしょうか？お願ひします。</p>
総務課長	<p>はい、お答えいたします。計上は一般財源で計上して措置しておきまして、今後、特別交付税の措置をしていただくように申請をするというものでございます。以上です。</p>
議 長	<p>3回目ですのでまとめてください。</p>
6番議員	<p>財源、特別交付税でということなんですけど、やはりこれ財調を充当するんじゃなくて、地方交付税に改めるべきじゃないかと思ひますけど、その辺どうでしょうか？</p>
総務課長	<p>はい、お答えいたします。一般財源で措置をしておく。これも予算上の費用ということになります。実績は実際にどのくらいになるのかという部分もありますので、計上しておいて制度上は特別交付税措置ができるということになっておりますので、そういうことで今後計上していくようにさせていただきたいと思ひます。</p>
議 長	<p>11 ページ、企画費つづき、目8 駅周辺運営費、項2 徴税費、目1 税務総務費、目2 賦課徴収費。 12 ページ、賦課徴収費つづき、項3 戸籍住民登録費、項4 選挙費、目4 小海町議会議員一般選挙費。 13 ページ、款3 民生費、項1 社会福祉費、目1 社会福祉総務費、目3 やすらぎ園運営費、目5 あゆみ園運営費、項2 児童福祉費、目1 保育</p>

	<p>所費。 14 ページ、保育所費つづき、目 3 児童館運営費。 15 ページ、款 4 衛生費、項 1 保健衛生費、目 1 保健衛生総務費、項 2 生活環境衛生費、目 1 生活環境衛生総務費、目 3 し尿下水処理費。 5 番渡邊晃子くん。</p>
5 番議員	<p>5 番渡邊です。お願いします。生活環境衛生費ですけれども、生活環境衛生総務費 11 節役務費、先ほど河川大気土壌など以前に加えてまた行うというだけのご説明だったんですが、それではちょっと説明がわかりにくい。もう少し詳しくお願いします。</p>
町民課長	<p>はい、お答え申し上げます。今年度当初予算では水質検査ということで、河川の上流 1 ヶ所、下流 1 ヶ所というような形で検査を設けてございます。そこで今回の検査増額というところでもございまして、まず下流 1 ヶ所の追加でございまして、また大気汚染の調査ということでこれも 1 ヶ所。また土壌を検査ということでこれを 1 ヶ所増やしたいということでございまして。これは土壌検査以外は令和 5 年度ですかね。また地区の要望がございまして、検査の数を増やしたという経過もございまして、今年度また地区の要望と去年今年ということで強い要望でしておりますので、町としてもまず大気水質その他の調査を数を増やして行いたいということで、予算計上させていただきました。</p>
5 番議員	<p>はい、地区からの強い要望ということで、実際やって何かあったとかそういうわけではないのか。そのあたりは。</p>
町民課長	<p>去年今年というような形では、リサイクルセンターの対応を何とかしてほしいというような要望が出ておりますので、以前に比べ去年今年という中では地区要望の中で大きく取り上げてきている部分がございますので、その中でまず町としてはその対応としてこの調査の数を増やして、もう一度検査の数値を確認したいというところで増額補正をいたしました。</p>
6 番議員	<p>ただいまの件ですが、6 番です。本間地区の方からの話ですとその下流域の方の数値、環境基準値を超えたという話をお聞きしたんですけど、経緯としてはそういうことがあったんじゃないかと思うんですけど、そのあたりもう一度お願いします。</p>
町民課長	<p>はい、数値検査につきましては、去年 1 回検査をしてございます。その中では若干の数値が基準値より上回ったという部分がございます。これにつきましては水質のみならず土壌も混じっていたという部分もございまして、その中の検査でございまして、やはり正規なものというところはちょっと信憑的なものがしっかりしないという部分もございまして。その中で今回はしっかりとした調査、土壌水質ともにやっていきたいということで予算計上をさせていただきました。</p>
6 番議員	<p>はい、このことに関して本間地区の方から要望書を出したという話で、それそういったことに対して回答もされてるんですけど、これやはりダイオキシンがねすごく数値が高かったってということで、本当に地域の人から心配されている、そういった声がある中で、もちろん箇</p>

	所を増やすっていうことも必要かもしれないですけど、根本的な解決をどのように考えているか。本間の方からはやっぱり残処理、産廃の残ったものを片付けていただきたいっていうそういう要望が出ていると思うんですけど、そのあたりはどのように考えているか。計画的にやっていくつもりなのかどうか。ちょっとその辺りお願いします。
町民課長	はい、確かに去年今年というような形で、本間区より撤去というような形の強い要望が出てございます。町としましては、これ産業廃棄物ということになりますので、許可権者が県ということになりますので、町として単独で行うというところは難しいところがございますので、廃棄物処理ということになりますと、県との協議というか協力相談をしていかなきゃいけないというふうに思っておりますので、今後県の方と、また地区の要望が出ている中の中身をまた県と協議しまして、またその旨どのような対応をしていったらいいかということを検討していきたいというふうに考えてございます。
議 長	的埜美香子くん、3回目です。
6 番議員	今後県との協議という話なんですけど、今回の予算的にも、これ町が負担しなければならないのか、そのあたりはどうでしょうか？
町民課長	水質検査的なものというのは町の負担ということでございますが、県の方としましては今のところ最終的な処理を行った部分で、今後は監視を続けていくということに移行しておりますので、水質調査その他ということには取り組まないという部分がございますので、町として何か本間区のためにやるとすれば、水質検査とかこういう土壌検査ということで対応していくしかないかなというところがございますので、手法として予算を計上してございます。
議 長	16 ページ、し尿下水処理費つづき、目 5 町営バス運行管理費、款 5 農林水産費、項 1 農業費、目 1 農業委員会費、目 2 農業振興費。 6 番的埜美香子くん。
6 番議員	6 番です、すいません。16 ページ、農業振興費の先ほどご説明ありました最適土地利用総合事業ということで、親川方面という話だったんですけど、もう少し事業の説明をお願いします
産業建設課 長	最適土地利用総合事業でございますが、先ほど総務課長の方から出ました Revive 事業の中で提案をいただいて、一部採択した事業でございます。小海町に遊休農地、それから荒廃地等ございます。これを耕す開墾ドリームという提案をいただきまして、町の中の遊休農地それから農地、水田そういうものをどのように活用していくかということを進めていく事業でございます。この最初の目的は3年間で小海町に農業人 100 人を迎えるという提案をしていただきまして、その答申が大企業の皆さんが知恵を絞って、こういうことがいいんじゃないかということで、6 チームの中から採択した事業でございます。これ町で実行移すのに、何か補助事業はないかということで補助金ありきの事業なんですけども、農水省に相談をしたところこういう事業がいいんじゃないかということで、係の者が申請をしまして採択されました。そ

	<p>れでこの項目につきましては、1の報酬118万、それから手当32万4000円、共済費16万、それから旅費5万円、それから備品購入費7万6000円度事業でございます。この一番の事業の肝はやっぱりコーディネーターを採用しまして、今ある町の中の先ほど言いましたが、地区ごとに1地区ごとに補助事業が採択されますので今回はぶどう等をやってます親沢川平。それから笠原宿渡のところを1地区としてコーディネーターが入りまして、これからどのように利用していくかということで、地域計画それから農地バンク、中山間地、多面的そういうものと似ているんですが、こういうものと合わせながら、実際に活用計画を立て、そして実際に開墾していくという事業でございます。以上です。</p>
6番議員	<p>はい、今説明いただきました。新規事業ということで今説明の中でそのコーディネーターという言葉が出てきたんですけど、この会計年度任用職員がそのコーディネーターに当てはまるのか、その辺お願いします。</p>
産業建設課長	<p>はい、その通りでございます。そしてこの事業、土地改良連合会、それから農業支援センター等のご指導もいただきまして、ちょっと長野県でもやっているところが本当に少ないもんで、松川町、長野県松川町が先進地ということで、そこに倣って実施していきたいというふうに考えております。</p>
議長	<p>17 ページ、項2 林業費、目1 林業振興費、款6 商工費、項1 商工費、目1 商工業振興費、目2 観光費、目4 松原湖高原観光交流センター運営費。 5番渡邊晃子くん。</p>
5番議員	<p>5番です、お願いします。商工費の1目商工業振興費、Pポイント事業、これゼロからなんですけども、額小さいですがご説明お願いします。</p>
産業建設課長	<p>八峰温泉を利用いただきますと、カードのこういうのでPポイントをいただけます。これを観光費の方で温泉、それからやすらぎ園、その他に数々あるんですけども、そういうところでポイント配っていますが、そのポイントの財源は観光費のすみません、商工振興費の方で払っているということで、八峰の温泉ポイントがなくなりましたのでつけさせていただきます。</p>
6番議員	<p>6番です。その下の4目の委託料の関係ですけど、シルバー人材センター派遣ということでプラスというか0からですね、45万8000円ということなんですけど、これは何を委託するのか。お願いします。</p>
産業建設課長	<p>このシルバー人材センター委託費で派遣委託料でございますが、主にホールの人材をお願いするということでございます。厨房からフロント、ホールとございますが、交代制しかもフレックス制を引いて交代でやってますので、毎日出勤するわけにもいかないもんで、交代要員そういうものをハローワークの方にも求めているんですが、なかなか人材が集まらないということでシルバー人材に委託するというように</p>

	なりますと、ちょっと報酬等では払えないもんで委託料ということで計上させていただきました。
議 長	18 ページ、款 7 土木費、項 2 道路橋梁費、目 2 道路改良舗装費、項 3 都市計画費、目 1 都市計画事業費。 19 ページ、款 8 消防費、項 1 消防費、目 1 非常備消防費、款 9 教育費、項 2 小海小学校費、目 2 教育振興費、項 3 社会教育費、目 1 社会教育総務費。 6 番的埜美香子くん。
6 番議員	6 番です。防火水槽の関係ですけど、これやはり大幅な増額なわけですが、ただ先ほど説明もあったんですけど、起債の方の変更はないのか。お願いします。
総務課長	お答えいたします。当初のときにどのような組み方をしたかということですけども、確認をさせていただきたいと思います。委員会等の際に報告させていただきます。
6 番議員	6 番です。社会教育総務費の監的壕の関係ですけど、今回落石対策工事ということですが新規なわけなんですけど、これで何というか全部なのかどうか、監的壕の関係。お願いします。
生涯学習課長	はい、監的壕の関係でございますが、今回凍み上がり等によりまして射撃場の方から石が落ちる可能性が高いと、民家がすぐ近くにあるところで民家の被害を抑えるということで、今回補正を挙げさせていただいたということでございます。監的壕の方につきましては、全体的に言いますと木の伐採ですとかそういったものがあるわけですが、そういったものに関しまして前回から申し上げております通り、基本的に個人の財産ということでございますので、そちらの所有者の方とご相談申し上げながら進めてまいりたいということで考えております。よろしく申し上げます。
議 長	20 ページ、社会教育総務費つづき、目 3 美術館運営費。 21 ページから 25 ページ、補正予算給与費明細書。 21 ページ、22 ページ、23 ページ、24 ページ、25 ページ。 その他全体を通じて質疑のある方はございますか。 5 番渡邊晃子くん。
5 番議員	聞き損ねてしまいまして、10 ページに戻っていただきたいと思えます。企画費、総務管理費の企画費です。まちづくり推進委員会がこれもゼロからなんですけれども、6 月になって新規ということで、ちょっとこのまちづくり推進委員会の、どういう目的かなど概要をご説明をお願いします。
総務課長	はい、お答えいたします。まちづくり推進委員会、地方創生の各種事業、駅周辺事業それからワインぶどうの関係の事業、そして公園整備の関係の事業、様々ございますが、こちらの方で県の出先機関 UDC 信州というところから、昨年からですけども 1 名相談に入ってもらってるっていうか、まちづくり推進委員会の委員としてご委嘱申し上げます、相談に乗っていただいているということがございます。委員会これ

	からの事業を進める上で、今までは随時というようなことだったわけですが、これからは随時ではありますが、ある程度事業採択もいただきましたので、定期的にできればいいというような考えから 10 回分を、1名の 10 回分を計上させていただきました。途中ということではございますが、これから話し合いを進めてスムーズに事業が進むよう、ご指導もいただきながらということでございます。以上です。
5 番議員	はい、すみません。委員会ということなんですが、今 1 名 10 回分っていうのがちょっとよくわからないんですが、委員会の構成だとか、ちょっとその辺りももう一度お願いします。
総務課長	お答えいたします。これは内部的な組織、職員の構成でございます。ただその中に補助金を得たり、手続き上のことをご指導いただくということでして、町民の方が入って入るというような委員会ではないですけれども、扱いとすれば非常勤の特別職のその他の委員というような扱いにさせていただいて、この委員会として活動していきたいということでございます。以上です。
6 番議員	6 番です、すみません。同じページで委託料のところで障害者高齢者等住まい整備開発行為許可申請ということなんですけど、これは 3 月議会の方では補助対象外であるが、駅周辺の整備とあわせてというような、道路状況などの計画測量を行うというようなそういう答弁があったと思うんですけど、単独事業として行うのか。お願いします。
総務課長	はい、3 月の時点では当初予算の 500 万円、周囲の測量ですとかあと土地の鑑定費用というようなご説明を申し上げました。今回のものにつきましては、エリアをある程度を決めていくに当たりましてそれが 3000 m ² を超えてしまうというようなことで、開発行為の手続きが必要だということでございまして、その範囲その辺をどの程度にしたらいいかということが当初でははっきり決まっていなかったということがありますので、今回このように計上させていただいたという次第です。また全員協議会におきまして、駅周辺整備の中で、こちらの方もこれまで説明させていただいた経緯がございますが、また資料を持って説明させていただくということでお願いします。以上です。
議 長	これで質疑を終わります。
日程第 16 「議案第 35 号」	
議 長	日程第 16、議案第 35 号「令和 7 年度小海町介護保険事業特別会計補正予算（第 1 号）について」を議題といたします。 事務局長に議案の朗読を求めます。 小平事務局長。
	(事務局長朗読)
議 長	朗読が終わりました。本案について提案理由の説明を求めます。 井出町民課長。
	(町民課長説明)

議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。歳入歳出とも補正予算書でページごとに行います。質疑のある方は挙手をお願いします。 歳入、4ページ、款8繰入金。 歳出、4ページ、款3地域支援事業費。 5ページから9ページ、補正予算給与費明細書。 5ページ、6ページ、7ページ、8ページ、9ページ。
議 長	その他全体を通じて質疑のある方はございますか。 (質疑なし)
議 長	これで質疑を終わります。
日程第17 「請願・陳情等」	
議 長	日程第17、陳情第3号から陳情第8号についてを議題といたします。今定例会で受理した陳情は掲載したとおりであります。陳情書の朗読及び審議は、付託した委員会をお願いいたします。
○ 質疑終了	
議 長	以上をもちまして、承認、議案、陳情に対する質疑を終結いたします。
○ 常任委員会付託	
議 長	本日、議題としてまいりました承認第1号から議案第35号と、陳情第3号から陳情第8号は、会議規則第39条の規定により、掲載した議案付託表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託したいと思いますが、これにご異議ございませんか。 (異議なし)
議 長	異議なしと認めます。議案付託表のとおり付託しますので、よろしくご審査のほどをお願い申し上げます。
○ 散 会	
議 長	以上で本日の日程は全て終了いたしました。一般質問は5日、午前10時から行います。これにて本日は散会といたします。ご苦労さまでした。 (ときに15時42分)

令和 7 年 第 2 回	
小海町議会定例会会議録	
「第 4 日」	
* 開会年月日時	令和 7 年 6 月 5 日 午前 10 時 00 分
* 閉会年月日時	令和 7 年 6 月 5 日 午後 4 時 29 分
* 開会の場所	小 海 町 議 会 議 場
会 議 の 経 過	
<u>○ 開 会</u>	
議 長	<p>皆さん、おはようございます。今日は一般質問初日であります。</p> <p>議会改選後、初めての定例会による一般質問になります。今回は 6 名の議員の方が一般質問を行います。</p> <p>一般質問は、議員にとって最も華やかで意義のある発言の場であります。また、住民の皆さんからも重大な関心と期待を持たれる大事な議員活動の場であります。本日は傍聴の方々も大変いらっしゃっております。しっかり一般質問を行っていただきたいと思ひます。</p> <p>今回は 6 人ですが、次回はもっと多くの議員の皆さんの積極的な一般質問を期待いたします。</p> <p>議員の皆さんには、与えられた時間は 60 分であります。質問の時間、休憩を入れると、本日 1 日で終わるのはぎりぎりかと思ひます。よろしくご協力をお願いいたします。</p> <p>定刻になりました。ただいまの出席議員は 12 人であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。</p> <p>なお、議会の ICT 化推進の目的から、議場へのタブレットの持込みを許可します。</p>
<u>○ 議事日程の報告</u>	
議 長	<p>本日の議事日程は、掲載したとおりであります。</p> <p>本日答弁のため出席を求めた者は、町長、教育長、各課長、所長であります。</p> <p>なお、小池こども課長は療養により欠席とのことです。</p>

	暑いようでしたら、上着を脱いでいただいで構いません。
<u>日程第1 「一般質問」</u>	
議 長	日程第1、会議規則第61条の規定により一般質問を行います。 あらかじめ申し上げておきますが、同63条の規定により一般質問を行いますので、ご協力をお願いいたします。 それでは順次質問を許します。
<u>第7番 黒澤 敦史 議員</u>	
議 長	初めに、第7番 黒澤敦史議員の質問を許します。黒澤敦史君。
7番議員	<p>7番、黒澤敦史です。通告に従い質問させていただきます。よろしくお願ひします。</p> <p>質問の前に、一言ご挨拶を申し上げます。このたびの町議会議員選挙におきまして、町民の皆様から温かいご支援を賜り、再びこの議場に送り出させていただきました。心より感謝を申し上げます。皆様の信頼に応えるべく、初心を忘れず、誠実に職責を全うしてまいります。</p> <p>1期目の4年間を振り返りますと、町の現状を学び、町民の声を聞き、議会活動や情報発信を通じて課題の解決、特に休日夜間議会実現に向けて努力してまいりましたが、まだまだ道半ばであると痛感しております。今回引き続きご信託をいただいたことを重く受け止め、2期目はこれまで以上に力を注いでまいります。町当局の皆様、同僚議員の皆様には、何とぞご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、通告に従い一般質問に入らせていただきます。</p> <p>今回の一般質問では、地域で残さなければならない文化とはというテーマを取り上げたいと思います。</p> <p>少子高齢化と人口減少が進む中、ここ小海町もかつてない変化にさらされております。こうした事態において、私たちが未来に向けて何を守り、何を次世代に引き継いでいくかは、私たちに課せられた極めて重要な問いです。</p> <p>その答えの一つとして、私は文化の継承を挙げたいと思います。今回私の言う文化とは、単に歴史的建造物や年中行事を指すのではなく、地域に根差した暮らしや人々の営み、精神性、価値観の蓄積のことであり、地域の</p>

アイデンティティー。アイデンティティーとは、その存在の個性や主体性、独自性のことを言いますが、この地域のアイデンティティーそのものを指します。ちなみにですが、小学館デジタル大辞典によりますと、文化とは、人間の生活様式の全体、人類が自らの手で築き上げてきた有形、無形の成果の総体、それぞれの民族、地域、社会に固有の文化があり、学習によって伝習されるとともに、相互の交流によって発展してきたとあります。当町において、この文化の体現と言えるものは幾つか挙げる事ができます。まず挙げられるのがスケート文化です。当町には全面結氷する松原湖もあり、古くから冬季の代表的なスポーツとしてスケートが親しまれ、多くの子供たちが幼少期からスケート靴を履いてきました。学校教育やクラブ活動を通じてスケートに親しむ環境が整えられてきたことは、まさに地域の気候や風土と密接に関係しており、自然と人の営みが調和する本町の暮らしの象徴でもあります。このスケート文化は、単にスポーツとしての技術や競技成績を目指すだけでなく、身体の鍛錬、忍耐力、仲間との協調性を育む場であり、地域ぐるみで子供たちの成長を支える仕組みでもあります。

かつてこの町には、冬の間、使われない田んぼやグラウンドに水を張って凍らせ、天然の田んぼリンクとして活用していた時代がありました。小学校の体育の授業でも、この田んぼリンクが使われ、子供たちは自然の中でスケートを学びました。冬季においては、生活の一部になっていたと言っても過言ではないと思います。寒さに耐えながらも、保護者や地域の大人たちが協力してリンクを整備し、子供たちが滑る姿を見守っていたその風景は、まさに地域の文化の原風景であったと言えます。暖冬傾向と保護者の負担が大きいなどの理由から、現在はこのような取組は行われていませんが、私は、この田んぼリンクにこそスケート文化の本質があったのではないかと考えています。

それは、単なる競技の場ではなく、自然とともに生きる地域の知恵と人と人との助け合い、そして子供たちの成長を地域全体で見守るという文化そのものだったからです。このような精神こそが、地域に根づく文化の真の姿ではないでしょうか。保護者や地域の支援者がスケートを楽しむ環境、練習や大会を支え、町全体で一人一人の努力を見守るという風景は、地域のきずなを育み、町全体が人の家族のような連帯感を持つ文化的基盤を形成してきたと言っても過言ではありません。このような文化の存在は、地域の魅力の一端を担っており、外部の人々にとっても、訪れる理由や感動

の源となり得るものです。人を呼び寄せる人的交流の資源としての可能性を秘めているということは言うまでもなく、地域独自のイメージ向上にも寄与し得る要素です。

しかし、近年、気候変動や施設の老朽化、生活スタイルや意識の変化などにより、スケートに触れる機会が減りつつあります。授業時間の削減、少子化、競技人口の減少など、文化の継続には黄色信号がともっているといった状況です。こうした状況の中で、松原湖スケートセンターについては、特に費用面における維持の困難さについて、町民は高い関心を持っています。

私は、この施設が将来にわたり継続して運用されること自体には賛成の立場ですが、多額の費用を費やして、この施設への大規模な投資には十分な検討が必要だと考えています。それは、単に施設を整えることが文化の継承につながるわけではないというふうに思うからです。むしろ地域の人々がスケート文化の意義をどれだけ理解し、どれだけ自分たちの誇りとして捉えているかが、その文化を支える根幹になると考えています。仮に多額の予算を投じて施設を拡充したとしても、住民の理解や熱意がなければ、その施設は次第に使われなくなり、最終的には維持すら困難になるということも想定されます。

したがって、施設整備を進めるにしても、まずは住民がスケート文化の価値を再認識し、自らの手で守っていこうという気持ちが育ってこそ、真に意義ある投資となるのではないのでしょうか。スケート文化を守り継承するためには、教育や地域行事などを通じた働きかけが必要です。例えば小学校の事業の中では、スケートの技術指導だけでなく、その歴史的背景や地域との関係を学ぶ機会をつくることも考えられます。

また現在も、氷上トライアスロン小海大会では、子供たちにリンクの開放などが行われていますが、町を挙げてのスケートイベントの開催や著名な選手による講演、実演などにより、子供たちや保護者、地域住民全体にその価値を伝えることも重要です。さらには、町外に向けてスケートのメッカとしての情報発信を積極的に行うことで、地域の文化としての誇りを外部からの評価を通じて再認識するという効果もあるでしょう。

ここで町長にお伺いしますが、町は、このスケート文化を地域文化の中のどのような存在として捉えておられるのでしょうか。また、文化の継承という観点から、現在の施設整備や教育、小・中・高校との連携に関わる町の方針をどのように考えておられるかお聞かせください。

町長	<p>黒澤議員におかれましては、単にスケート場ということ以外のご指摘も多々お受けいたしました。まさにそのとおりであるというふうに感じております。この小海町のスケート場は、我が町において最大の文化施設の一つであるという、私は認識を持っております。</p> <p>そうした中、小海町だけではなく南佐久、長野県、そして全国においても、こういった施設がだんだん老朽化、そして維持管理が非常に難しくなっているということです。近隣で言いますと、茅野市、岡谷市も積極的な運営はしていかないという方針を出しております。</p> <p>しかし、こうした文化の中でも、特にこのスピードスケートというものは非常に地味で、そしてつらく、まず寒いということと、また家族、それから大変大勢の皆様にご協力いただかなければ存続できないというのが実情であります。</p> <p>そして、選手一人一人の負担も近年は大変多額なものとなっており、それに併せて、やはり町の出費のほうも多くなっているわけですが、これを文化として受け止めて継承していくということは、必要不可欠な問題であるというふうに私は認識しております。せっかく先人たちがああいう立派な施設を造っていただき、それを負の遺産とならぬよう、我々が十分努力をしていくということが大切ではないかというふうに思います。</p> <p>町の方針といたしましては、議員おっしゃるように、文化の継承とともに教育の一環としてスピードスケートを取り入れるということが必要だというふうに認識しております。したがって、底辺拡大のためにも小学校の授業から取り入れ、そして中学になりますとかなり専門的になります。そうしたときに、必ず起こってくるのが支援ということになるかと思えます。これは町のほうでも十分といかなくも、町の姿勢を示すことによって、その選手たちの気持ち、あるいは技術の発達につながるというふうに感じております。そして高等学校になりますと、今、長野市の市立長野に行く生徒もちらほら出てきております。それは、いいコーチがいるということが一番の目的でありますけれども、我が小海高校においても選手たちが非常に増えてきております。こうしたことも踏まえた中で、部活動の充実、そして教育の充実というものを踏まえた中で、捉えた形で運営をしていきたいというふうに思っております。</p> <p>そして、やはり松原湖スケートリンクに非常に大変お世話になっております南佐久スケート連盟という組織がありまして、この組織は本当に大会を継続していくのに絶対に必要な組織でありまして、今や全国大会も、その</p>
----	---

	<p>組織がなければ運営できないというような状況になってきております。この皆さんは、小海はもちろんですけれども、南牧・川上の農家の皆さんが中心になってやっていっておいでです。端的に申しますと、手弁当で参加していただいているというような形ですが、こうしたところにもある程度の支援をしていきたいというのが私の方針でございます。</p> <p>そして、議員おっしゃるように、これを町ぐるみ、先ほど家族ぐるみ、町ぐるみとおっしゃいましたけれども、やはりまさにそのとおりだというふうに思っております。町ぐるみ、家族ぐるみでこうした選手を大事に大事に育てるといふことと、それからスケートの経験をしていただくということで、先ほど議員おっしゃいましたけれども、氷上トライアスロンの前とか、そういった大会の前に、南佐久スケート協会、あるいは小海町の有識者の皆さんにご協力願っていただいているわけですが、まずは底辺拡大、そして親御さんが、やはりスピードスケートをやらせたいなというような気持ちに持っていくということが必要ではないかというふうに思っております。</p> <p>町の方針と問われましたけれども、方針とすれば、これは継続あるいは発展をさせていきたいと。その中には、先ほども出ましたけれども、他方面、広い中の皆さんとご協議をした上での進め方というものが必ず必要不可欠なものというふうに感じております。そうした多くの皆さんとのいわゆる協議を持って、これから進めていきたいというふうに思っております。継続はしていきます。</p> <p>以上です。</p>
<p>7 番議員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>大変大切な文化で、ぜひ継続発展させていきたいというお答えだったと思います。</p> <p>一方で、当町にはもう一つ長い歴史と独自の継承形態を持つ人形三番叟があります。この人形三番叟は、江戸時代から長きにわたり親沢区で守り継がれてきたものであり、現在では県の無形民族文化財にも指定されています。</p> <p>まずは簡単に、親沢の人形三番叟についてご説明いたします。人形三番叟は、毎年4月に親沢諏訪神社で春の祭典として開催されています。翁、千代、丈と言われる3体の人形を演者が操り、五穀豊穡を祈願する舞を奉納する農業祭事です。初演は一般に天明3年、1783年と伝えられていますが、人形の古い衣装の裏には宝暦6年、1756年の墨書きがあり、宝暦8年、1758</p>

年の往来入用帳にも三番叟のことが書いてあるそうです。人形が面をつけて踊る式三番は多いとのことですが、親沢諏訪神社のように、人形を操る古式豊かな芸能は少ないというふうに言われております。

また、その最大の特徴は、舞台上演じる弟子、その親方、親方を監督するおじっつぁと言われる役割をそれぞれ7年、合計21年という長期間務め、世代を超えてわざと心を受け継いでいくという非常に独特な継承形態にあります。この継承形態は、単に芸を保存するだけでなく、時間をかけて人が関わることそのものに文化的価値があると考えられ、生きた文化の象徴とも言えます。ところが現在では、少子化や若者の地域離れなどによりその担い手の確保が困難になってきており、来年は新たな弟子が演じるタイミングになるとのことですが、次の弟子の人数が確保できていないという深刻な課題が浮上している様子です。先日の新聞記事でも、人形三番叟の特殊性に加え、継承に不安を抱いている状況が紹介されていました。

私は、こうした文化の継承は、単に形式的に芸の形を残すだけでは真の継承にはならないのではないかと思います。この人形三番叟は、中央の芸能様式が地方に残る貴重な伝承例とも言われています。その意味では、単に地域の伝統行事という枠を超え、全国的にも文化的に重要な意義を持つ存在だと言います。さらに親沢では、地域内で妻のことをお方と呼ぶことがあるなど独特の言語文化も残っています。このような日常的な言葉の中にも、他の地域にはない独自性が宿っており、地域の文化的な奥深さや多様性を感じさせます。こうした一つ一つの風習や言葉に目を向けることも、地域文化への理解と関心を育てるきっかけになるのではないのでしょうか。

人形三番叟の価値は、その芸能そのものよりも、そもそもの本来のその意義、意味を知った上で、その精神性とその形を人が受け継ぎ、人が担うことにあります。継承の危機にある今こそ、なぜこの文化を守るべきなのか、なぜ次の世代に引き継ぐべきなのかを地域全体で再認識し、共有する必要があるはずです。地域の子供たちに人形三番叟の歴史や意味を学ぶ機会を設けたり、見学や体験を通して興味を持ってもらったりすることが、未来の担い手を育てる第一歩になります。ひいてはその積み重ねが、自分が生まれ育った故郷を大切に思う心、郷土愛にもつながるのではないのでしょうか。

また、担い手となる若者に対して、親沢だけでなく地域ぐるみで支援体制を築くことも重要です。さらには町内外の人々に向けて人形三番叟の魅力

	<p>を発信し、外部からの理解と応援を得ることも文化の持続性に資するでしょう。文化の継承には人が必要です。ただし、忘れてはならないのは、その文化を支える人が過剰な負担を抱えてしまってはならないという点です。</p> <p>実際に、全国的にも多くの伝統文化が存続の危機に直面している背景には、担い手の候補となる若者がそもそも少な過ぎる、負担が重過ぎて引き受けられない、時間的・経済的に余裕がないといった現実的な事情があります。文化の継承は、特定の個人の犠牲や無理によって成り立つものではなく、地域の中で無理なく役割を分かち合い、支える仕組みがなければなりません。文化とは人を疲弊させるものではなく、本来人をつなぎ、喜びや誇りを生むものであるはずです。地域の文化を未来へつなぐという大きな目的に向けては、関わる全ての人が無理なく互いに助け合いながら支える仕組みづくりが必要なのではないのでしょうか。</p> <p>ここで町長にお伺いします。人形三番叟を一つの例とした際に、地域文化を支える担い手の負担を軽減しつつ、担い手を確保する仕組みづくりについて、町としてどのような課題感や認識をお持ちでしょうか。義務感であったり惰性ではなく、文化を続けたいものとしていくために、今後どのような支援が必要だとお考えか、ご見解をお聞かせください。</p>
町 長	<p>親沢の三番叟につきましては、かつては人形を担当する家、笛を担当する家、そして鼓を担当する家ということで、一つの家がこれを継承して存続してきたという形、世襲と申しますか、そうした形で守られてきたのが実情でありました。</p> <p>しかし、ここへ来てこの少子化というようなことで、現在、その保存会というものになっておりますけれども、12名の演者が必要なんですけれども、親沢在住は3人ということで、あとは他地域から参加していただいているというのが実情でございます。</p> <p>そうした中、ここで私がこういうふうに言っているかどうかわかりませんが、役場職員にも非常に興味を持っていただいております。これは、やはり議員おっしゃるように、強制とか家とかという問題では、もうなくなってきていると思います。つまり、そこに興味を持っていただいて、すばらしいものだということ、単に演じるんじゃなくて、やはり親方さんがいて、そこへの人間関係、それからその構築する文化というものが非常に大切なものになってきていると思います。</p> <p>町といたしましては、舞台あるいは人形、備品等々のものにつきましては、</p>

	<p>これはお金で解決できる問題でありますので、これはもちろん援助していくつもりでございます。そして、これからの一番の問題の担い手ということでもありますけれども、今のところ、町のほうからの呼びかけというものはしてこなかったわけなんですけれども、そういったものも必ずや必要になってくるというふうに思います。</p> <p>そして、来年が新しい演者という形になろうかと思いますが、いい機会だと思いますので、この文化の継承も町を挙げてというような形で持っていければというふうに思っておりますので、議会の皆様、そして町民の皆様にご理解いただける施策を進めていきたいというふうに考えております。以上です。</p>
<p>7番議員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>私は、文化の継承は少人数の情熱や責任感だけでなく、地域全体の共感と協力の中で支えられるものであるべきだと考えています。文化に関わること、担うことは、地域の一員としての自覚や誇りを育むだけでなく、とりわけ若者にとっては自分自身が社会の中で必要とされているという感覚、自己の存在価値や自己肯定感を高める重要な機会となります。文化や伝統の継承に主体的に関わることで、自分の行動が過去を受け継ぎ、未来につながっているという実感を得ることができ、それが人生への前向きな姿勢や地域への愛着にもつながっていきます。</p> <p>その地域を地域たらしめる文化というものについて、住民自らが、これはどういうものなのか、なぜ存在しているのか、何のために続けてきたのかといった関心を持ち、またその本質を知ることが、結果として文化が継承されていくための大切な出発点、原点になるのではないのでしょうか。文化の継続は、一部の有志や行政だけが守るものでなく、地域全体がその価値を共有し、心から大切なものと思えるかどうかにかかっています。</p> <p>加えて、こうした地方の文化の一つ一つが日本という国全体の歴史であり、また多様性と深みを形づくっているということも、私たちは改めて認識すべきです。東京や大阪といった都市部だけでは語り尽くせない日本の特色ある歴史、その奥行きのある人間の営みの背景には、まさにこうした地域に根差した文化が存在します。当町のような小さな町の限られた地域の中で、何世代にもわたって続けられてきた営みが、日本人の感性や価値観の根感を形づくってきました。それは、私たちが日本人としての誇りを持ち、自らのルーツを確認する源泉でもあります。そして、文化を地域の宝だと心から信じ、大切にしていこうという実感こそが、文化を、歴史を、</p>

次の世代へつなぐ最も強い力となります。

私たちの地域には、諏訪地域で行われている有名な御柱祭と深い関わりのある松原諏方神社の御柱があります。御柱といえば、全国的にも諏訪大社のものが広く知られていますが、松原においても地域の人々が柱を引き、建てる行事を長く続けてきており、それが地域のきずなと誇りを育んできました。この松原諏方神社の「諏方」という表記、諏方の「方」の字が、ごんべんがついてない方向の「方」というふうになっていて、諏訪市などで用いられる「諏訪」の字とは異なりますが、簡単な調べで誤っているかもしれませんが、ここには歴史的な仮名遣いや神社独自の由来が込められているともされています。こうした表記の違いや由来を知ると、地域に対する興味や理解を深めるきっかけになりますし、なぜ小海の諏方神社はこの字なのか、なぜ小海でも御柱が行われているのかといった問いが、文化への関心や誇りの第一歩となるのではないのでしょうか。

さらに言えば、我々が住んでいるこの小海町、その中の個別の地名にもその由来がきっとあるはずですし、それを私たちも知っている必要が本来はあるはずだと思います。それに何よりも子供たちにそれを教えてあげることが、地域や自分自身に対する理解を深め、また自分が何者なのかを知る原点になるはずです。

世界に目を向けてみると、地域文化を住民の手で守り続けている例が数多くあります。例えばスペインのバレンシア地方で開催されるファジャ祭りでは、巨大な人形のミノットを制作して町中に展示し、最終日にはそれらを一斉に燃やすという壮大な行事が行われています。何か月もかけて住民が準備し、地域全体で盛り上がりを見せるこの祭りは、まさに住民の理解と積極的な関与によって支えられている文化と言われています。また、インドのラージャスターン地方では、伝統舞踊や音楽が村単位で今も日常に根づいており、子供から大人までが自然にその担い手となっているそうです。これらの地域では、文化は観光資源という側面を持ちつつも、何より地域の人々が自分たちの生活と誇り、そしてその価値を理解している点に継承の強さがあるとレポートされていました。

このように、世界は中でも文化を守る力の根源は、やはり自分たちが大切だと思ふ心であり、関わることで得られる喜びです。日本の中にも、こうした観点から持続可能な文化継承の模範となる地域があります。

例えば、秋田県の西馬音内盆踊りは、毎年夏に行われる伝統行事で、地元住民が中心となって連綿と守り続けてきた文化の一つです。この盆踊りで

	<p>は、美しい編み笠と藍染めの浴衣を着た踊り手たちが、静かで品格ある動きで舞い続けています。学校では子供たちが踊りを学ぶ機会があり、世代を超えてわざと精神が継承され、商工会や観光協会も一体となって盛り上げ、祭りは地域の誇りであり、きずなの象徴となっています。</p> <p>また、岐阜県の郡上おどりも、参加型の文化継承の成功例とされています。夜通し踊る徹夜踊りが有名で、まちの人々はもちろん他地域からも参加者も多く、文化が開かれた形で持続している点が注目されています。郡上の人々は、単に伝統を保存するだけでなく、一緒に踊る楽しさ、人とつがる喜びを原動力に、文化を今の時代にも通じるものとして継承しています。</p> <p>私が考えるに、これらの例に共通するものは、文化が特定の誰かではなく地域全体の共有財産であり、皆が関わることで強く楽しく受け継がれているという点です。重ねて申し上げますが、行政や有志だけでは限界があり、地域全体の理解と協力が不可欠です。</p> <p>スケートも人形三番叟もそれぞれ形は異なりますが、共通して言えることは、歴史の中で意味があって生まれて、そして育まれて、住民同士の関わりがあって初めて成り立つ文化であるということであり、文化とは、人の営みの積み重ねであり、誇りであり、地域の未来そのものです。まさにそれが歴史というものであると思います。</p> <p>文化を守るためには、まずはその歴史を学ばなければなりません。歴史を学べばこそ、文化を守ろうとする意識・意欲が生まれます。文化を守るとは人を育てることであり、文化を継ぐとは地域の明日を育むことです。その視点に立って、町としてもハード、ソフト両面における支援の在り方を検討し、真に地域に根指した文化施策を展開していただくよう期待します。</p> <p>最後に町長にお伺いします。スピードスケートや三番叟、御柱祭、方言や郷土食、風習や習わしなど、小海町に息づく文化を町として、町の個性としてどのように位置づけ、今後どのように活用し、支援・継承していくおつもりか、その必要性を含めお考えをお聞かせください。また、その文化を子供たちに教える、伝えることの意義、価値をどのように考えるでしょうか。お願いします。</p>
町長	<p>今日の黒澤議員のテーマとして、文化の継承ということについてご質問いただいております。</p> <p>町としても、私としても、このスケート、三番叟、御柱というようなものは、まさに文化であり、それを継承していくというのは義務でもあろう</p>

	<p>かというふうに思います。そうしたものを教育の中に取り入れていくということが、これは本当に必要なことだというふうに思っております。自分の地域を自信を持って誇れる地域だという気持ちを持っていただくには、古い歴史、そして、どうしてこのお祭りができた、この歴史ができてきたかというものを本当に子供たちにも、また町民の皆さんにも発していくということは物すごく必要なことだと思います。</p> <p>大体お祭りというものは、五穀豊穡とか、皆さんの健康だとかいうものをまず願ってのことだと思います。それは人間が生きていく中で一番必要なことであろうかというふうに思います。単にお金を集めて、かけて、大騒ぎするというものがお祭りかという、やはりそうではなく、議員おっしゃるようにそれぞれの意味があるかと思います。そういうものをよくそれぞれの皆さん、私も含めて勉強した中で進めていくということは、非常に一つ一つのことに對して興味が湧く、物すごくいいことだというふうに思います。</p> <p>また、今、スケート、三番叟、御柱と言いましたけれども、ほかにもまだ掘っていけば多数の文化の継承、あるいは文化というものはあるかと思えます。こうしたものを教育委員会中心に、今度、こども課というような形になりましたので、そういうものを含めた中で、継承はもとより発展していくというような形を取っていきたいと思います。</p> <p>それから、先ほど支援というお言葉出ましたけれども、これはもちろん、支援は必要なものに対しては必ずしていきます。しかし、その支援がどうして必要かというものは、町民の皆さん、あるいは団体の皆さんとの、私、日頃から言っております風通しのいい仲というものは本当に必要になってきていると思います。開かれた町政というような表現をする方もおられますけれども、決して我々の行政の中で閉じ込めというものは一つもないよう、そうして進めていきたいというふうに思いますので、ご理解のほど得た中で、そして皆様とのご相談の中で進めていきたいというふうに思っております。貴重な意見ありがとうございました。</p>
<p>7 番議員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>小海町の文化、非常に大切に、重要で、さらにそれを子供たちに教えることの意義も非常に重要だというようなお答えだったと思います。</p> <p>私もその文化を子供たちに教えるのにどうすればいいかというのは、ちょっとなかなか具体的な案はまだないんですけれども、具体的に進んでいくように、ぜひそれはお願いしたいと。私もできることは協力させていただ</p>

	<p>きたいと思いますので、ぜひそれはお願いします。ありがとうございました。</p> <p>最後に、少しだけ個人的な思いを述べさせていただきたいと思います。私はこうした地域の文化が、私たち一人一人の毎日に喜びや誇り、つながりを与えてくれるものだと思います。スケートをする子供たちの姿、そしてその姿には、笑顔には、それを見る人に、今こうして生きているということに幸せだと思わせてくれる何かがあります。文化は難しいものではなく、実は私たちをちょっと幸せにしてくれるもので、だからこそ大切にしていきたいというふうに考えます。</p> <p>以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。</p>
議長	<p>以上で、第7番 黒澤敦史議員の質問を終わります。</p> <p>これより10時55分まで休憩といたします。</p> <p style="text-align: right;">(ときに10時42分)</p>
<p><u>第5番 渡邊 晃子 議員</u></p>	
議長	<p>休憩前に引続き会議を開きます。</p> <p>次に、第5番 渡邊晃子議員の質問を許します。渡邊晃子君。</p>
5番議員	<p>第5番、渡邊晃子です。この議会になって初めての一般質問ということで、議長もおっしゃられましたけれども、ちょっと6人ということで寂しい感じもしますけれども、私もこの議会初ということで、また気を引き締めて、気持ち新たに議論させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>まず第1番目、障がい者福祉施策について質問させていただきます。</p> <p>障害者福祉というと本当に幅広く、奥が深く、私も本当にまだまだ勉強が足りてない状況ですけれども、町としては、小海町第7期障害福祉計画、第3期障害児福祉計画というものを出しているという中で、今日、資料も出していただきました。それに基づいて質問させていただきたいと思います。</p> <p>まず1つ目、町における障がい者、障がい児の現況課題はということで質問要旨にも書かせていただきましたが、それと同時に、そもそもこの計画というものは町の位置づけとしてどういうものなのか、そういうところも併せてご説明をお願いしたいと思います。お願いします。</p>
町民課長	<p>お疲れ様でございます。お答え申し上げます。</p>

	<p>町における障がい児、障がい者の現況課題ということでございます。</p> <p>まず、障がい者の現況につきましてですが、町内におけます通所や生活支援の場は限られておりまして、特に精神障害のある方については行き場の確保が大きな課題というふうになっております。</p> <p>現在、佐久圏域全体でも、佐久総合病院や小諸高原病院といった精神科病棟が閉鎖というような状況にもなっております。また臼田学園の閉園など、受け入れる施設の減少が続いているというのが現状でございます。ですので、入所先の確保ということがちょっと年々難しくなっているというような状況でございます。</p> <p>こうした背景によりまして、通院や退院後の地域生活における不安を抱える方が増加しているという部分もでございます。本人のみならず家族への負担も大きくなっております。この問題は、小海町に限らず佐久圏域内の各町村共通の課題というような状況であります。現在、関係機関や圏域内の自治体との連携を図りながら、地域生活支援の体制の整備を進めてまいっているというところでございます。また障がい児に関しましては、近年広く認知されています発達障害というものがあります。サービスの利用者規模は増加傾向であるというような状況でございます。</p> <p>こういった背景として、町では、社会福祉協議会と協力しながら、放課後のデイサービスの設置や障がい児に対しての相談員の配置、また小諸養護学校への送迎バスの実現など、多くの施策に取り組んではまいりました。しかしながら、全国的な課題でもあります医師をはじめとした専門的な人材が不足しているということが地域でも大きな課題ではあります。小海分院でも、子供の相談外来というのがやはり医師の絡みで休止になっているという状況でございます。</p> <p>今後の体制整備にも大きな課題を抱えております。今後、町の独自の支援の在り方も検討していかなきゃいけない。また関係機関との連携を強化、また支援の質と量の両面からも充実を図っていきたいというような形で考えてございます。これらの課題も一朝一夕で解決できるものではありませんので、この障がい者の計画という中では、住み慣れた地域で、誰もが安心して暮らせるまちづくりという形を目指して、この計画、町でも立てておりますので、これにつきまして、着実に取組を進めてまいりたいというような形で考えてございます。</p>
5 番議員	<p>今、様々な課題ということでおっしゃっていただきました。全国的にもそうなんですけれども、本当に大変な問題になっているなど改めて通感をし</p>

	<p>たところでは。</p> <p>それで、この計画自体なんですけれども、私も前回の障害者福祉施設検討委員会の委員長をやらせていただいて大変反省しているところですが、この検討委員会の中でもこの計画が検討の事項になっていたけれども、一切触れなかったと。それから、また、この新しいものになってから配布もされているのかということも確認をしなかったんですね。何か町の中でもどうなっているのか、事業者さんとのお話しした中では、そういう計画も持っていないということでしたので、ちょっとせつかくこれだけの計画をつくっていらっしゃるので、ぜひそういうところにもしっかりと共有をして、町としてこういうものを位置づけて、皆さんとやっていくというところをしっかりとさせていただきたいなというふうにも思います。</p> <p>本当にいろんな課題があるわけなんですけれども、町内においては、2番目の住環境についてお聞きしたいと思います。</p> <p>グループホーム、前回の一般質問でも的埜議員がそっくりそのまま質問をされていますけれども、その後どうなっているか。今回の補正予算でも、障がい者、高齢者等の住まい整備、開発行為許可申請、2,345万と大きいものが出てきておりますけれども、前回からどのような、何か変化があるのかとか、改めまして資料も出ていただきましたけれども、この間の経過、グループホームがどうなってしまったというか、どう経過があるのか、ちょっと簡潔で結構ですので改めてお願いします。</p>
<p>町民課長</p>	<p>グループホームの経過ということで、福祉検討委員会のほうでおおよそ検討したという形にはなっております。</p> <p>今回、今申されました開催が2年ぶりの開催というような状況でございます。委員の中でも、これまでの整備計画の経過ということで改めてご説明申し上げますと、障害者福祉施設の整備に関しまして議論は令和3年1月から始まりまして、当初は地域活動支援センターひまわりの社会福祉協議会への委託や、就労B支援事業の実施について検討されておりました。その後、障がい者の福祉計画に基づきまして、町内グループホーム、整備する方向ということで議論が進められてきております。</p> <p>度重なる議論を経まして、整備場所やグループホームの形態、費用等につきまして検討が行われ、令和5年1月に国の補助金を活用して進めるという方針で、委員会のほうへ協議決定されたというような形でございます。</p> <p>令和6年になりまして、町民課におきまして福祉住宅の状況ということで計画調査費を盛りまして、グループホームや町営住宅の移転候補地について</p>

て検討をいたしました。その結果、グループホームの候補地としては、土村清水町の高台を選定するというような形になってございます。また、町の障がい者の状況を調査し、どのような形のグループホームが望ましいかということについても検討重ねてまいりました。

今回の整備に当たっては、県との協力を得まして地方創生推進交付金を活用して、障がい者と高齢者等の住まいという、いわゆる町営住宅の形で整備を進めてまいるということとなっております。委員会ではグループホームとしての整備というようにもなるのかという意見も出てございます。また、特に親なき後の支援の観点から、日中支援型の整備を求める声もございました。しかしながら、日中支援型グループホームにつきましては、まだまだ実現に向けては引き続き検討を重ねていく必要があるというようところで議論をしておる状況でございます。

このことにつきましても、委員会からの意見を受けて、今後、町としても日中支援型グループホームの整備について、引き続き検討していく必要があるというふうに認識しております。障がい者の福祉施設検討委員会の中でも、引き続き結論を重ねていきたいというふうに考えてございます。

また、今申されました今後という形ですが、現在、整備を予定しています住宅につきましては、地方創生交付金の活用ということで、障がい者、高齢者の住まいとして町営住宅の形で町が運営するという予定でございます。ただし、将来にはグループホームとしての活用もできるような、構造や設備については柔軟性のある設計で整備をしていくというような方針でございます。

入居状況につきましても、今のところは自分で一定程度の生活ができる方を想定しておりまして、生活支援については訪問型の福祉サービスを活用していくと、それで必要なケアを提供していくというような考えでございます。

また、検討委員会の中では、障がいのあるお子さんを持つ保護者の方から、グループホームの情報が少ない、不安があるということもありましたので、保護者や関係施設または役場担当者が気軽に意見交換ができる場を設けてほしいという意見がございました。その意見を受け止めまして、今後グループホームや障がい者の施設について理解を深める場を設けるというように、当事者、保護者、関係機関への意見交換を通じて、施設の在り方も考えていきたいというふうに考えてございます。

また、グループホームの整備という中では、小海町だけではなくて、やは

	<p>り南部5か町村の中でも共通した課題として、近々の課題としてあります。人口減少や高齢化が進む中で、障がい者が安心して地域で暮らしている体制づくりということ、また郡全体としても取り組むべき重要なテーマであるというような形になってございます。</p> <p>このため今後も、町単独という部分もございますが、その検討にとどまらず郡内各町村と連携を取りながら、広域的な視点も含めてグループホームの在り方や整備の可能性についても議論を進めていくというような、今、現状でございます。</p>
<p>5番議員</p>	<p>ご説明いただきました。</p> <p>改めまして、検討委員会でも私も出席させていただいていて、やはりこの資料では令和3年からの検討ということが載っていますけれども、本当にもっと前から親御さん方がグループホームを、特に重度の方がグループホームつくってほしいという願いがずっとあった中で、ようやくこのように検討されてきた。それでグループホームをやるということで、年頭の挨拶でも町長も着手するとおっしゃったということで、皆さん、本当に期待が高まっていた中で、でも、グループホームではなくなってしまったということで、本当に落胆をされていたのを私も目の当たりにしたし、その後も何人かとお話しして、本当に残念だということをおっしゃってきております。</p> <p>グループホームとして検討する必要があるということは、町民課長、しっかりとおっしゃられましたし、また、もちろん南部5か町村でということもおっしゃられましたので、本当に皆さんの願いが実現されるように、本当に係の皆さん、すごく努力されて、ここまで数字も出したり研究をされてきたということは誰もが認めていて、本当に頑張ってもらっているということはおっしゃっていますし、私もそう思っています。なので、ぜひそれが形になるように進めていただきたいと思います。</p> <p>町長にも、ぜひこのことでグループホームについて、年頭では着手するとおっしゃいましたけれども、引き続き、町民課長からは検討する必要があるということをおっしゃられましたけれども、町長としての見解というか思いも、今後への思い、ご家族への思いもお聞かせいただきたいと思います。</p>
<p>町長</p>	<p>私、選挙公約でもありますし、そういった中のものは重々重く受け止めて進めてまいりました。しかし、建設をするということは、どうしてもお金がかかるんですね。そのお金をどうするかというところに来て、こういった方向になっております。</p>

	<p>内容的には、グループホームの内容を維持できるということになっておりますので、まずは一歩進めるということになっておりますので、それが中止になったとか、計画がなくなったということじゃありませんもので、ぜひ誤解のないように、町民の皆様との対話ということをおっしゃっていますから、議員さん、特に中身をみんな知っておいでですので、そういう説明もつけ加えていただければ大変ありがたいと思います。町とすれば、一日も早く推進するという形でおります。</p> <p>以上です。</p>
<p>5番議員</p>	<p>先ほど町民課長からもありましたように、検討委員会でもやっぱりもっと開かれた、町長も再三、風通しのいい仲とおっしゃっていますけれども、日頃から、検討委員会という形ではなくて、もっと当事者の皆さんも含めて、こういうことになっているよという経過もしっかりと説明をしながら、またご意見も伺いながら、もちろん議会としても研究しながら一緒に進めて、必ずいきたいと思います。今度つくっていくという方針のものも、将来的にはグループホームにということですので、その辺もしっかりと議会としても注視していきたいと思います。</p> <p>次に進みます。</p> <p>合理的配慮義務についてということで、合理的配慮義務という言葉が多分耳慣れない方も多いかと思います。資料を今出させていただきました。これが内閣府が出したパンフレットになります。令和6年4月1日から合理的配慮の提供義務化、今まで行政機関はもう義務化だったわけですが、事業者にも義務となったということで、改めてパンフレットが出されています。</p> <p>これで言うと26ページ、青いところですね。合理的配慮の提供とはというところを見ていただければ説明が書いてあります。日常生活、社会生活において提供されている設備やサービス等については、障がいのない人は簡単に利用できても、障がいのある人にとっては利用が難しく、結果として障がいのある人の活動などが制限されてしまう場合があります。このような場合には、障がいのある人の活動などを制限しているバリアを取り除く必要があります。このため障害者差別解消法では、行政機関等や事業者に対して、障害のある人に対する合理的配慮の提供を求めています。</p> <p>具体的には、行政機関と事業者がその事務・事業を行うに当たり、個々の場面で障がい者から社会的なバリアを取り除いてほしい旨の意思の表明があった場合に、その実施に伴う負担が過重でないときに、社会的なバリ</p>

	<p>アを取り除くために必要かつ合理的な配慮を講ずることとされています。これでもちょっと分かりにくいかなと思いますが、いずれにしろ合理的配慮の提供に当たって、障がいのある方と行政・事業者が建設的対話を通じて相互理解を深め、ともに対応案を検討していくことが重要というところで、ここが大事だなと思っておりますけれども、元々行政にはこれは義務があったということですが、町として、もちろん窓口などに障がいがある方いらっしゃったら当然対応はされているかと思うのですが、具体的にこの合理的配慮に対しての対策、また事業者との関わりで言いますと、このパンフレットの最後になりますが、資料で言うと30ページになりますけれども、困ったときはというところで、つなぐ窓口、障害者差別に関する相談を自治体・各府省庁等の適切な相談窓口につなげる窓口、つなぐ窓口ということが書いてあって、これに関してはちょっと資料お出ししていないんですけれども、このつなぐ窓口についてのリーフを見ると、お住まいの地域、事業を営んでいる地域の自治体や各府省庁等が相談窓口を設置していますとあるんですね。</p> <p>小海町としては具体的にどうされているか、また町内事業所から、こういったことの相談がある場合はどこが対応するのか、また行政として、こういう事業者にも合理的配慮義務が課せられたということの周知だとかはどうなっているか。役場自体としても、この合理的配慮義務についての勉強・研究だとか必要と思うのですが、そのあたりどうなっているかと、町内事業者さん、例えば商工会さんなどと連携して、こういうことに対しての勉強会をやっているとか具体策、そのあたりどのようになっているかお聞かせ願います。</p>
町民課長	<p>お答えを申し上げます。</p> <p>ただいまの障がい者の差別解消法の改正に伴う合理的配慮義務に関してという形でございます。</p> <p>町としてはどうかというような形ではございますが、昨年の法改正から民間事業者にも合理的配慮の提供が義務化されるという状況でございます。障害のある方への対応が一層求められるということとなりまして、町としても法令の趣旨を十分理解し、全ての町民が安心して暮らせる社会の実現に向けて、以下、取組を考えてはございます。</p> <p>まずは町職員に対しても、障がいのある方への理解を深めるための研修等を実施していくということでございます。合理的配慮の考え方や具体的な対応についても周知を図っていくというふうに考えてございます。窓口と</p>

	<p>先ほど申しましたけれども、やはり町民課の社会福祉係というところが窓口になり対応していくというふうになるというふうにご考えてございます。</p> <p>また、庁舎や公共施設については、不便をかけるようなところについてはバリアフリー化の推進、また障害者の中でのコミュニケーション支援の体制というものも、また改めて整備を検討していかなければいけないというふうに思っております。現場での実効性のある支援環境づくりというものに取り組んでいくというふうにご考えてございます。</p> <p>また、法令に基づき各課においても、障害のある方からの相談や要望に適切に対応できるよう職員間での連携の強化、また必要な合理的配慮を組織的に行える体制をつくっていくということで方向性を考えてございます。</p> <p>今後とも関係機関や当事者の声に耳を傾けながら、誰もが尊重され、ともに暮らせる地域づくりに努めていくというものが役場の見解、考えでございます。</p> <p>また、町内事業者の状況の把握・連携ということでございますが、町内事業者においても合理的配慮の提供が義務、法改正により明確化されたことによりまして、町としても事業者の皆様との連携をしながら、障がいのある方の理解促進と支援体制の強化を進めていくというふうにご考えてございます。</p> <p>具体的には、町内事業者に対しましても障害者差別解消法に関する情報提供や説明会の機会を設けると、これは先ほど言いました商工会等との連携も考えて、合理的配慮の事例や対応方法などについても周知していく、取り組んでいくという考えでございます。</p> <p>また、新たな事業所の開設や既存の事業所等の改修・改築に際しましても、バリアフリーの対応を含めた合理的配慮の観点から配慮をお願いするというようなことは町として必要だと思いますので、それに応じた条例や支援というものをしていきたいというふうにご考えてございます。</p> <p>引き続き町民、事業者、行政が一体となりまして、誰もが暮らしやすい共生社会の実現というものに向けて、障害者のための環境整備というものに取り組んでいくというふうに、今考えてございます。</p>
5 番議員	<p>これから周知していく、組織的に方向性、考えているということでした。ぜひ本当に今おっしゃったこと、まだやられてないということだと思っているので、これから周知ということなので、今言われたことをしっかりと実行していただくように強くお願いいたします。</p> <p>一般就労への移行についてということなんですけれども、この間、国も障</p>

	<p>害者雇用についてかなり力を入れてきていると、障害に関係なく、希望や能力に応じて誰もが職業を通じた社会参加のできる共生社会実現の理念の下、全ての事業者に法定雇用率以上の割合で障がい者を雇用する義務があるということで、厚生労働省ですが、令和6年度からは雇用が40.0人以上の事業主で2.5%、令和8年7月には37.5人以上の事業主で2.7%とするとのことになっています。事業者の義務として、毎年6月1日時点での障害者雇用状況のハローワークへの報告、努力義務で、障害者の雇用の促進と継続を図るための障害者雇用推進者の選任も——これは努力義務ですが——とあります。</p> <p>町としても、第7期障害福祉計画、資料で言うと20ページ、社会参加の促進にも、一般就労への移行ということで明記をされていますが、この間も一般就労へ移行されているだとか、B型と併用して行っている方もいらっしゃるということもお聞きしていますけれども、一般就労への移行について、計画にも明記されていますが、町としてどのように今後も取り組んでいかれるかお聞かせください。</p>
<p>町民課長</p>	<p>一般就労の移行ということでございます。</p> <p>確かに昨年、障害者差別解消法の改正によりまして、民間事業者に対しても合理的配慮の提供義務、また障がいのある方が差別されることのない社会参加ということで、整備環境が地域全体で求められております。町としても、この法改正の趣旨を踏まえて、障がい者の就労支援の観点からも、より一層の支援体制の充実に取り組んでいく必要があるというふうには認識してございます。</p> <p>現在町では、就労支援のB型事業を通じまして、障がいのある方の社会参加への日中活動への場の提供を行っているというような状況でございます。将来的な一般就労への移行を見据えた支援については、さらに幅広い選択肢の整備が課題となるというような状況でございます。</p> <p>このような中で、令和7年度10月から創設される就労選択支援事業というものが、今回新たな事業として出てきてございます。これは障がいのある方一人一人の希望や適正に応じた就労支援の実現をするために、重要な制度であるというふうには捉えております。この制度によって、この就労選択支援事業というのを行うことになるんですが、しかしながら、現時点で、この佐久圏域内でこの事業を実施してもらえる事業所というのが、今ちょっとないというのが現状でございます。南佐久を含めた広域的な課題として、その整備に向けた協議を今進めているというような状況でございます。</p>

	<p>す。</p> <p>町としても、障がいのある方が一般就労を含む多様な就労形態を選択できるように、障がい者の特性への理解を深めて、合理的配慮を具体的にどう提供すべきかという視点も持って、これから関係市町村や福祉関係機関、町内事業者との連携をしながら、支援体制をつくっていくということに努めていかなければならないというような状況でございます。今後も障がいのある方の一人一人が尊重されて、安心して働き暮らせる地域社会の実現ということ、制度の周知や相談体制の強化、また合理的配慮の提供促進など総合的な取組を進めていくというような状況でございます。</p>
<p>5番議員</p>	<p>なかなか、でも、この間のやっぱり国の姿勢がこうなってきたということで、作業所の方も、前とはちょっと違ってきていると、少し受け入れてもらいやすくなっているというお話も伺いました。</p> <p>町としても、私も障害のある方とお話ししていて、もっとやっぱり働く場が欲しいという願いをずっと聞かせていただいているんですけども、ぜひ、また新しい制度もできていく中で、なかなかそれを、現場が本当に人手不足という中で追いついていかないわけですけども、連携しながら、先ほどおっしゃったようにしっかりと一般就労のほうも強化をお願いしたいと思います。</p> <p>続いて、生活支援についてになります。</p> <p>移動支援、今どうなっているかということ質問しているんですけども、この次にも書いた、バスがだんだんタクシーに移行されていく中で、やはり障がいのある方にとって、移動するということが本当に一番大事というか、ネックになっているということで、今、町の移動支援、地域活動支援の一つとして、移動困難な障がい者の方への支援ということになっていきますけれども、これは町の裁量でできるんだと思いますが、社協の福祉輸送事業に委託しているということですけども、移動支援が充実というか、求めに応じられているのか、また以前も言いましたけれども、やはりバスが減っていく中で、健常者の方、高齢者の方も同じなんですけれども、移動の自由が奪われてしまわないかという、そのあたりどうなっているか、移動支援どうなっているかと、バスがタクシーに移行していく中で、そのあたり、以前もタクシー、予約することがまず、障がいのある方に一つのハードルという方もいらっしゃることを言いましたけれども、そのあたりも含め、ちょっとどのようにお考えかお願いします。</p>
<p>町民課長</p>	<p>ただいまの移動支援の現況と、バス、タクシーの利用ということでござい</p>

ます。

まず、移動支援の現況でございますが、町における移動支援事業につきましては、現在、社会福祉協議会ともう1事業所で、2事業所で執り行っております。主に通院や買物、社会参加のための外出支援として活用しております。年々利用者の増加とともに、その重要性も高まっているというような状況ではございます。特に高齢化の進行や単身世帯の増加によりまして、日常生活における移動手段の確保は、障害をお持ちの方々にとっても切実な課題であるということで、今おっしゃられたとおりだというふうに思いますので、さらなるニーズの増加を見込んでいくというような状況でございます。

こうした中で、現在、南部の5か町村におきましても、福祉関係の担当者の中では障がい者の移動支援の在り方が共通の課題として議論されているというような状況でございます。各町村間での連携を深めて共通の方向性を定めていくこと、また町単独での対応に限界がある部分も補い合い、郡単位での広域的な交通ネットワークの構築も視野に入れて検討を進めているというような状況でございます。

今後も地域の実情に即した形で、誰もが安心して暮らせる環境づくりに努めていくという中では、引き続きこちらのほう、ご協力をお願いしたいというふうに思っております。

また、今申されましたタクシーへの移行という状況でございます。町では町営バスの昼間の運行につきまして、近年の利用状況や運行コスト等を踏まえまして、費用対効果の観点から見直しを行ってまいりました。特に昼間の時間帯の路線バスの利用者の数が少ない、限られているというような状況で、十分な利用が見込めない状況が続いているということで、町としても持続可能な交通手段確保が必要だとして、その中で、現在町内のタクシー業者に委託をしまして、昼間の移動支援の代替えを図っているというような状況でございます。特にドア・トゥー・ドアの移行が可能となる点において、また、これまでのバスよりも利便性が向上したという声もいただいております。また、タクシーの代替え運行を続けてほしいという声もいただいているというような状況ではございます。

一方で、今、委員さん申されたように、障がい者の方としては電話の予約が煩わしい部分もありますし、車内での一対一の利用に不安はあるというようなことも言われております。そういった意見がある中で、制度上の設計も今後考えていく課題だというふうには認識しております。

	<p>このような声、今後の制度の運用や改善においても非常に重要な点というふうには考えてございます。町としても、交通弱者の移動支援を今後とも重要な施策の一つとして位置づけておりますので、障がい者や高齢者をはじめとしました多様なニーズに対応をするように、柔軟な交通体系の構築を目指すというふうに考えてございます。</p> <p>また、町内の課題にとどまらず、南佐久の町村においても全体で共通な課題として、広域的な交通ネットワークの構築や公共サービスの導入などについても、関係自治体と連携を図りながら検討していくということも一つの方法ではないかというふうに考えてございますので、引き続き利用者のご意見を伺いながら、より安心・安全で使いやすい移動手段の提供ということに努めていきたいというふうに考えてございます。</p>
<p>5 番議員</p>	<p>南部5か町村でも議論をされているということでした。</p> <p>本当に障がいのある方だけではないですね、高齢者の方にとっても本当に移動手段ということで、交通権、権利として、これが奪われることがあってはならないということで、やはり交通政策審議会もありますけれども、そういうところ以外でも、やはりさっきのグループホームのこともそうですけれども、やはり障がいのある当事者の方だとか、支援者の方だとか、もっと突き合わせて、交通についても一緒に在り方について、ニーズとおっしゃられましたけれども、本当のニーズは何なのか、何が一番ベスト、ベターなのかというのを一緒に考えていかなければなというふうに思います。</p> <p>ちょっとお風呂のことにも触れ、生活支援ということで、お風呂というところにもちょっと、せっかくヤッホーの湯、福祉風呂があったりだとか、やすらぎの湯もありますけれども、そういう利用状況だとか、町民の利用がどうなのか、またその利用促進について何かお考えがあるかどうか、まず、やすらぎの湯についてお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>町民課長</p>	<p>やすらぎの湯につきましては、今、やすらぎ園にございまして、社会福祉協議会のほうで運営を行ってございます。その中では、今年度ですが、利用状況とすれば1,900人ぐらゐの利用があるというところでございます。通常よりは若干人数が落ちているというような状況でございまして、今年度につきましてはお風呂のお湯の漏水というか、水漏れが発生しまして、2か月ほど営業停止というような状況でございました。その間の人数が減っているというような形でございます。</p> <p>福祉風呂についても、やはり高齢者、障がい者の方が利用できる状況とい</p>

	<p>うのを確保しまして、なるべく利用をしていただいて、多くの方に対応できるという状況を確保していくというところでは社協と協力しながら、また、包括支援センター等の連携を図りながら、そういう利用の促進というものには努めていきたいというふうには考えてございます。</p>
5 番議員	<p>ヤッホーの福祉風呂についてはいかがでしょうか。委員会だとかでも、町外の利用者の方がとても、リフトがいいとか、ちゃんとお湯を入れ替えてくれるだとか、好評という声も出ているかと思えますけれども、町民の方、身体の障害以外の方も使えるのか、利用されているのかとか、そのあたりちょっと伺えたらと思います。</p>
町民課長	<p>ヤッホーの湯につきましては、家族風呂というような形で別段用意してある施設でございます。これにつきましても、前年度、163件の利用があったというような状況ではございます。</p> <p>確かに1回でお風呂入りますと、そのお風呂入った後に一回掃除をしまして、もう一回お湯を張り替えるというような形で利用するというようなことではございますので、なかなか回轉的には、何十件も入るといようなことは1日でできないというような状況でございますので、限られた中で、予約制でございますが、その中で利用していただいているというところではございます。</p> <p>確かに障がいをお持ちの方の家族が同伴で入っていただいて、障がい者に温泉を提供しているというような状況ですので、非常に好評というような部分では、リピーターも多いというようなところでございます。また高齢者で、やはり公衆的な共同浴場に入れられない方というのもある程度、見た中では利用の判断をしてご入浴いただいているという部分ではございますので、いずれにしろ、やはり1人での入浴というのが非常に困難であるということが判断できれば、予約でその福祉風呂を使っていただくというような形にはなっております。</p> <p>利用は促進をしている状況であります。やはり一回使った後の掃除とか、そういうメンテの部分がちょっと時間を要する部分もありますので、なかなか1日の利用件数というのは、それほどちょっと高くなるというのは難しい部分もございますので、予約を取っていただいて、利用をどんどんしていただければというふうには考えてございます。</p>
5 番議員	<p>ぜひもっと、いろいろ手間もかかるし大変だと思いますけれども、せっかくのお風呂なので周知もお願いしたいと思います。</p> <p>時間があれなんですけれども、参政権についてということで、障がいのあ</p>

	<p>る方の選挙、投票したい意思があっても諦めているという方が少なくない。私もこの間の国政や町選挙において、障がいのある方だけではないですね、高齢の方にも、もう行けないと、意思はあるけれども、行きたいけれども、もう諦めてしまっているという方と何人もお会いしました。本当に残念なことだなど、権利がまたここでも奪われてしまっているのかということ非常に胸を痛めたんですけれども、郵便投票で期日前投票は行えますけれども、対象は原則、障害者等級1、2級、要介護5の方に限られると。</p> <p>総務省有識者による研究会、2017年に対象を広げるべきだと提言をまとめているが、これも実現をしていません。郵便投票の手続も容易ではないと、やり取りに時間もかかりますし、町選挙でも広報もされていなかったのではと思います。</p> <p>障がい者の方だけではない、高齢者支援の観点でも、全国でそんなに多くはやっていませんけれども、巡回投票の導入をされている、投票所が移動して、うちの前、近くに来てくれるということを取り組んでいる自治体もあるかと思います。選管の十分な体制、予算が必要ということ国に対しても我が党は求めているんですけれども、そのあたりどうでしょう。本当に高齢化進んできているし、障がい者の方たちへの支援ということに関しても非常に有効なことだと思いますけれども、巡回投票導入について願います。</p>
<p>総務課長</p>	<p>お疲れ様です。投票ということですので、私、総務課長からお答えいたしたいと思います。</p> <p>巡回投票、これまで実施してはございません。春の町の議会議員選挙等、大変告示の後から投票日までの期間、短いと。国政の選挙であれば、十数日という日数が確保できるわけですけれども、大変問題なのが、この短い期間の間に、先ほど言われた郵便投票であるとか不在者投票、そういったことを完結しなければいけない。大変忙しい日程になります。そういう関係もありまして、なかなか町関係のものでは難しいわけですけれども、期間が長ければ、そういった可能性もあるかなということになるかと思えます。</p> <p>ただ、先ほど言われました郵便投票の改善、もう少し対象者も広げられるようなことになっていけば、確かに便利、町を考えると、対象者の、投票できる人の拡大にはなろうかと思えます。投票率のアップにもつながると思えますので、そんな働きかけについては努力してまいりたいと思いま</p>

	<p>す。今後とも選挙管理委員会で検討を重ねていきたいと思ひます。以上です。</p>
5番議員	<p>ぜひ巡回投票についても、導入自治体のことなど研究されて前向きに検討していただきたいと思ひます。</p> <p>障がいある方が投票したくともできない、投票を諦めさせられていることは、障害者権利条約第29条、政治的及び公的活動への参加に反し、障害者差別解消法で定められた行政機関等は、先ほどの合理的配慮ですが、必要かつ合理的な配慮を行う義務に違反しているということになってしまうので、ぜひとも前向きに検討をお願いしたいと思ひます。</p> <p>最後、災害対応についてです。</p> <p>これも障害福祉計画の第6章の一番最後に、今後の検討事項として明記がされていますけれども、ささえあいマップや個別避難計画の作成が有効だと考えられていると、作成に着手していますが、今後、更新が必要となつてきていると。ここもなかなか皆さん大変な中で作成はされていると思うんですけども、状況はどうなっているかお聞かせいただきたいと思ひます。</p>
町民課長	<p>お答え申し上げます。</p> <p>今、地域ささえあいマップ、個別避難計画ということで毎年作成をしているというような状況でございます。ささえあいマップにつきましては、今現在、24地区であります、残り2地区となりました。ですので、今年度、馬流地区と溝の原地区が行いますれば、全地区でささえあいマップが完成するというような状況でございます。</p> <p>あと、個別避難計画につきましては、今現在48件という状況でございます。6年度については29件ということで、ちょっと数的には本当に600強の対象者はおるんですが、なかなか進まないという状況も現状でございます。障がい者や高齢者という方が中心で、その計画を立てなきゃいけない。それに当たっては、やはりその障がい者や高齢者を知っているケアマネや障がい者の相談員というようなところをお願いしているのが実情でございます、やはり障がい者、高齢者でありますので、なるべく丁寧な計画を立てていくというような状況の中では、どうしてもやっぱり時間がかかってしまうという状況がちょっと否めないところでもありますので、なるべく早めの作成というようなことでは進めてはおりますが、何とか早めな完成ということは考えてございます。</p>
5番議員	<p>それから、福祉避難所について、ここもやすらぎ園が福祉避難所に指定さ</p>

れているかと思いますが、川東のほう、こうみの里さんと提携をしたんでしたっけ、そのあたりと、また福祉避難所ということで、日頃から作業所ポッポさんやひまわりさん、ひまわりさんは社協の中というか、あれですけども、連携も強化もしなければいけないなど、お話をしながら思いました。ポッポの方も、ポッポに避難というか、そこにいらればいけれども、実際、じゃ、そこから避難するとき、どこに行けばいいのかとか、どこにどういう避難物資があるとか、そういうこともちょっとご存じなかったもので、日頃からお話は係がされていると思いますけれども、この避難、災害についても、ぜひそのあたりも強化をしていただきたいと思います。すみません、ちょっと時間がないので移りたいと思います。

いずれにしても、先ほどのあの個別避難計画についてもまだまだということで、何せいろんなことを皆さんが兼務されていると、本当に大変だということを理解しています。人手不足に関して、これは福祉関係、障害もそうですし、介護も報酬が、国が引き下げているということで、本当にもつてのほかだと怒りを持っているんですけども、共作連、就労系事業、グループホームなどの障がい者のための事業所が加盟する全国団体があるんですが、昨年11月、厚労省と懇談をした際の要望書から、当事者の方の声をちょっと抜粋いたします。

どんな障害があっても、住み慣れた地域で暮らすことができるように制度を充実させてください。中でもヘルパーやグループホームのキーパーが少なく困っています。ヘルパーやキーパーが少ないのは、その人たちの給料が安いからだと思います。私たちは支えがないと生きていけません。24時間365日、必要な支援が受けられるように生活を支える制度を充実し、そこで働く人の給料を上げてください。日中の職員についても同じです。募集をしても応募がありません。私たちの給料を上げるには、安定した仕事と十分な職員の支援が必要です。しかし、私たちの仕事を支える職員の給料が安いということは、支援を受けている私たちを軽視しているとも言えます。職員が安心して働けるよう職員の給料を上げてください。厚労省への訴えでした。

同様の意見が各地で悲鳴のように上がっているかと思いますが。福祉・介護事業所の深刻な実態が広まる中で、国を動かさなければなりませんけれども、地方自治体でも独自で何かできないかと。全く財政規模も違いますけれども、東京都世田谷区では独自の給付金支給を決めた。訪問介護事業所に、1事業所に8万8,000円、その他の介護と障害の居宅系サービス事

	<p>業には28万円、介護と障害福祉の通所・入所施設には定員1人当たり2万7,000円予算は8億7,000万ということです。昨年9月の補正予算が通ったと。</p> <p>本当に全然規模も違いますし、言えませんが、こういう例もあると。町単独では、とてもちよつと言えませんが、佐久広域でもやはり人手不足ということは深刻で、議題に上がっていると思いますけれども、こういう独自の支援体制の構築だとか、そういった話はないのか、ないとしても、ぜひ検討をしていただきたいと思いますけれども、このあたりは町長、いかがでしょうか。</p>
町長	<p>長野県には1つの不交付団体、軽井沢町だけがございます。したがって、予算の配分というものがどうしても国・県中心になってしまうというのは、この地方自治の根源でございます。そうした中で、その予算をどこに当てはめていくかというのは非常に重要な私どもの仕事でございます。そうした中で、幾らかでもというような形になろうかと思っておりますけれども、それなりの努力は常にしているつもりでございます。</p> <p>議員さん、どこの意見、ここの意見という意見をたくさんお持ちのようですので、町には相談していただければ必ずご返事申し上げます。そういうこともお伝えしていただければありがたいというふうに思うんですけれども、そういった行政側の努力というものも、やはり町民の皆様に分かっていただきたいと思いますというのが心情でございます。</p> <p>それで、単費で具体的にどうのこうのというものはこの場では申し上げられませんけれども、そういった方向はしっかり捉えて進めていきたいというふうに思っていますので、常日から申しております風通しのいい仲でいましょう。</p>
5番議員	<p>方向は捉えてしっかりということで、ぜひ、もちろん議会としても一緒に進めていきたいと、本当にケア労働に対しての皆さんに対しての、国があまりにひど過ぎるということで、そこも動かしていきたい。皆さんとご一緒に、私も取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>時間なくなってしまうので申し訳ないんですけれども、2番目、子育て支援に移ります。</p> <p>こども課が新しくできて2か月となりました。でも、まだまだ、え、こども課という声もあつたりだとか、どういうことって、なかなかちよつと理解がされてないかなと思いますし、また、大変残念ながらこども課長が療養中ということで長期不在になっている。</p>

	<p>そんな中、保育園も先生が園長先生になり、事務をやらなければならなくなっているだとか、児童館も、結局今後増設していく中ですけども、人が減ってしまったという、そういう状況。もう非常に私も苦しい、子育てしながら、現場で一緒にお話ししたりしながら、本当に苦しいなと思いつつながら見ていますけれども、私はそういうふうに見ていますが、こども課をつくって2か月、どのようになっているのか、ちょっと端的にお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>お疲れ様でございます。</p> <p>議員さんおっしゃられましたように、課長が不測の事態が発生してしまったということでございます。</p> <p>いずれにしましても、この4月に子育て支援課を教育委員会へ移しまして、こども課として設置をさせていただきました。子育て支援、そして先ほど障がい者の議論もなされておりましたが、町民課長も申し上げます障がい児への一貫した支援、そういうこと、そして新しいニーズにしっかりと対応していく。幼児期から学齢期、そして18歳まで、一体的な施策の展開を進めていく。そして、教育委員会、学校、保育所、この連携、そして保健福祉分野が一層連携しまして、子供たちが生き生と育つ環境、このような環境に努めてまいりたい、こんな思いで、議員の皆様をはじめ町民の皆様にご理解をいただき設置をさせていただいたという内容でございます。</p> <p>保育所、小学校、中学校の連携、そして個別な支援が必要な子供さんへの長期的な、継続的な支援、教育委員会が保育所から学校への移行支援の連携強化、そういうことを目指すとともに、令和8年4月開設を目指しておりますこども家庭センター、母子保健から18歳まで一体的な支援体制を構築する、このようなことにつなげてまいりたいということでございます。</p> <p>いずれにしましても、障がい児、その皆さんへの適切な対応、小学校入学の不安や心配、そしてそのような心配の早期な解消、本人、保護者へ寄り添った相談支援、学校へはなかなか聞けないが困った、役場のどこへ聞いていいかわからない、そういう皆さんの不安の解消をすることが大切であると考えております。行政は住民の皆様の不安を解消する、安心の提供が最大の行政サービスだと感じておるところであります。</p> <p>そして、保育所におきましては、先ほど議員さんもおっしゃられましたが、保育士から園長を登用をしております。現場を熟知した中での保育所運営を目指す、そして保育所のある一定の事務を担当をする。そしてもう一つ</p>

	<p>は、現在、教育委員会、教育関係全般、そして組合立の中学校の事務、二本立てで担当しております教育委員会の課長補佐、職務が多忙でなかなか仕事が回らない、その業務の膨大さを、今度はこども課長がある一定の分野を担当をしまして柔軟に進めてまいりたい、このような構想でございました。しかしながら、先ほど冒頭に申し上げましたとおり不測の事態が発生をしまして、なかなか思うように回らない、これが課題でございます。以上でございます。</p>
<p>5 番議員</p>	<p>こども課長の不測の事態というのは本当に残念なんですけれども、私たちもこども課設置について反対はしなかったですけれども、やはり現場は大変混乱して困っているということを本当に感じています。</p> <p>そんな中で、保育園のバスについても、去年の保育園保護者会の中で、ちょっと安全性の問題で検討しているということが言われ、3月になってから、バス、ちょっと検討したいというアンケートが取られましたけれども、取られて、バスについてはちょっと全協で詳しくということになりますけれども、明日から保育園という中で、突然前の日の午後3時過ぎに、オクレンジャーで明日からやめますということが言われてしまったりだとか、そういうことが起こってしまっていると、やはりこれは現場が本当に追いついていないんだなということで、私も本当にちょっと反省をしているところなんですけれども、結局そうやって現場にしわ寄せがいつているというのは、子供たちにしわ寄せがいつているということで、子育て推進支援会議の中でも、そういう保育園のバスだとか児童館を拡充するに当たって、しっかりと人員確保をしてほしいというご要望もあったかと思えますけれども、そのご要望に対してはどのように応えられるか、先ほど教育長、安心の提供のサービスが一番の仕事だということをおっしゃいましたけれども、そのあたり、しっかりとその声に応えていただきたいと思いますが、お願いします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>保育園のバスにつきましては、4月から運行を一時的に休止をしております。これにつきましてはいろいろな理由があるわけでありますが、一番は安全確保、それを最優先にさせていただいたという内容でございます。そして、突然の連絡であったということ、これは本当にただただおわびを申し上げ、説明を申し上げる、そういう姿勢でございます。</p> <p>そういう中で、保育士にしわ寄せがいつているというお言葉がございましたが、これは保育士からの強い提言でございます。保育士にしわ寄せがいつているんじゃないかと、保育士のしわを伸ばした形の対応でございますの</p>

	<p>で、そこら辺はご理解をお願いしたいと思っております。</p> <p>そして保育士不足、それが不安の解消にはつがらないということでございます。保育士がどうして不足をしているのか、それを一つ一つ整理して考える必要がございます。そうしますと、今、保育園には85名程度の子供さんが通園をされている。そして、保育時間は朝8時から夕方4時が標準的な時間でありまして、実際には7時半から夕方というか夜7時まで行っております。そして夕方7時まで、7時というか4時以降を希望される人が五十何人と6割を超えております。そうしますと、毎日職員が4時以降に7人ぐらいの方が対応しなければならない。そして、未満児の方が結構残られる率が高い。0歳、1歳の子が残りますと、保育士1人で2人を抱っこして何とかやるしかない。そういうことでありますので、その皆さんの今度は休暇、そういうものが保育士不足につながってくるという状況でございます。</p> <p>いずれにしましても、そのような保育士不足をどうやって解消していくか、保育士の配置基準は割っておりませんから問題はありませんので、今度は子育てに真剣に向き合っていただける、そういう皆さんを手伝っていただけるようお願いをしていく、そういうことを真剣に取り組みまして、何とか運営をコンスタントに回していきたい、そのような考えでございます。</p>
5番議員	<p>ちょっと時間配分が下手くそで申し訳ないんですけども、終わってしまいますけれども、本当に子育てに関しても不安を取り除くということで、しっかりと取り組んでいただきたいと思えます。また委員会などで議論させていただきたいと思えます。</p> <p>以上で終わります。ありがとうございました。</p>
議長	<p>以上で、第5番 渡邊晃子議員の質問を終わります。</p> <p>これより1時まで休憩といたします。</p> <p style="text-align: right;">(ときに11時56分)</p>
<p><u>第12番 渡辺 均 議員</u></p>	
議長	<p>休憩前に引き続き会議を開きます。</p> <p>次に、第12番 渡辺均議員の質問を許します。渡辺均君。</p>
12番議員	<p>よろしく申し上げます。12番渡辺均です。これから一般質問を始めさせていただきます。</p>

	<p>4年間、町政を外から眺めながら、幾つか思い当たることがあり、これで小海はよくなるのか、大丈夫なのかという思いを募らせ出馬いたしました。議会の若返りを訴えつつ、気がついたら最年長の議員になっており皮肉な結果になったと思いましたが、選ばれた以上は掲げた公約の実現に向けて目いっぱい励みたいと思っております。よろしく申し上げます。</p> <p>初めに、パワハラ問題についてお尋ねします。</p> <p>4年ほど前に、パワハラ問題を耳にしました。その後、当事者と目される元職員の副町長人事がありました。パワハラの実態関係や因果関係は実態の見極めが非常に難しいのですが、一つ間違いなく言えることは、若い、前途有望な職員が役場に入って半年余り、体調を崩し休職、そして退職という事実があったこと、これは否めない事実でございます。二度と繰り返してはならない案件だと考えております。このことを町長はどのように受け止め、どのように対処したのか。あるいは再発防止対策、何か講じたのか、その辺について初めにお聞かせいただきたいと思っております。</p>
町 長	<p>通告の中で、このような個人的なものの取扱いということですので、個人的なものについては差し控えさせていただきます。</p> <p>そして、退職なされました女子職員につきましては、ケアのほうは町のほうでさせていただいたつもりなんですけれども、やはり相對の関係がございまして、十分かどうかということについてはご当人のお考えだと思います。</p> <p>また、パワハラがあったかないかということについては、4年前お答えしましたが、これはなかったということで処理をさせていただきました。各関係機関とも相談させていただいたことでありますし、それから、これも個人的な問題になりますので、それは差し控えさせていただきたいというふうに思います。</p> <p>また、当該職員につきましては、言動等々についても慎むようにということで個人的な指導はしてまいりましたけれども、そういったことにつきましても、やはりこれは個人的な問題になってしまうかというふうに思います。</p> <p>それから、町長の立場として、それをどうかということになりますと、やはりパワハラと思われても仕方ないような言動、あるいは行動は慎むべきだということで、全職員にそのことはお伝えいたしました。</p> <p>以上です。</p>
12番議員	よく耳にする弁名の意見のように私には捉えられます。もちろん個別的

	<p>な、プライベートな問題について私は問うているわけではなくて、あった事実はあった事実として認めて、その事実をいかに今後の町政運営、職員のモラルを管理していく、モチベーションを高めるためにどういったことを考えたのかということは、プライバシーの問題とは別個の問題で答えられるんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
町長	<p>ですから、今申し上げたとおり、十分に検討させていただきまして、関係機関ともご相談させていただきました。そういった形の中で結論を出させていただきましたので、それ以上はお答えできませんということです。</p>
12番議員	<p>今、検討されたと言いましたけれども、どういう検討をして、どういう結果を導いたんでしょうか。</p>
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>議員さんおっしゃられるように、パワハラ疑いが持たれたというこの事実はございますので、この疑われるような事象にならないように、職員一人一人が自己研鑽を努める必要がある。そしてまたこの役場という組織、ここにおきましても、そのように研修等による個人個人の職員のスキルアップ、ハラスメント関係の研修を受けること、そういうことを考えておるということでおります。</p> <p>以上です。</p>
12番議員	<p>分かりました。</p> <p>例えば、今のような答弁が、私は町長からも欲しかったんです。でも、総務課長がおっしゃってましたので、それでよろしいかと思っております。</p> <p>それで、パワハラ問題をご承知のように、兵庫県の例にもありますが、実態解明が非常に難しく、その対処方法も非常に難しいと私も認識しております。それは町長おっしゃるとおりです。</p> <p>私は、その辺の問題を考えるためにいろいろ文献を読みましたが、1点、明るい小海をつくる会、この会が出している会報ナンバー5号で、上位の者は下位の者の訴えに耳を傾け、パワハラ懸念について自らを謙虚に検証すること。さっき私は町長の返事が、果たして自らを謙虚に検証したのだろうかという疑念を多少持ちますが、1点は、いかに自らの言動を謙虚に反省するか。それからもう一点は、訴えがあったら問題が小さいうちに言動の意図などを調査し、話し合うことが重要であると、こういうことを明るい小海の会では記しておりますが、私もそのとおりだと思っております。</p>

	<p>仕事や暮らしの中で必要なことは、弱者への優しさ、これに尽きると思います。古い映画ですが、有名な男優が、男は強くなければ生きていけない、優しくなければ生きている意味がないという有名なせりふを残しております。</p> <p>元気なまちづくりは町長の方針になっていると思いますけれども、職員が自由に物が言え、やりがいを持って仕事に向かう姿こそが求められます。それは、そのまままちづくりへの意欲に反映されると思います。そのためには、何よりも仕事の現場で優しさが基本に据えられていなければならないのではないかと考えております。元気な方の陰で涙する職員をつくっては意味がありません。その辺、長はどのようにお考えでしょうか。</p>
町長	<p>陰で泣いている職員がいるとは思いません。そして、私、町長就任以来、これで7年になりますが、毎年全職員と個人面談を行っております。そうした中で、7年やりますと、これは私が守秘義務を守っているということが定着してきていると考えております。そういった中、言いたいことを言っていたらということがそうした、全てとは言いませんけれども、いろいろなことの、まず礎になっているのではないかとこのように思います。</p> <p>そして、元気な職員の陰で泣いているという、意味は私はちょっと理解し兼ねるものなんです、それぞれの職員がそれぞれの立場で非常に重要な部分を受け持っていておられます。それを元気にできるようにということでお話を聞いているわけなんですけれども、77人にいけば77通りの返事が来る。それを私が各課、管理職を中心に是正するものはする。それで聞くものはちゃんと聞いております。</p> <p>したがって、そういった方向で一つ一つのことをやらせていただいておりますので、いろいろ聞けば、愚痴のようなことも多少はあろうかと思えます。しかし、それは私のほうで本当に、1人30分から40分なんですけれども、そういう中で、職員の皆さんにもお伺いした中で進めているという事実はございます。したがって、それ以上のことがあった場合には、私のほうへ直接、あるいは課長の、管理職のほうへ申し出るように指導はしておりますので、ぜひご理解ください。</p>
12番議員	<p>分かりました。</p> <p>従前に対処していると。しかしながら、時にはそういう問題も起きて、そのときには町長なり課長なりに相談してほしいと最後のほうで返事をいただきましたけれども、後のほうでその問題点をもう一度言いますけれど</p>

	<p>も、パワハラに限らず、セクハラとかモラルハザード、いじめやストーカー、こういった問題が多発しておりまして、その結果、ひきこもりや家庭内暴力など、表面化しない案件も多々生じております。</p> <p>ハラスメントや過度なストレスにより精神障害や過労死、自殺なども含めてよく発生するわけですが、そういう事件の後には総じて事件実態の解明に向けて第三者委員会というものが設置され、公正中立な判断が下されるケースが多々あります。その中で加害の実態が解明され、加害組織や関係者が深々と頭を下げる姿をよく見かけるわけです。その頭を下げる方々の多くは、従前にその実態を認めようとせず、言い張りながら、第三者委員会がだんだん事実確認にしてみると、待たなして頭を下げざるを得ない状況が多々生じておるわけでございます。それでその結果、被害者の訴えが認められ、そのときの被害者の声は多くの場合、私たちのような被害者を二度と出してほしくないという言葉に集約されます。しかし、実態は繰り返されてもいます。</p> <p>今の小海の問題をこれ以上取り上げるつもりはありませんが、一つ提案させていただきます。事後でなく事前にあらかじめ第三者的な窓口を用意し、問題が小さいうちに、事件が生じる前に事件の芽を摘み取る、誰もが気兼ねなく、どんな些細なことでも無料で相談でき、その訴えをまずは支援する、そういうよろず相談所のような組織、窓口を開設したらどうかと思っております。この辺の考えについては、町長はどんなお考えでお受け止めでしょうか。</p>
町 長	<p>議員の仰せのとおり、問題というものは本当に小さい、仮に問題があるとすればですよ、その小さいうちに処理するというのが一番の策だというふうに思います。それよりももっとすごい策、すばらしい策というのは、事前のそういうことを未然に防いでいくということが必要不可欠でないかというふうに思います。十分に参考にさせていただきます。</p>
12番議員	<p>ありがとうございます。私も町長の意見に大賛成でございます。</p> <p>それで、このよろず相談所については、実は佐久総合病院の発刊している「農村医療の原点 若月俊一から何を学ぶか」、この本の中の41ページと49ページに清水茂文先生、前の分院長で、老健の施設長もやられた先生が、このよろず相談窓口の必要性を説いております。</p> <p>それで、なぜパワハラ問題の案件について医療機関が出てくるか。職場や暮らしの中で生じるハラスメントの被害者は、当然多くの場合というか、ほとんど弱者です。社会のひずみというのは往々にして弱者にしわ寄せさ</p>

	<p>れ、弱者はその結果、心身の不調に陥るのです。したがって、弱者に寄り添う相談窓口は、医療、病院と連携した第三者機関に私は求めたいと思っております。</p> <p>確かに現状で、さっき町民課長からも様々なケアのサービスが用意されておりますと、地域包括支援センターなどに社会福祉士や精神保健福祉士などが用意されています。ただ、これらの方々は行政職員なんですね。例えば、児童は先生に訴えればいいたろうというけれども、先生と児童は対等の関係にしている以上、第三者的な意見は求めにくいわけです。当事者同士では相談しにくい現実があります。そこでは問題は解決されないで闇に隠れてしまう。あくまでも第三者が必要で、その第三者の支援の下に、弁護士や広義のソーシャルワーカー、これはちょっと説明すると長くなりますので、またいずれかの機会に提案しますけれども、狭義のソーシャルワーカーでなく、制度的に承認されたソーシャルワーカーではなく、間口の広い相談窓口を担うソーシャルワーカーという意味なんですから、それを対処してよろず相談所の開設、制度の立ち上げを検討し、そういった検討会を編制できないかと思っておるんですが、町長あるいは町民課長、その辺はいかがでしょうか。</p>
<p>総務課長</p>	<p>ハラスメント関連の問題と受け止めまして、私のほうからお答えいたしたいと思います。</p> <p>渡辺議員さんおっしゃいます社会一般的な弱者、これに当たる場合ですけれども、今、ホームページ等で広報もされておりますけれども、企業や事業所のハラスメント、その他もろもろの働くということに関しての相談窓口、こういうものは既に県の窓口であります東信労政事務所、こういうところで取扱いをしております。またそのほかでも、総合労働相談コーナーなどで案内がされておりますので、このような窓口を役場のほうに、町内の案件があった場合には、そのようなご案内をするということになります。</p> <p>また役場という一つの事業所のことにつきましては、その窓口は一義的には総務課で扱いますので、問合せ、職員に対する相談、そういうものは総務課総務係または管理職であり、直接、先ほどの町長面談の中の町長であったりと、相談しやすい人に相談をするというのが現状でございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>12番議員</p>	<p>先ほども少し触れましたけれども、弱者に対する認識というのが、私は欠けているんじゃないかなと。確かに弱者として、私はこういうハンデを負</p>

	<p>っているからとしっかり言える方は弱者の中でも強い人です。弱者の中の弱者は、自らそういうサービスや機関に相談をなかなかしない方々、表に出ない方々こそが、極めて深刻な弱者として存在するわけです。その方々が自殺したり孤独死したり、そういう自ら命を絶っていく、そういう被害者になっていくわけです。そこにどういうふうにアクセスするか。来ないから悪いんだ、行政はこれだけ用意している、それで終わるなら私はこの質問をやめます。でも、それじゃ弱者は救えないんです。弱者の弱者たるゆえんは、問題提起ができない、アクセスできない。</p> <p>ちなみに日本の風土として、世間に世話になることはいかがなものかという風土がややもすればあります。生活保護を受けるということに対して、一種の何となく後ろめたさというか、引け目というか、それがなきにしもあらずです。その結果、受給条件を満たしているにも関わらず、保護を申請している方々は2割とか3割程度ではないかという数字もあります。</p> <p>こういう弱者に対するきめ細かな配慮こそが、私が相談窓口を医療機関をベースにして設置したらどうかということをお願いしておるわけです。この辺をしっかり考えて、ぜひ、本当の意味で声が上げられない方々をも救えるような相談所、これをやれるのは、私は医療機関ではないかなと。医療機関に設置して、もちろん医療サービスの対価にはなっておりませんので、そういうサービスを医療機関に託しながら、窓口的には医療機関に担っていただくということを検討しておるわけでございます。</p> <p>ぜひ町長、そんな考え方で、しかるべきときまでに、このよろず相談窓口、この本を読んでいただきながら立ち上げれば、逆に言えば、国がやっていることをどうのこうの、先取りの小海はやれると、そういうことで、非常に小海町の情報発信力が高まると思っておりますので、一言、町長、その辺のご感想をいただけますでしょうか。</p>
<p>町 長</p>	<p>手前どもに訴えが届かないということが、これは仮にあれば、これは非常にいけないことだと思います。包括等々の中で職員、それぞれ動いておりますけれども、できる限り届けていただくというのが我々の使命でもあり希望でもあります。そうしたことをつくることによって、一つでも解決できるということがありますならば、積極的に推進していきたいと思えます。</p> <p>また、今伺いして、医療機関にという形なんですけれども、医療機関は、はっきり申し上げて受けてくれないと思います。というのは、もう手いっぱいと言っていますので、これはやっぱり役場の組織の中に設けてい</p>

	くべきではないかというふうに考えております。
12番議員	<p>どの窓口にするか、役場にするか医療機関にするかは、また研究会でも立ち上げてやっていただきたいと思いますけれども、パワハラと、それを事前に予防するための質問は以上で、途中ですがやめさせていただきまして、次に、過疎と高齢化についてお尋ねしたいと思います。</p> <p>小海、相変わらず人口減少しておりますけれども、その原因と対策、それからその対策の成果等踏まえながら、今後どのような取組を、人口減少に対して取り組んでいかれるのか、町長、お聞かせください。</p>
町長	<p>はっきり申し上げまして、歯止めの利かない人口減少になってきております。これといった施策があるならば、どこもやると思います。私もやります。しかし、この勢いを止めるのが精いっぱいというのが現状だと思いますが、移住定住を含めた中で、それから昨年行いました宅地造成ですとか具体的な例になるんですけれども、なかなか物価の高騰等がありまして、うまく進んでいかないというのは実情でございます。</p> <p>しかし、用意はしておかなければ、これはいつでも、すぐに対応という形にいかないと思いますので、とにかく出生が一番、最大の人口減少を止める一つだというふうに思っております。そちらのほうも、町の中で20人から30人、申請が出てきております。それはここ何年か、ずっとがくっと落ちることなくて進んでいるのが現実でございますので、ぜひその辺の施策に重点を置いて進めていきたいと思っております。</p> <p>急激な人口増は望めないわけですので、町の魅力を精いっぱいアピールし、それで続けていくということが必要です。そういう方向で続けさせていただきたいと思っております。</p>
12番議員	<p>本当に仰せのとおり難しい問題で、全国津々浦々で対策を考えているけれども、なかなかいい処方はないという中で、私はこれなら小海にできる、小海にしかできないという案をこれからご提案させていただきます。</p> <p>それは、先ほども医療機関を取り上げましたけれども、医療や介護、福祉を軸にしたまちづくりでございます。その要点は、雇用機会をしっかりとつくり出しているからです。町の雇用は、少し整理しますと、小海の町の雇用は医療と教育で支えられています。昼夜間人口比という指標がありまして、これは小海は非常に昼間働きに来る方が多いんです、統計的に見まして。約4%、夜の人口よりも昼間の人口のほうが多いんです。時間の関係で、その詳細を説明することは省きますけれども、例えば小海分院だけで204名の従業員、老健も入れてですね。これはほぼ土木建築の従業者と同じ値</p>

	<p>でございます。これに小・中・高の教育の先生方が入ってきますと、やはり雇用機会は小海は非常に確保している。</p> <p>問題は、人口を増やすのはなかなか難しいけれども、何とか流出を防ぐ2つの方法があって、増やす方法と減り方を防ぐ方法があって、小海の雇用を支えている小海分院関係の経営状態が非常に悪化しております。</p> <p>本年の3月15日に総合センターで車座会議が開かれ、由井院長が厳しい経営状況を語りました。従業員の手当をカットという話が出ました。世間では初任給30万超という景気のいい話がありますが、我が町では町民の命と健康を支える医療機関、そのサービスに関わっている方々の給与が十分に賄われない状況が生じ始めております。</p> <p>町長もこの車座に参加しておられましたけれども、改めてこの話を聞いてどのようにお感じになったのか感想を聞かせください。</p>
町長	<p>渡辺議員仰せのとおり、3月15日、私も参加させていただきました。そして現場で働く、私は1というところでやったんですけれども、先生の本当に生の声をお聞きしました。</p> <p>そして、小海分院長の切実な声として、やはり組織に入って長に立ってくると、ボーナスの部分を多少カットしなければ、これは数字が合わないというお話でございました。私、非常にショックでございました。この地域を代表する組織の中で、そういうことが起こっているんだなということは実感したわけです。そして、ああやって医療、お医者さんをやりながら経営もやってくということに非常にプレッシャーがあるんじゃないかというのを感じたわけで、何のところで、私、言っていますけれども、風通しのいい仲というものを言わせてもらっているんですけれども、そういったものがまさに必要じゃないかなというふうに直感いたしました。そしてお医者さんと、感想だから言いますけれども、偉くなればなるほど大変だなというのが私の思ったところでございます。</p> <p>しかし、ああいったこととお話ししていただける、あるいは私どもの感想も聞いていただけるということは非常に大切なことだという有意義な会であったことは確かだというふうに思いました。今、議員、感想ということを書えということですので、その辺で感想にさせていただきます。</p>
12番議員	<p>会の感想と同時に、そこから導かれる一つの町への課題として、私はまずは補助支援が必要ではないかと。その具体的な話としては、町は長期振興計画で分院への補助金を年1,500万円、5年間用意しております。今までもそういうふうにしてきたわけですし、それが立ち行かなくなってきたい</p>

	<p>るわけですから、まさにゆゆしき状況を車座で指摘されたわけですから、これに対して、町としていかに分院の持続的な維持管理、これを担保していくのかと。</p> <p>参考までに、佐久穂町では、これは千曲病院、町営病院ですけれども、昨年度で3億5,198万円の補助が出されています。それで、さらに1億円の赤字が出ていると事務局長さんはおっしゃっていました。分院と一緒に南部地域の医療を支える2つがあるからできるんだということもおっしゃっていました。</p> <p>2つの話から、小海町では、分院の支援について切実な危機感を持って、喫緊の課題として取り組むべきではないかと私は思います。それは、先ほど申し上げましたよろず相談窓口の開設と一体的に医療や介護・福祉面で、小海ならではの、小海だからこそ可能な医療を軸にした介護・福祉の充実した優しいまちづくり、これを具体化するための調査研究活動の取組を、ぜひ分院とか関係機関を併せて、これからの医療・介護・福祉を軸にしたまちづくりビジョンをしっかりとつくっていただきたい。それを長期振興計画にしっかりと反映させて、分院が万が一にでも縮小とか統廃合とかの状況に陥らないように事前に対処をお願いしたいと思うんですが、町長、いかがでしょうか。</p>
町長	<p>佐久穂さんは4億、5億のお金を投入して町営でやっているわけです。しかし、小海分院に限っては、診療所も含めて、南佐久、南部の医療を一手に引き受けていただいて、さらにそこから診療所への派遣もしていただいております。これがやはり窮地に陥るということになれば、私どももこれは黙っているわけにはいかないのは当たり前でありまして、その辺を、どのくらいのをどういうふうにすればいいかという数字的なものも出てこようかと思えます。</p> <p>たまたま隣組ですし、議員おっしゃるように本当に大切にしなければいけない機関でもありますし、一緒に仕事をしているという仲間でもありますし、そして、先ほど昼間の人口の件でおっしゃいましたけれども、一番昼間、働きに来ていただいているという1,091人、一昨年の調べで1,091人の方が昼間は仕事に来ていただいて、899人が出て仕事をしているという数字もございます。その数字の一番核が、この病院関係ではないかというふうに思っておりますので、その辺はやはり我々が本当に後押しするとか、後押しというよりは頼んでいてもらっているというのが現状じゃないかというふうに思いますが、その辺の関係はしっかり構築してい</p>

	<p>きたいというふうに思っております。</p>
<p>12番議員</p>	<p>今、町長の言葉の中に、揚げ足を取るわけじゃないんですけども、厳しい状況に陥りつつあるとすればとおっしゃっていましたがけれども、まさにボーナスをカットするような事態というのはゆゆしき事態なんです。そこをしっかりと認識して、今まさに取り組むべき、私が申し上げました喫緊の課題であるという認識で取り上げてきたいと思います。</p> <p>それから、人口減少対策と並行して、高齢化の問題も大きな問題であります。私の認識は、小海では高齢化しても、高齢化というのは否めない事実ですね、毎年1歳ずつ年を取るわけですから。問題は老齢化しない対策をどう取り組むかと。老齢化防止活動、これは主に社協さんが一生懸命やっていたいています。</p> <p>具体例としては、パワーアップ貯筋事業があります。このパワーアップ貯筋事業、これで、例えばですけども、参加者の貯筋事業を受けている参加者が医療費が安くて、不参加の人が医療費が多くかかっているという事実がもしあれば、かかっている方々にも積極的に貯筋パワートレーニングに参加していただく施策を取れば、老齢化の防止にもなるし、健康保健事業の改善にもつながる。労齢化を防ぎつつ経済効果も発揮できるという、一石二鳥の事業に育てていくことができるわけです。こういう活動を、先ほど調査研究活動の取組をお願いしたいという中に入れて、分院の先生方やいろんな人たちのテーブルで検討して、先進的なまちづくりの一環として町は取り上げていくということを提案したわけです。</p> <p>今、貯筋活動の説明をしましたがけれども、これを担っている社協の運営にも、実は赤信号がともっております。過日、理事会で収支の厳しい状況が報告されまして、基金の取り崩し、それを補填する補正予算への申請というようなものが検討されました。社協の経費は多くが人件費で、手当が不安定では職員は安心して働きません。必要とする人材も確保できない状況になると容易に想像できます。分院と同じような状態が社協にも生じつつあるわけです。</p> <p>町民の命を守る医療と、労齢化を防ぎ医療費削減をもたらすサービス、これを支える社協の存続が、2つとも赤信号がともっている現実が、今、直近の町の中で生じつつあります。このような事業を新しく、単なる補助ではなくて町を再生する事業として、私は取り組んでいくべきではないかと思っておるわけです。</p> <p>例えば、今、国でも医療費の削減等を含めていろいろ年金の問題とかもあ</p>

りますし、検討されているようですが、総じて見れば中山間地の医療や介護・福祉は、現在国が進めている改革では、中山間地では非常に成り立ちが困難ではないかと思えます。それは病院経営にしても、社協経営にしても、人口減少という前提が国には一方ではあるけれども、どうしても都会が中心になっておりまして、中山間地域の課題、問題はストレートに国は取り上げられない現状があるように考えます。

こういう中で、実は佐久病院の故若月先生は、国に先駆けて訪問医療や予防医療を実践されました。それらを国が見て、国が後から制度をつくってきた。今、私が先ほどから申しました調査研究活動は、小海分院を軸にして、過疎と高齢化を抱える中山間地で、新しい予防や医療・介護を軸にしたまちづくりができれば、これは国に先行して新しい社会モデル、医療モデル、介護モデル、そういうものに生かせるのではないかと、そういう積極的な意味を持って、私は分院への調査研究活動を提案し、一緒に土俵で考えていきたいと、1,500万の補助をやるというんじゃなくて、一緒にまちづくりを考えようと。

これは若月先生の、医療は地域とともに、農村社会とともに、農村社会は医療とともにという哲学にも符牒するものでございます。こういう哲学をもって、新しい長期振興計画に肉づけをしていただきたいと、地域のリデザイン、あるいはリライブですか、そういう言葉が憩うまちこうみ事業やそのほかの事業で使われておりますけれども、まさにこういった哲学、考え方で、医療福祉介護を軸にしたまちづくりをすれば、それはすばらしい、明日の小海をつくる事業に生まれ変わっていくんじゃないかと思えます。今、憩うまちの話が出ましたけれども、まずは町民が憩える町にしなければ意味がありません。町民の憩う姿をお裾分けするというのが、町外の人々へのサービスです。そういう意味で、社協の予算も分院の予算も、町を支える基幹産業としてじっくり中身を検討して、骨太のまちづくり計画に反映させていただきたいと思うわけです。

実はこれらの取組は、町長が一生懸命進められております憩うまち事業とも連携できます。例えばで書きましたけれども、相乗効果を生み出すシナリオ、例えばITなどに関わる連携・提携企業、三十数社ありますよね。従業員のテクノストレス対策が肝腎とされております。大きな関心と予算が企業でも支払われております。田舎で暮らす人々とは異なったストレスにさいなまれる都会暮らしの方々へのストレス解消サービスの提供を町の事業として取り組めないでしょうか。

例えば北相木の松橋先生は、森づくりを作業療法的に生かす手だてを紹介しております。ちょっと今は中断しているようではございますけれども。提携企業に一定の林地を用意し、企業の森として育林や造林活動を施し、テクノストレス解消を図る。これは林野庁が描いた森林セラピー事業の草分け的な取組です。財産区と連携し、新たなふるさとの森づくりなどいかがでしょうか。SDGsやゼロカーボンシティ構想にもしっかりと通じる事業になると私は思います。

要は、私が見て危惧するのは、個々の事業が有機的な連携が図れていないということです。もう少し有機的な連携が図れるような運営体が、役場の中に推進母体があれば非常にいいなと思っております。

最後に、先ほど黒澤議員から地域文化の継承というものが非常に重要であると、町長も、スケートは小海の文化であるということをおっしゃられました。私もそれに全く異存はありません。しかしながら、その文化の範疇に医療も入れていただきたい。この本は八十二文化財団が出しております、今年度の4月号で地域文化特集を組んで、その中で中村安秀先生という、若月先生の東大医学部の後輩の方が、若月先生を偲んで、こちらに来て寄稿された文章だと聞いておりますけれども、医療は文化であるとはっきり明示しております。今、地域社会を活性化させる大きな手だてとしては、文化を事業化するというのがテーマです。そういう意味では、三番叟もスケートも、決してこの範疇に外れるわけじゃないんですけれども、そこで一つ言えるのは、経済効果という考え方です。

分院は二百数十名の雇用を確保して、しかも、町民の命を支えるサービスを提供している。そこに長期振興計画では年間1,500万円の予算です。他方で、スケースセンターには5年間で6億余りの予算が投じられます。この費用対効果を皆さん、どう考えるか。私はスケート文化を否定するものではありません。私もスケートで小・中は頑張りました。

ちなみに、スケート文化を守るために町内からエムウェーブにバスを定期便で走らせたときに、一回幾らかかるか試算していただきましたら、11万円か12万円で往復できます。年間20回シャトルバスを運行しても、200万で小海のスケート文化は守れるんです。

先ほど町長は、渡邊晃子議員の質問に予算の配分がと言いましたけれども、まさにその配分の仕方に町長の哲学が示されるわけです。私は、あえて申し上げますけれども、もう一度配分を考えましょうよと、本当に必要な町の文化、それは三番叟でもいい、スケートでもいい、御柱でもいい。

	<p>しかしながら、直近の文化を支えている医療、介護・福祉を支えている社協の存続が非常に危いときに、果たしてそういう余裕があるのかと。まずは直近の大きな課題・問題にしっかり取り組むべきではないだろうか、そのように考えるわけです。</p> <p>私は傾聴ボランティアというのを長くやっておりました。一昨年、私の担当だった方がお亡くなりになられまして、非常に寂しい思いをしたんですが、その方が私に行くたびに言うのが、なべさん、俺と一緒に昼飯食っていかねえ、俺、かつ井頼むからさという言葉です。私は11時から12時までの傾聴ボランティアの時間でして、11時半頃、社協の方が宅配の弁当を持って来るわけですね。それで、なべさん、一緒に食べようよと。だけれども、傾聴ボランティアは規約として、そういうことを一緒にしちゃいけないというふうになっているので、悪い、いつも後ろ髪を引かれるような気持ちで後にしたわけですがけれども……</p>
議 長	<p>渡辺議員、通告からちょっとそれてきていますので。この4番の憩うまちこうみ事業、そこの通告からそれてきていると思いますので、しっかりまとめてください。</p>
12番議員	<p>分かりました。</p> <p>要は、先ほどの弱い人をつくらない。声が出せない人が弱い人で、そういうことで宅配の問題で、もうこれ以上申し上げませんが、独り暮らしの高齢者をつくらない、そういうことを申し上げて、ちょっと今問題がよそへ行っちゃいましたけれども、そういう取組をぜひやっていただいて、私がお願いした相談窓口の設定とか、それから医療機関を通じた調査研究組織の立ち上げとか、それから長期振興計画への肉づけ、その辺についてしかるべきときにどういうふうにするか、最後に町長に、その取組の意向について話を聞かせただければと思います。お願いします。</p>
町 長	<p>多岐にわたります、多様にわたりますいろんなご意見、提案ありがとうございます。</p> <p>十分、私は聞く耳を持っているつもりですので、そういったところで、また一緒に検討していただきたいというふうに思います。</p>
12番議員	<p>ありがとうございました。私も様々な提案、町長にも差し上げて、一緒に切磋琢磨できればと思っていますので、よろしくお願いします。</p> <p>これで私の質問を終わります。</p>
議 長	<p>以上で、第12番 渡辺均議員の質問を終わります。</p> <p>これより2時5分まで休憩といたします。</p>

第2番 小池 喜昭 議員

議 長

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。
次に第2番 小池喜昭議員の質問を許します。小池喜昭君。

2番議員

第2番、小池喜昭でございます。
私はこの4月の町議会議員選挙で、多くの町民の皆様にご支援、ご協力をいただきまして、この場に送り出させていただきました。感謝とともに御礼申し上げます。ありがとうございました。どうぞこれからも議員として一緒に活動させていただきますので、よろしく願いいたします。
初めての一般質問であり、不慣れなため、的外れな発言やお聞き苦しい点多々あるかと存じますが、よろしく願い申し上げます。
通告に従い、まず初めに役場職員の勤務状況について質問をさせていただきます。
小海町の町民が元気で明るく安心して過ごせるためには、役場職員が元気で働きやすい環境にあることが必要不可欠だと思います。
最近の役場の職員の応募数や採用が令和3年から同7年までの5年間の間に応募総数71名、うち町内からの応募が14名、20%、そして、採用につきましては、20名の採用があり、町内からは8名、40%と、町内からが少なくなっております。現在令和8年度の小海町職員第1次募集を5月12日から受け付けておりますが、昨日の14時現在で募集が今のところ4名ありますと伺っております。そのうち町内は1名であります。
このように町内からの人気がない状況から、現在の町内の若者たちから見て小海町の役場は魅力がある職場なのでしょうか。併せて、雇用施策をお伺いいたしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

総務課長

お答えいたします。
先ほど小池議員もおっしゃられました直近5か年の採用状況、繰り返しのなりますが、もう一度ご報告させていただきたいと思っております。
5年間の採用状況、町内、町外に分けてお答えいたします。
令和3年度から7年度までの5年間で、町内の応募者が14人、そのうち採用者が8人ということで、率的には57%ということで、結構な数字でございます。これに対しまして町外の応募者、57人で採用者が12人、率でいいますと21%ということで、応募者数は大変も多いわけですけれども、実際

	<p>には、率でいいますと、このようなことになっています。</p> <p>小海町、人口も少ないもんですから、若い方の応募、やはり少ないということになってしまいます。受験資格は年齢のみで、その他の条件、ございません。門戸を広げてもなかなか応募者が増えないのは、小海町の立地が関係しているのではないかと思います。</p> <p>役場から採用通知を出したにもかかわらず辞退されてしまう方、そういう方も少なからずおります。他市町村の比較によって選ばれなくなってしまったのではないかと推測しております。</p> <p>魅力あるかどうかということですが、行政の仕事、ちょっと新卒の皆さんには想像しにくい業種ではないかと思います。行政でも、ある機関では一定期間のインターンシップ、こういうものを取り入れている自治体もあるようでございます。その仕事の内容、魅力については、一般的には事務が多いもんですから、アピール度、何かをつくったぞとか、他に見せられるもの、示せるもの、そういうものが形として余りないことから、アピール度が低くなってしまっているのではないかと思います。</p> <p>あとは、いいましても、私も在籍結構長いわけですが、不景気のときには公務員志向は強くなり、応募者も増えてまいります。そういったところを見ますと、一番の魅力は安定性のようなどころではないかと思います。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>2番議員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>役場職員の勤務だとか、処遇に対する満足度は職員から見てどのように思われているか、教えていただけますでしょうか。</p>
<p>総務課長</p>	<p>こちらにつきましても、職員それぞれの満足度、これも何を持って満足とするか、一つには、仕事の達成感、一番は私たち仕事を持つ職員ですので、目標を持ち、その目標に達成できた。そういう場合には当然やり遂げた達成感という満足度は生まれるはずです。</p> <p>もう一つに、勤務条件というものもでございます。一つの職場としてどうか。休暇ですとか、時間外の勤務、そういったものも満足度という意味での評価にもなってくると思います。</p> <p>有給休暇についてですが、令和6年度分の係ごとの実績が出ております。これは毎年算出するものですが、1人当たり少ないほうは年3日、多い方だと17日ぐらい、幅はございます。年10日ぐらいが平均になるろうかと思いますけれども、それを下回っている係、下回っているという</p>

	<p>のは、忙しいとか、そういうことでなかなか休みが取れないよという係、税務係、渉外戦略係、地域包括支援センター、あとバス、社会福祉、教育委員会という統計上のものです。</p> <p>また、時間外勤務の状況です。これも係ごとに1人当たり勤務時間が大きい係から言いますと、生活環境、商工観光、保育園、農林係、水道、児童館というような順番でございます。</p> <p>一番多い生活環境、月平均1人当たり10.5時間というような、これも統計上でありまして、その年の仕事によって大きいものがある、ない、そういうことで、これは随分差は出てくるものなので、一概にこうだとは言えないわけですが、このような結果でございます。</p> <p>もう一つ、サービス残業というような余り聞くといい印象ではないものなんですけれども、こういったものも少なからずあるのは事実です。令和5年度の役場の職員の統計では、年間で50時間、月に直すと4.2時間ぐらい、それ以上の職員が15人ほど多くいます。合計だと2,200時間というようなことで、これも大変な業務量になるわけですが、こういったところはちょっと職員からすると印象が悪いところになってしまいます。</p> <p>役場につきましては、毎年人事異動がございます。職員の一定数は新しい仕事に向かい合っています。仕事の全容把握にはどうしても時間がかかってしまうということで、居残りといいますか、その内容を把握するために残らなければならない。そこはサービス残業といわれるものになってしまう。こういうことでございます。</p> <p>こんな通常の業務とは別のものに時間を割くということになるんですけれども、全くなくなるということはちょっと考えにくいわけですので、DX化、IT化、そういうものをできるだけ取り入れて少しでも楽にしていって、そのような方法がどうかという提案もさせていただいております。</p> <p>以上です。</p>
<p>2番議員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>年3日から17日の未消化があるというのは、これは翌年に消化できておりますでしょうか。あと、有給休暇の取得率についても教えていただければと思います。今有給休暇を取るのも義務づけられていると思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>総務課長</p>	<p>すみません、先にお話をしていた3日から17というのが取得のほうの数字でございます。有給休暇を取っているほうのもので、残日数、通常年間20日間、休暇があるわけですが、それで平均ぐらいの10日</p>

	<p>を休んだとすると、10日余るわけですね。そうすると、それは翌年度の繰越しということになりまして、繰り越されると次の年には増えるということではございますが、先ほど申し上げましたように、そう年休、取れるものでもなく、多くて17日というふうにお伝えしましたけれども、結局40日が上限ですけれども、上限になっても40日休むわけではなくて、やはり20日以内ぐらい、そんな程度になっているというのが実情でございます。以上です。</p>
<p>2番議員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>今のお話を聞けば、休みも取れなかったり、残業もある程度多かったりするものですから、必要であれば、会計年度任用職員の増加をお考えになってはいかがでしょうか。これはまた後日で結構でございます。ありがとうございました。</p> <p>一応これで、町民が元気で明るく安心して過ごせるのは、職員が働きやすく待遇面でも満足して明るく元気で業務に携わることが必要であると考えております。職員を大切に指導して育ててくださることをお願いして、次の質問に移りたいと思います。</p> <p>次に、安心・安全の対策につきましてご質問させていただきます。</p> <p>昨今の社会情勢から、脅迫や凶悪犯、詐欺グループの行動も拡大し、犯罪も都市から地方へと移行しております。今年1月22日、長野駅前の殺傷事件は皆様もご記憶に新しいと思います。また、昨年9月にも佐久市のイベント会場において傷害事件も発生しております。さらに昨年5月、御代田町のコンビニ強盗未遂事件も発生し、小海町でも昨年1月から4月にかけて空き巣や不審者情報などもあり、犯罪が身近に迫ってきております。さらに、今年2月、小海町内のお宅の固定電話に、年金機構の職員を名乗る男から消費税の関係で2万円の還付金があるので、ATMに行ってください。ATMに着いたら手続を指示します旨の還付金詐欺の前兆電話がかかってきております。</p> <p>電話でお金詐欺被害につきましては、令和6年長野県の被害認知件数が224件、9億4,823万円、佐久署管内でも被害認知件数14件、被害総額9,319万円、実際に報告されていないケースもあり、佐久警察署によりますと、実際にはこの3倍あるといわれております。このような脅迫や凶悪犯、詐欺を未然に防ぐには、多数の防犯カメラが必要不可欠だと思います。</p> <p>一般質問の資料つづりの35ページにございますが、現状小海町の防犯カメラや監視カメラは全部で、平成30年から始まりまして令和6年、昨年の区</p>

	<p>の要請により、親沢に1台、本間上に1台設置され、現在の防犯カメラ、防止カメラが合計28台設置されており、今年も2台予定されておりますが、各集落の入口等にも設置が必要ではないでしょうか。また、観光地である松原湖の十字路とか、そういった部分にも必要ではないかと思いません。</p> <p>防犯カメラの増設が犯罪の抑制につながると思います。この辺でぜひ防犯カメラの増設をお願いしたいと思いますが、そのご意向をお聞かせ願えますでしょうか。</p>
<p>総務課長</p>	<p>お答えいたします。</p> <p>ちょうど資料を提出させていただいているので、少し詳細なことをお知らせしたいと思います。</p> <p>議員おっしゃいましたように、平成30年から防犯カメラ、設置し始めております。この30年頃、児童の通学路ということで、これもやはり事件性のあることをきっかけにこのようになったということですが、小学校の近くはもちろんですが、中学校の通学路の関係付近、また、本間川に高校がございますけれども、馬流駅から本間川に来る途中の本間川集落などに設置はされております。土村の駅前ですとか、馬流の通り、そういった中心部には基本カメラがあるということがございます。</p> <p>このほかに、ちょっと防犯的な要素とは別ですが、台風19号災害がありましたときに、千曲川と相木川、大月川というようなことで、千曲川は本間に1か所、あと千曲川と三沢川の合流点も1か所ございます。それから、あと松原湖の稲子、これもございます。相木川には県が設置しているものがありますので、これについては別のホームページなどでも、インターネットでもご覧になることができます。その後、令和5年になりまして、町村境に必要なということで、国道141号の本間、それから八那池の町村境、こちらに3台設置しております。</p> <p>その後につきましては、令和6年から昨年度、今度集落の要望に応じてということで、やはりカメラは安心なわけですが、撮影というか、映る可能性も、住民の方いらっしゃいますので、町においてはやりません。そういう設置についての了解を得ながらということで、区の要望をもって設置するという方式にしております。</p> <p>令和6年度は親沢区と本間上、村上団地の付近でございます。令和7年についても2台の予算を確保してございます。今後もこのように地区からの区長さんなりの要望をもって箇所を決めて、そして、設置をしていきたい</p>

	<p>というふうに考えております。</p> <p>その点、集落の出入口ですとか、結果的に松原の観光地、そういうところも設置していくことになれば、安心度は高まるということでございます。以上です。</p>
2番議員	<p>ありがとうございました。</p> <p>防犯カメラの設置が犯罪の抑制につながると思いますので、ぜひ今年は2台というようなことになっていますが、来年度以降、数をもっと増やしてでも町内に数多くそういったものを設置していただければと思います。</p> <p>次に、町内の通学路で街灯がなく、夜間は懐中電灯等の持参がないと歩けない場所につきまして、例えば、私の近くの八那池地区なんですけれども、国道141号線から松原湖駅までの通学路、昼間はこうなんです、夜はこうなります。こういったところに街灯とか、今一つはこれです。</p> <p>二つ目は、同じ八那池地区でも松原湖の入口の信号のところ、信号機から公民館へ行く途中が夜はこのように真っ暗です。松原湖入口の南口のバス停付近など、夜になると真っ暗です。それから、八那池公民館から八那池の停留所へ行くところ、車が通っていても街灯があるところとないところとはっきりしています。141号線国道の交差点から八那池の発電所へ行くところ、車が通ってればこういうふうに見えます。ところが、夜になると真っ暗です。</p> <p>こういったことから、町内にこういった懐中電灯等を持参しなければいけない箇所がどのくらいあるか把握されていますか。それとまた、町内に町で設置した街灯等についてお願いいたします。</p>
議長	<p>良ければ、もう一度説明してください。</p> <p>傍聴者の皆さんにも見えるように。</p>
2番議員	<p>国道141号線の松原湖の入口から松原湖駅につながる道路、昼間はこんな感じですが、夜になるとこうなってしまう。</p> <p>それで、国道141号線の松原湖へ向かうところ、交差点のところ。こういった形で昼間はこうなんです、夜になるとこうなります。松原湖入口、南口のバス停のあるところ。夜になると真っ暗になってしまいます。</p>
教育長	<p>お疲れさまでございます。</p> <p>通学路ということで通告をいただいておりますので、私のほうから答弁をさせていただきます。</p> <p>通学路で街灯がなく、懐中電機などが必要なところというご質問でございます。そして、議員、写真を撮られて、具体的な例を挙げていただきまし</p>

	<p>て、本当にありがとうございます。</p> <p>そういう状況であります、今言われるような夜間暗く、懐中電灯がなければ不都合だということの通学路、そういうようなところの箇所は、正直なところ把握してございません。そして、それぞれの地区、区において、そのような危険な箇所、そういうものについては防犯灯を設置するとか、いろいろな対応をされています。それが現状ではないかと。そして、その設置には集落支援事業などをご利用させているのではないかとということを感じております。</p> <p>そして、街灯の数の把握であります、これも通学路については何基あるかということ把握してございません。そういう中ではありますが、街灯と申し上げましても、集落内のいわゆる外の明かりの外灯、それと、集落間の街灯、街路灯のようなもの、大きく2つに分けられるという感覚でございます。そして、集落内の街灯については、防犯灯というような形の中から、町内では令和6年度末で798基設置してございます。そして、それはそれぞれの集落、区で管理をされておまして、その管理費の一部、1基当たり3,000円を町から区のほうへ交付をしている、そういう仕組みでございます。</p> <p>また、集落間など街路灯については道路の安全確保上、また、道路の安全管理者が設置をするということでもあります。町道については134基設置してございます。そういう中ではありますが、通学路に限らず、通学に使ったり、地元の皆さんが夜間歩いたり、今写真のとおりであります。そういうものについては、防犯上の不安だとか、事件、事故を未然に防ぐ、そういうことをしっかり考慮して対応していくのが大切だということを感じておりますが、実際には小学校の校外指導部の皆さんが危険箇所を見つけ出すとか、リストアップしたり、そして、それぞれの区で役員会などのときに、何が不足かということを協議をされて、今度は町のほうへ要望のような形で出されております。</p> <p>いずれにしても、一番利用される皆さんが一番気がつきやすいと思いますから、そういうところで意見を出していただきまして、町、また区、それぞれが協議した中で進めるべきかなということを感じております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>2番議員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>町でもいろいろなところに街灯、それから集落支援等を行っていただきおまして、ありがとうございます。例えばこういった街灯もでございます。</p>

	<p>これが松原湖駅から国道141号線に来るまでの間に2基あります。そのうちの1基ですけれども、これがお幾らぐらいかかっているか、お分かりになりますでしょうか。</p>
産業建設課長	<p>先ほどちょっと調べたんですけれども、特注品でありまして、金額については、当時の金額、まだ調べ切れておりませんので、もう少し調べてみたいと思います。</p>
2番議員	<p>このような街灯が造設費用、工事費含めて多分100万円ではきかないと思います。こういったものを集落支援事業の金額の中で賄えないと思いますので、ぜひこういったものについては、町のほうで設置をご検討いただけないでしょうか。</p>
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>2灯式のもの、それは町で整備したものだと思います。県道、国道の場合には県で実施していただける場合もございますが、町道の場合は町が設置ということです。</p> <p>その灯具につきましては、やはり交通量多い場所のみ設置してありまして、あと、集落間ですとか、それから、交通量少ないところ、防犯的な要素もあるんですけれども、今はそういう大きいものでなくてもLED化になりまして、随分と小さい灯具でも明るさは増しているというものがございます。高いものもいいということではなく明るいもの、夜間でも防犯につながるようなものであれば、それほど費用をかけなくてもできる可能性はございますので、また集落の方々との相談で設置をしていければなと思います。</p> <p>電柱に共架するという方法もございますので、その都度検討してまいりたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
2番議員	<p>ありがとうございました。</p> <p>いろいろとお話ししてまいりましたが、町民が安心して安全で暮らすためには、防犯カメラの増設ですとか、街灯の増設が犯罪の抑制につながると思いますので、ぜひよろしく願いいたします。</p> <p>最後になりますが、町民の皆様には電話でお金詐欺被害を防ぐために、留守番電話の未設置のお宅につきましては、小海町の補助事業にあります消費者被害防止対策機購入補助を利用して、ぜひ留守番電話の設置などをお願いして、私の質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。</p>

議 長	以上で第2番 小池喜昭議員の質問を終わります。
<p><u>第1番 中村 佳太 議員</u></p>	
議 長	次に第1番 中村佳太議員の質問を許します。中村佳太君。
1番議員	<p>1番、中村佳太です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>一般質問に先立ちまして、まず初めに、今回の町議会議員選挙におきまして、皆様からの温かいご支援とご信任を賜りましたことをこの場を借りましてお礼を申し上げたいと思います。</p> <p>選挙期間中、本当に多くの皆様から貴重なご意見をいただきました。今回の一般質問にもその頂いた意見の一部を質問の内容として組み込ませていただいております。町の中で不満に思っていることとか、ちょっと変えてほしいと思うようなことを発信すれば、ちゃんとそれを解決に導くような動きにつながるということを体現していきたいと思っておりますので、引き続き、皆様からの期待に応えられますよう、それを上回っていただけるよう努力してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきたいと思ひます。まずは1番、若年層の移住・定住促進についてを質問させていただきます。これは私が選挙期間中に公約としても取り上げさせていただいたものではあるんですけども、小海町ではかなり以前からも定住促進の事業に取り組まれていて、昔に比べると、周りを見回したときに移住してきた人がかなり増えてきたというような、昔から小海に住んでいるような方たちの声を多く聞きます。</p> <p>頂きました資料を拝見しますと、資料つづりですと、36ページになります。平成27年（2015年）から令和6年（2024年）までの9年間で51人の方が移住されているとのことで、そのうち協力隊が約3分の1を占めており、定住のために役場が積極的な介入をしたことがうかがえます。もちろんこれ以外にも多くの移住者にお越しいただいているのではないかと思います。そういった中で、小海に移住したい方が最初に直面する課題が住宅の不足だと思っております。小海町では、宅地として使える土地が限られており、そういった土地の所有者のほとんどが小海に地縁のある方だと思ひます。また、町内で大きく展開している不動産事業者も少ないため、必然的に町の中で住宅を借りたり、買ったりしようとすると、方法というものがどう</p>

	<p>しても限定的になってしまう状況です。</p> <p>そこで、大きな役割を担っているのが行政の移住・定住事業だと思われるんですけども、現在の町の定住促進施策について、町で認識されている成果と課題をお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。</p>
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>成果と課題ということですけども、ご覧いただけます資料つづりの36ページ、これがこれまでの成果ということなんですけれども、この内訳ですけども、年齢、細かに把握はできておらないわけですけども、ほとんどが仕事を持っている世代の方々ということですので、そういう意味ではまだ生産年齢の方々ということがいえると思います。</p> <p>移住を進めるに当たりまして、町の紹介パンフレットやホームページなど、町情報について提供はしているわけですけども、何分その物件、移住しようにも、移住されて住む場所、ほとんどの方は賃貸の物件を探されている、求められております。空き家の物件、そういうものが現状ほぼないに等しいわけで、そういう中ではせっかく問合せがあっても、今町営住宅しかないですというようなお答えになってしまうと。大変ふがいないわけですけども、そんなことが一番のこの課題というふうにいえると思います。</p> <p>以上です。</p>
1 番議員	<p>ご回答ありがとうございました。</p> <p>今挙げていただいた成果と課題の中で、供給量の不足、家が圧倒的に足りないという課題もあったかと思えますけれども、現在の空き家の状況につきましては、昨年度行った空き家調査にて実態が把握できたというふうに話を聞いております。その内容についてお伺いしたいと思います。</p> <p>資料つづりの37ページをお願いいたします。</p> <p>この頂いた資料によりますと、空き家の総数が197件あり、売買、もしくは賃貸として使いたいというふうに希望している方の数が45棟の結果です。今後町はこの結果を基にどのような定住促進の整備というか、そのあたりの準備を行っていく予定なのかというのを聞けたらと思います。</p> <p>また、現在入居可能な町営住宅が4部屋程度と、これも時期によって大きく変わってくるので、どうなんだというところはありますけれども、現在町営住宅は足りているという認識でしょうか。そして、その町営住宅に関連しまして、町の長期振興計画を見ますと、新たな町営住宅の建築を令和9年に3棟、令和11年に3棟の合計6棟を予定しているようですけど</p>

	<p>も、今後の住宅供給施策に関して、どのように計画して行っていく見込みかお答えいただけたらと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>総務課長</p>	<p>お答えいたします。</p> <p>先に町営住宅の件ですけれども、その資料の一番上に表示されております4戸空きがあるということですが、この物件につきましては、2DKから2LDK、3DK、3LDKというような比較的広いものでして、家族向けであるというふうにいえます。百五十数戸町営住宅ある中で、4戸たまたま空いているという状況でして、議員今おっしゃいました長期振興計画の建設の戸数ということをお話しいただきましたけれども、どちらかという、それは建て替え計画ということで、古いものを壊して新しいものにしていく、そのような考え方で百五十数戸、160程度のを維持していけばどうかという考えでおるところでございます。</p> <p>次に、空き家の調査をした結果がその次に、資料を見ていただきたいと思いますが、令和6年度に空き家の調査というものを行いました。そこにありますように、使えるもの、再利用が難しいものという区分で分けておりまして、おおむね180から190ぐらいは利用できそうだということですが、その次の意向調査という部分がございます。数はこれだけ200弱あるわけですが、実際にそれをお貸しいただけるかどうかということが一番問題になるわけですので、これからがそれこそ正念場と、本当にその所有者と交渉をして、ぜひ貸してくれというこちらの意向をお伝えして、了解を得ていく、そんな作業がこれからだと考えております。少しでも多くの物件を確保することが移住施策につながっていくと思いますので、そこに注力をしていきたいということでございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>1 番議員</p>	<p>ご回答ありがとうございました。</p> <p>空き家の数自体は197件ですけれども、利用することに関しての意向調査で回答していただけたのは89人と、結構寂しい。全体的にある空き家の数からしたら少し寂しいのかなというところがありますけれども、その回答してくださった数も含めて、新しい住宅の供給については、簡単には進んでいけない問題だというふうに私自身も認識しております。</p> <p>ただ、せっかく小海町に移住したいなというふうに思っている人がいても、住むところがないために断らなければいけないというようなことは、とてももったいないというか、寂しいことだというふうに思っていますので、行政としましても、計画的に施策を進めていっていただきたいと思っ</p>

	<p>ております。</p> <p>私自身も空き家対策の審議会のほうに参加させてもらっていますので、全部を行政のほうに任せるのではなく、一緒に考えていけたらと思っていますので、引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>続きまして、住宅に関わる話ではあるんですけども、移住・定住に力を入れている市町村が長野県内にもあったりするので、そのあたりの実例を見ていると、コーディネーターというか、地域にも詳しく、空き家事情とかにも詳しい、さらに不動産の知識もある程度あるような方々が活躍しているというような話を聞きますが、小海町におきましては、現在の体制として役場の職員が対応してくださっていると思います。空き家とか、住めるような住宅を用意することに関して。</p> <p>私自身も協力隊のときに、土日に職員の方が移住・定住のお試しということで、移住体験施設、親沢とか大畑にあるようなところのあっせんというか、それにまつわる事業を移住希望者の方へ対応している様子を何度も見ました。その希望者の方が大体町に来るのは、恐らく本業が休みであろう土日のタイミングであることが多いと思います。その通常業務に加えて土日の対応というのは、職員の方々の結構な負担にもなっているのではないかなというふうに思っております。</p> <p>移住・定住におきましては、移住先をどうするかというような決定を、かなりの要素が最初に移住を考えている人に対応をした方の対応がほとんどを占めているというデータがあります。移住相談というのは、まさにその後の暮らし全般に関わってくることで、移住希望者の要望に的確に答えて、必要に応じて地域の方々につながりするというかなりの経験と人脈が必要になってくることなのかなというふうに考えています。</p> <p>そこで、コーディネーターとかの話に戻るんですけども、町長にお伺いさせてください。町では、移住・定住の施策をどのように捉えておいででしょうか。そして、そのコーディネーターとかに関する必要性みたいなことに関して、町長のお考えを聞かせていただきたいです。よろしく願いします。</p>
町長	<p>移住・定住、どの町村でも積極的に行っているというふうに思います。昨今の状況を見ますと、移住していただいた方がちょっと犯罪みたいな形になっているというような実例もございます。その審査というか、そういうものは我が町にはないわけですけども、慎重かつ丁寧に行っていかなければならないというふうに思います。</p>

	<p>先ほど議員おっしゃるように、町へ問合せがあったときに、対応した職員の質によって全然違ってくるというふうに思います。職員に対する指導は、懇切丁寧にということ、とにかくウェルカムだよというものを伝えてくれというふうに指導はしております。</p> <p>それから、移住・定住のために2件の体験施設ですか、つくってあるのはご存じだと思いますけれども、そうしたところをご利用いただいて、気候とか、自然とか、そういうものを体験していただくというのが大切ではないかというふうに思います。</p> <p>また、不動産業ではないですが、コーディネーターといえる方が専門に置いてというようなことなんですけれども、率直に言いますと、置きたいのはやまやま、しかし、協力していただける不動産屋さん、あるいは、いわゆる規模の大きな不動産屋さんというものはないもので、職員が当たっているというのが実情でございます。そういった方、あるいはそういった組織があれば、十分に相談させていただきたいというのが私の考えでございます。</p> <p>また、職員の対応というものは実に大切であるというふうに思っております。現にIT会社のヴァイタライズさんは、とにかく私への感想ですと、役場の対応がよかったもので、ここに支社を出しましたというようなものを聞くたびに、大切だなというものを痛感している次第であります。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>1 番議員</p>	<p>ご回答ありがとうございました。</p> <p>先ほどヴァイタライズさんの名前が出ましたけれども、私も2021年に移住してきていまして、ヴァイタライズさんの今の支社長をやっている濱野さんとは、移住同期とでもいいですか、同じタイミングで移住を決断したというような状況なんですけれども、私自身もこの町に来させていただいてから、役場の職員の皆さんはもちろん、それと同じぐらい地区の住民の方だったり、とにかく町民の皆様に支えていただいているからこそ、今日まで小海町での充実した生活を送ることができています。</p> <p>先ほど移住・定住の決断には最初に対応した人が大きく影響していると述べましたが、もう本当にまさに私自身もそうです。当時対応してくれた役場の職員の方々が語る町の良さだったり、私が疑問に思っていたこと全てに的確に答えてくださったりと、この人たちがいるなら移住後もこの町で安心して暮らせそうだ、楽しく生活できそうだという気持ちがふつふつと沸き上がり、それが移住の決断の大きな後押しになったのはもう疑う余地</p>

	<p>もありません。</p> <p>住宅の整備はもちろん、適切な人材が町内にいるということが移住・定住を呼び込む重要なファクターになってくると思っておりますので、ぜひ取り組んでいていただきたいと思っております。</p> <p>では、続きまして、2番の若者の労働環境についてのほうに移らせていただきたいと思えます。</p> <p>そうしましたら、暮らしの中で大切な要素になってくる若者を呼び込むということでも大事な雇用促進の施策についてお伺いさせていただきます。</p> <p>先ほど提出いただいた小海町への移住理由というふうに、36ページの資料なんですけれども、地域おこし協力隊を含めると、就職を理由とした移住というのが最も多いこととなっています。最近ですと、先ほど名前の挙がっていたヴァイタライズさんもですが、よその企業さんで働いていても、就職をきっかけに小海町に来るといような方が多いように感じています。また、佐久穂町と合同で行われている就職相談会では、小海高校生が地元企業に就職をしたという実績があるなど、着実に成果につながっているのかなと考えております。</p> <p>一方で、まだまだ町が抱える課題として、農業や林業を中心とした地域産業の衰退やどうしてもそもそもの求人の少なさだったり、職場の少なさ、就職先の選択肢が限られてしまうといった課題もあるのではないかなというふうに思っています。</p> <p>そこで、提出していただいた町の雇用施策一覧と雇用施策についてお伺いさせていただきます。</p> <p>雇用定住促進助成事業としまして、1、45歳以下、2年以上町外に居住し、就職などにより町内に移住した者、2、30歳以下で町内へ在住し、高校等を卒業して就職した者、上記の対象者に毎月1万円分のP券を5年間支給、また、佐久穂町小海町合同就職相談会の実施、雇用促進住宅の整備というふうに施策一覧として提出していただきました。これら施策の成果と課題をお伺いさせていただきます。よろしく申し上げます。</p>
<p>総務課長</p>	<p>お答えいたします。</p> <p>こちら成果と課題ということでございます。雇用施策といいましても、町の中、ご覧いただいたような具合です。事業所、統計上の数は300というふうな数字でありましても、実際には家族事業所というふうなことになりますと、雇用できるかどうか、そういうことになっていくと、かなり限られた数になってしまっております。そういうことでして、佐久穂、小海</p>

	<p>の合同企業相談会、そういうことが実施しているわけですがけれども、なるべく直接的に、ハローワークさんを通さなくてもできる、そういう環境のためにこういったことを続けているわけですがけれども、相談会に参加される皆さんがちょっと少ないという課題はどうしてもございます。ただ、こういうことをやっていくこと、継続していくことが今後につながるのではないかと考えております。</p> <p>もう一つ、上の雇用定住促進の助成事業、転入された方がこのように町に住むというようなことで、町から町内の事業所、または他町村の事業所を頼ってもらっても月1万円、年間12万円ということですがけれども、それを5年間ということですから、金額にしますと、大変大きい金額ということになります。これがあるからということで、これを知って小海に住所を構えよう、そういうことは直接的には最初の頃のアンケートですと、そういうことはもらって初めて知ったということのほうが多いわけですがけれども、ただ、今後も発信していくと、かなりの金額ですから、ではそういうことも考えの中に入れよう、そんな考えの方も出てくるやもしれませんので、これも継続していきたい、そういう考えでおります。</p> <p>課題という面では、いずれ職場が限られているということがございます。たとえ限られていても、先ほどの話にもありました病院、大きいものもございまして、こういったものがあるという発信、それをいかにしていくか、そして、小海町のこういう住環境、ほかに比べると、多少不便ということがあってもやもしれませんが、大変自然環境に恵まれたいい場所だということはいえると思いますので、この辺の発信力、それを高めていけたらということが今後の課題でございます。</p> <p>以上です。</p>
1 番議員	<p>ご回答ありがとうございました。</p> <p>私自身も雇用定住促進の助成事業でP券を毎月受け取っているような知り合いと話をするんですけども、昨今の物価高騰とかもあり、非常に助かっているというような、今総務課長にお話ししていただいた以上の成果が恐らくあるのではないかなというふうに私自身は思っておりますので、引き続き魅力のあるような助成事業というのを一緒に考えていけたらなとは思っています。ありがとうございます。</p> <p>続きまして、役場職員の労働環境についても伺いたいと思います。</p> <p>先ほどのご説明の中でもあったとおり、雇用先がどうしてもある程度限られてしまうというのが小海町だけではなく、過疎地域の現状の一つである</p>

	<p>うかと思えます。そういった中で、町役場というか、このような自治体というのが重要な就職先の一つであるのではないかなというふうに思っております。ただ、先ほどの移住・定住の中でも、役場職員の方々が土日勤務などを行っているというような話をさせていただきましたけれども、実際に土日以外にも、夜間に役場にお邪魔したりすると、かなりの職員が残務処理を行ったりしている光景をよく見たりしています。</p> <p>現在役場では日常の残務処理を含む全ての労働時間につきまして、超過勤務命令と手当を出されているかということにつきまして、お伺いしたいと思えます。もし出されていないとしたら、何に基づいて支給を決定しているのかをお伺いできたらと思えます。よろしくお願ひします。</p>
<p>総務課長</p>	<p>お答えいたします。</p> <p>先ほど小池議員の質問の中で、ちょっとご紹介させていただいたところがございます。全て命令の中に入っていない、勤務の中に入っていないという部分が、言い方悪いですが、サービス残業というところをちょっとご紹介させていただきましたけれども、実際にはそういうものもございません。庁舎の中で残っていて、日頃のたまってしまったもの、処理しなければならないもの、そういったものを処理するために出勤いただいているということもございます。</p> <p>ただ、そればかりではございませんで、いろいろな事業、超過勤務命令ということで届を先に職員から出していただきまして、それについて勤務を管理職側が命令するわけですが、オッケーだよ、それから、これは代休にしてください、そういうようなことを分けて命令をしているということもございます。</p> <p>その代休などした場合に、土日勤務というようなことをした場合には、8週間以内に代わりの休暇を取っていただくと。近年、療養休暇という数も増えてきたのも事実でございますが、何が大事か、心身の健康、これが第一番ということですので、まずは体を休めていただく、そして、次にまた仕事に頑張ってください、最近は働き方改革という言葉聞くところが多くなりましたけれども、そこをこれから、民間も公務員もそうですけれども、進めていきたいということもございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>1 番議員</p>	<p>ご回答ありがとうございました。</p> <p>重ねて町長にもお尋ねしたいんですけども、今の吉澤総務課長の話を聞いて、職員の健康面だったりも含めた働き方と、実情のサービス残業とい</p>

	<p>うようなものの時間が結構取られてしまうというふうなことがありますけれども、どのように改善していきたいとか、どう取り組んでいきたいかというところに関してお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
町長	<p>ただいま総務課長のほうから答えがありました、びしゃっとした歯切れのいい答えが出てこないのが実情でございます。しかし、これはもう絶対クリアしていかなければならない問題なんです、ただ、人間というものは非常に資質とか、技量とか、器量といいますか、その人の持った力というものをどうやってはかればいいのかということはなかなか難しいです。実際残業というものに持っていくな、上からの命令というのが公務員にはございます。それがない限り超過勤務とか、そういうものにカウントできる部分が少ない。したがって、サービスになりかねないというところなんです、企業でもそうなんですけれども、それをはかる尺度が非常に難しいというのが一つの課題になってくるものではないかというふうに思います。</p> <p>それから、私の見解ということですので、お答えしますが、77名、2か月にわたって個人面談を行います。その中で、しっかり私に意見として言ってくださいよというものを願ひしてあります。そして、事前の調べもした中で、1日大体五、六人と面談するわけですけれども、そういう中で7年間続けてきましたら、本音で言っていた部分も出てきております。そうしたものを最大限活用しながら、いい職場づくりに私からまず先頭を切っていかなければいけないというのを感じているところでございます。</p> <p>ただ、個人的な差というものはどうしても埋められるものではないという認識の下でやってございます。</p> <p>以上でございます。</p>
1番議員	<p>ご回答ありがとうございました。</p> <p>町長のおっしゃるとおり、個々人の能力差というものがありますので、全部をならしてやるということは難しいとは思いますが、地域社会で重要な役割を果たしている役場、そこで働いている役場職員というのはとても大事な、本当に大事な人材だというふうには考えておりますので、今後人づくりというところを進めていく観点で、より慎重な対応とか、引き続き取り組んでいってほしい課題だと思います。</p> <p>最後に、労働環境、サービス残業とか、ちょっと改善していくというよう</p>

	<p>な話になるんですけども、昨今騒がれているA IだったりをはじめとしたI T化についてお伺いします。</p> <p>先ほど小池喜昭議員の話でも出てきたところで、D X化、I T化の導入というのを考えているというような回答をいただきました。先日小海町とP w Cさんの各法人で、憩うまちこうみ事業に関する協定が結ばれています。その中でもA I活用による住民サービスの質の向上や業務効率化について検証していくとのことで話を聞いております。改めまして、この協定が目指すところと今後の具体的な進め方についてお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>P w Cさん、大変力を入れて、注いでいただきまして、これまでに何回も職員研修を行い、C h a t G P Tの研修、そういうものを受けることができました。大変便利なものということはよく分かりまして、これは利用していく方向でいいということですけども、ただ、行政ということですので、私たちも、ただ利用させてもらうだけでは片手落ちでございまして、これを利用する場合の利用方針、そういったものを定めていく。それをこんなことには使用する、全て100%このとおりにということはいかないということですので、参考程度の考え方にするというような利用の仕方、それを定めるような方針、案をつくりまして、整えたところでこういうものを最大限活用していく、そんな方向でよろしいかなと考えております。</p> <p>中村議員おっしゃいました今度私たちの業務に利用すると便利なもの、そういうものを職員が知ること、それが一番大事なことだと思います。みんな行政ですから、各方面の行政事務をやっている、それぞれやっていることが違います。どの関係のものを利用すれば、どの業務が楽になるか、こういうことを今後も検証していくことが先ほどの勤務の状況をよくしていく、そんなことにもつながっていくものと思います。</p> <p>以上です。</p>
1 番議員	<p>ご回答ありがとうございました。</p> <p>日々多種多様な業務が役場では行われていることと思います。そして、異動も多いので、専門的な人材の確保だったりとか、業務の効率化というのは、人が少なくなってくる今後においては、どうしてもやらざるを得ない必要不可欠なことなのかなとも感じます。特に生成A I 関連の話をししますと、様々な業務を劇的に改善していける可能性があるというふうに思われている技術の一つなので、ぜひ今後も積極的な活用を行う方向性で話をし</p>

	<p>ていっていただけたらなと思います。</p> <p>ただ、役場という仕事では、結構個人情報とか取り扱ったり、そういうものを果たしてインターネットに流していいのかとか、そういう倫理的な課題とかも出てくるのかなというふうな想像にかたくないですし、そもそもAI自体が結構自信満々に出してきた意見が、結構うそをついているというようなこととかもあったりしますので、その利用の仕方を考えていったりとかというように、ただ便利なものに飛びつければいいというだけではないところは、本当に一緒に考えていきたいようなところではあります。</p> <p>以上で私の一般質問を終わりたいと思います。質問の中でも申しましたけれども、若年層というか、若い方々が小海町を生活の場として選んでいただけるようなまちづくりというのを役場の方だけではなく、今後一緒に私も含めて多くの人で、小海に住んでいる何なら全員で取り組んでいけたらというふうに思っておりますので、引き続きよろしくお願ひできたらと思います。ありがとうございました。</p>
議長	<p>以上で第1番 中村佳太議員の質問を終わります。</p> <p>これより3時30分まで休憩といたします。</p> <p style="text-align: right;">(ときに15時15分)</p>
<p><u>第6番 的埜 美香子 議員</u></p>	
議長	<p>休憩前に引き続き会議を開きます。</p> <p>次に第6番 的埜美香子議員の質問を許します。的埜美香子君。</p>
6番議員	<p>第6番、的埜美香子です。選挙後の初めての一般質問です。そして、最後の質問、最後までお付き合いお願いいたします。</p> <p>選挙前や選挙中の町民からのお話をいろいろ私もお意見等々お伺いしてきました。1番の困り事、また、暮らしぶりで大変な話、何でしょうかということで、これまた、何と言っても物価高騰で大変と、そして、米の価格が本当に上がり大変というお声をたくさんお聞きしました。そして国保税、介護保険料が高過ぎる、後期高齢者になったとたんに医療費が上がって本当に大変だと、そういう声をたくさん聞いてきました。この先不安を抱える声が続々と上がりました。今回そういった声を基に一般質問していきたいと思います。</p> <p>まず一つ目、高過ぎる国保税についてということで、毎年6月議会で国保税の税率決定が行われるわけですが、毎年担当職員も頭をひねり、できるだ</p>

	<p>け町民の負担にならないようにと努力していることも承知しています。それでも大きな負担となっている国保税です。これまでも国保料が高くなる理由など議論してきました。一番の理由は国庫負担の削減です。国の負担を減らしてきた分を国保加入者と自治体に転嫁されるという構造が継続されてきました。</p> <p>国保は高齢者や無業者や低所得者が多く加入しています。にもかかわらず、加入者が支払えるかどうかという観点から設定されていません。必要な医療費を加入者に負担させるという観点から国保料を算出するために、保険料は高くなり、滞納せざるを得ない人々を生み出すという構造がつくられています。これらを回避するには、国保加入者の実情、また、国庫負担の軽減により、加入者に負担と責任が転嫁されている仕組み、構造的な問題への着手が急務となっています。そういった以前からの話、そういったことを踏まえながら、議論していきたいと思います。</p> <p>これまで市町村単位の国保運営でしたが、平成30年以降は都道府県単位で管理することになりました。これまでは市町村によって賦課方式は異なっていたわけですが、この方式をまず令和9年までに統一することが県の方針で、小海でも4方式、所得割、資産割、均等割、平等割から資産割を9年度にはゼロにするという3方式へとシミュレーションが組み込まれています。そのことについては、制度上の話でもありますので、仕方がないと思いますが、この方式によって資産がある世帯は国保税の減額になりますが、その分、資産がない世帯が増額になってしまいます。このことは、国保の運協の中でも議論したわけですが、その資産の算出額が医療分、支援分、介護分と合わせて374万1,245円という金額です。これを何とか町で見るということはできないのかということに対して、税のための補填として町がということは制度上できないというお答えだったと思いますが、もう一度確認してもよろしいでしょうか。お願いします。</p>
町民課長	<p>お答えいたします。</p> <p>今、的埜議員述べたような状況ではございます。国民健康保険という中では、国民健康保険の医療費の負担を軽くするために加入者がお金を出し合い、病気やけがをしたときの医療費に充てるという相互扶助を目的とした制度ということになります。この中で、国民健康保険の制度は国民皆保険制度という根幹を支えて、また、国民が公平な診療機会を得て必要な医療を受けること、生命と健康に対する安心を確保することが役割となっているというわけであります。</p>

的埜議員申されたとおりに、平成27年5月に国民健康保険法が改正されて、都道府県が市町村とともに保険者に位置づけられまして、市町村が地域の住民の身近な関係の中、きめ細かな事業の引き継ぎを担い、県は財政運営の責任者ということで、安定な財政運営の効率的な事業の確保ということで、事業運営の中心的な役割を担うというような状況になってきております。そして、国民健康保険制度の安定化を図るという状況になってきています。

実際県が担うということは、今言われたとおり町村単位では、財政運営は特に小規模市町村というものについては、高額医療が発生した場合には保険者への負担増や年度末の急激な決算補填などという不安定な財政運営が強いられると。そういうところを補うために県が財政を担うという状況になってきております。

確かに的埜議員申されたとおりに、今までの4方式から3方式にとということでございます。これも県の国民健康保険の運営方針という中に盛り込まれたものでございまして、これが令和9年度までには4方式から資産割をなくして3方式にするよということになります。そうなりますれば、資産割の部分はおのずと残りの3方式の部分に負担がかかってくるというような状況にはなってきてしまいます。

ここは難しい部分でございまして、国保税、決して高くはないというふうに、逆に私ども町のほうとしては感じているところなんでございますが、近隣町村の税率等を比較した中では、高いほうというよりはむしろ低いほうに分類されるというふうに町のほうとしても解釈をしております。

また、今後なんですけれども、この3方式の中で今は町村独自で税を確定しているわけですが、これが国民健康保険の運営方針の中では、その令和9年の3方式以降については、いわゆる佐久圏域などで税率を統一していくというような方向を示しております。そうなりますと、佐久圏域の中での保険税というものを考えていかなければいけないというのも町のほうとしての対策としてなるわけですし、その中で税率を決めていく中では平均的な部分になっていくんではないかというふうに考えておりますので、それに近づけるような形で、税率も上げて今からいかなければいけないかなという苦しい選択ではあると思います。

このまま低い状態の税率でいった中で、圏域で統一した税率になったときに、平均よりうちの町は低い状況でございまして、急激にその平均値まで上げるということになりますと、そのときに一時的にも各被保険者の皆

	<p>さんへの負担というのは大きくなるということが考えられますので、今税率を上げるという部分については、どうしてもそこへつけておいたほうが、後々の大きな負担を強いることがないのではないかとということで、町のほうとしても方針として行っているところであります。</p> <p>各被保険者への補填というところは難しい部分でありますので、そこら辺はなかなか、ではこれを補填しますよということは一概には言えないという部分ではあります。その中でも低所得者対策というような中では、国民健康保険制度の中では7割軽減、5割軽減、2割軽減という軽減を低所得者にはする制度がございます。これについては、世帯の均等割とか平等割、こういうものにつつまして軽減されるわけでした、これが国民健康保険制度の中ではあるという、この制度しかない制度ですので、ほかの社保とかそういうところにはない制度ですので、こういうもので低所得者の軽減を図っていくという状況が今の町の状況というところであります。</p> <p>国民健康保険の加入者の相互扶助、平等性の観点から、低所得者であっても国保税の納入をお願いするものでありまして、その中で相互扶助の観点から軽減措置を設けた中での国保税の納入をしていただくというふうに町のほうとしてはお願いをするしかないかなというところでございます。</p>
<p>6番議員</p>	<p>町のお考えをお聞きしました。一つ、高くないと感じているという話もありましたが、私はやはりほかの保険と比べて、所得からしてかなり高いのが国保税だと思っています。</p> <p>今急激に上げることは避けたいということで、今回も数%上げたということなんですけれども、この物価高、物価高騰が続く中で、そうでなくても高過ぎる国保税の負担を軽減するための施策を町として考えるべきではないかと私は思います。特に低所得者に対して今軽減策はあるとおっしゃいましたが、町として何らかの対策、町長からも形、方法で何らか考えたいというお話もありましたので、今後町として何か考えられないか、そのあたりお考えはあれから変わってないのかどうか、お願いします。</p>
<p>町民課長</p>	<p>お答え申し上げます。</p> <p>物価高騰、そういうことも加味すれば、やはり国保税というものが重く負担になるというところもあるかとは思いますが、しかし、これは国保加入者のみならず、他の町民に対しても物価高騰というのは大きな部分でのしかかってきている部分であるというふうに考えますので、国保の加入者のみという部分ではなく、町全体としてそういう物価高騰に対する対策を考えていかなければいけないというふうに考えております。</p>

<p>6 番議員</p>	<p>他の保険の方も対象にということで、低所得者対策、物価高騰対策ということで今後考えていきたいということなんで、それはまた引き続きお願いしたいと思います。</p> <p>今回の税率案では、税額が上がる世帯、どの所得階層でも満遍なくいるわけですが、とりわけ人数の多い世帯で上がる税額が高くなっています。ちょっと今日、表を出すのを忘れていたんですけれども、子供の数とは限らないわけですが、多子世帯の負担は明らかではないでしょうか。子供にまでかかる国保税は、子育て支援策として町で負担するという事は、すぐにでもできることではないでしょうか。</p> <p>国に先駆けて町ではやってきたわけですし、やっと国でも就学前児童に対して軽減するようになりました。小海町は子育てしやすい町として18歳未満の子供分全てを対象に広げていただけないかということをお伺いします。いかがでしょうか。</p>
<p>町民課長</p>	<p>今申されたように、一律被保険者に対しては国保税均等割かかるというような状況でございます。年齢にかかわらずという中でございますが、子供1人分に対しても医療分と支援分というところでは2万5,700円ほどかかるという部分ではございます。</p> <p>そこで、的埜議員申されましたけれども、子育て世帯の軽減負担という中で、令和4年度よりは所得関係なく世帯に未就学児がいる世帯に対しては一律未就学児分の均等割を2分の1軽減するという未就学児の均等割軽減制度というのを始めております。こちらについても、町のほうでは実施しておりますし、また、この低所得者で7割、5割、2割と軽減された世帯に対してもそれが適用されるということで、その軽減された均等割からなお半分、これが補助される、軽減されるというような状況でございます。また、小海町ではこれとは別に独自に国民健康保険の加入世帯の第3子以降にかかる均等割を補助するという多子世帯の支援事業というのも行っております。</p> <p>今後国保税の資産割の廃止に向けて税金の改正を行っていく中では、またその後の圏域レベルの保険税水準統一みたいなことが実施されていく中では、町の子育て支援の観点からも検討していく課題ではあるかなというふうには思っておりますので、またこれも国保ということではなく、子育て施策というふうになりますれば、国保以外の中でも子育てをしている世帯に対しても何らかのことをしなければいけないというふうになってくるのではないかとこのように思いますので、一概に国保の子育て世帯とい</p>

	<p>う部分でくくるというところは、ちょっとまた検討する材料ではないかなというふうに考えてございます。</p>
6番議員	<p>子育て施策としてという話ですので、ぜひ全体としてというよりは、国保の特徴である均等割の子供分、やはりこれを全額町で補助するということを本当に前向きに検討していただきたいなと思います。</p> <p>先ほど町民課長からもありましたけれども、これまで自治体が運営していた国保では、国保に加入している住民が実際にどれぐらい医療サービスを受けたかという保険給付の支払いなどを総合的に勘案して運営していました。地域住民に対して自治体がどのように接しているのか、地域の医療や住民の健康について自治体がどのように考えているのかという姿勢が国保の運営によく反映されていました。医療を受けるための仕組みが国保ですから。しかし、年齢構成や、先ほど触れました所得水準、自治体の規模、医療機関の充実など、地域間格差や国保の安定した運営を目的に、県と市町村が一体となって運営する方式に変わったわけです。</p> <p>まずは圏域ということで、先ほども説明ありましたが、ここでは佐久圏域ということで、保険料水準を統一化させ、県の方針では令和12年までに県内で統一させましょうということが示されていると思います。町としても当然県の方針にのっとって進めていくとは思いますが、県内どこでも同じ保険料で同じ住民サービスが受けられますということを目指しているようですが、サービスの基準が下がることのないよう、町は注視していかなければならないと思うわけですが、先ほどもありましたけれども、メリットもあると思いますが、町として注視していく点、どのように移行のシミュレーションを考えていく予定かということが今の段階でどうでしょうか。</p>
町民課長	<p>圏域レベルでの統一ということが資産割をなくした先にあるわけですがけれども、これも圏域レベルということになります。その次は県全体というようなことで、全国的にそのような動きが出てきている。その中で各圏域の市町村が国保税についてどのような税率にしていくかということをしつかりとした協議をしていくというのも重要ではないかというふうに考えてございます。</p> <p>南信、北信、中信とありますけれども、その地域ごとに多分産業形態というものはまた違ってきている部分もあるのではないかと。その中で一律の国保税ということになると、そこら辺難しい部分もあるのではないかと。その地域よっての産業に従事している方々というのはまた違ってきて</p>

	<p>いるというところもございますので、そういう点、東信地区や佐久地区という中でどのような保険税率にしていくかということは、その圏域内の市町村でも協議して、ある程度意見というものは県のほうへぶつけていくというようなことはやっていく必要があるかなというふうには考えてございます。</p>
6番議員	<p>圏域レベルの先に県の統一ということがあるということで、これまた地域差がある中で県の統一、なかなか難しいのかなというふうには思うわけですが、先ほど課長から、国保の性質というか目的の中で、相互扶助という言葉が何回か出てきたわけですが、私は国保は助け合いで運営されているわけではないと思っています。あくまで社会保障であり、保険原理だけでなくむしろ社会原理を理解して国保を捉える必要があると思っています。国保があるからこそ皆保険が成立しています。誰もが安心して医療を受けられるように今後も町民の実情を捉えてしっかりと向き合っていただきたいと思います。</p> <p>それでは、2番目の米価高騰対策と米生産の政策はということでお聞きしたいと思います。</p> <p>昨年夏、店頭から米が消える令和米騒動が発生後、米の価格上昇が続いています。物価高騰に加えて米の価格高騰が家計を直撃しています。米騒動が始まる前の価格に比べると、店頭での販売価格は2倍に跳ね上がりました。問題発言で辞任された江藤氏の代わりに農林水産大臣となった小泉進次郎氏は、放出している備蓄米の価格を現在の店頭価格の半分以下の5キロ当たり2,000円に下げるとも表明しました。</p> <p>その後も連日備蓄米のことがテレビや新聞で取り上げられています。備蓄米の放出のことだけが取り上げられているような感じもするわけですが、そもそも米の価格高騰の原因は供給不足、すなわち自民党政治による減反、減産を農家に押しつけてきた米政策にあります。今この米の高騰をめぐり二重の危機に直面しています。</p> <p>一つ目の危機が米の価格が高過ぎて買いたくても買えない、そういった状況になって家計を圧迫しているということです。おかわりはなしにしているとか、ご飯の回数を減らして麺類を増やしたとか、私の周りでもそういった声を聞きます。育ち盛りの子供がいる家庭は本当に大変です。そこでお尋ねします。</p> <p>町としてこの米価格高騰対策は何か考えておられるか、お願いします。</p>
産業建設	<p>米の価格、大変に高く、私もびっくりしております。おっしゃるとおり、</p>

<p>課長</p>	<p>今後の見通しというのは本当に立てられないことが現状で、備蓄米の放出については、今後お米が余ってくるのではないかという話もありますし、備蓄米が出たとしても米の価格は下がらないのではないかという話もありますし、こうすることで町民の皆さんも、全国の皆さんも本当に四苦八苦していることを承知しております。</p> <p>実際には、町民の皆様のニーズに応じて早急に対策を立てていくべきなんですけど、今町としてはお米というものに対しての価格を安くするための支援とか、購入に対する支援とかというのはありません。ただ、例えばトラック業界はガソリンが高くなったからまけてくれと、ガソリンに対して補助をするとか、そういうことというのは、国がその分ガソリン価格を安くするとかやっているんですが、町としましては、国の物価高騰対策、これは過去からもやってきているんですが、こういうものを交付金を使いまして、全ての物価高騰、お米もその中に入りますが、そういうものを支援していきたいというふうに考えております。</p>
<p>6番議員</p>	<p>米の高騰に対しては直接的な補助は考えていないという答弁でした。</p> <p>そして、国の物価高騰対策、そういったこともあるわけですが、今回の補正予算を見ましても、町独自の物価高騰対策はありません。今主食である米までもが買いたくても買えない状況にあるこの事態、やはりしっかりと受け止めていただきたいと思います。</p> <p>そして、もう一つの危機が減反、減作を農家に押しつけてきた結果、米をつくる生産者が急激に減っていて、今から米をつくれ、増産しろと言われても簡単にはできない状況になってきているということです。全国で見ると、この10年間で46万戸減ってしまい、135万トンの減量です。生産量のトップ3の新潟県、北海道、秋田県、合わせた生産量は113万トンだそうです。その生産量を上回る量を10年間で減らしてきてしまったということになります。</p> <p>そこで、小海の実態としてはどうなのかということで、過去6年間の水稲作付面積と作付人数を出していただきました。資料では45ページのほうになります。これに対して、何か補足説明などありましたらお願いしたいと思いますが。</p>
<p>産業建設課長</p>	<p>46ページの資料のとおりなんですけど、令和元年から作付面積を見ると約5ヘクタール減っていると。この数字から見ても分かります。そして、作付農家も4割近く減少しているということで、それではこの実態、高齢者の方の農作業、後継者不足、それから、町内を見渡しますと、水田でか</p>

	<p>つてあったところが太陽光というものになっていたり、いろいろな面で本 当に的桠議員おっしゃるとおり、国の減反政策でこのような形になってし まったと。これをこの小さな町の中で何とかしようというふうに考えてい きますと、農地維持、そういうものを考えてやっていくということで、現 状はこのような形に、これは小海町に限らずほかの市町村も同じような状 態だと思います。 以上です。</p>
<p>6 番議員</p>	<p>表のご覧のとおりということで、このたった6年間でこんなに田んぼの面 積も、人数も大きく減ってきてしまっています。何年後かには田んぼがな くなってしまふようなそんな数でもあります。この実態、今産建課長から 高齢化の問題や後継者不足、そういった問題があるということで、国レベ ルで本当に大変な政策をしてきた。この後本当に真剣に考えていかなけれ ばいけないんですけれども、では、町で何ができるかということも同時に 考えなければいけないと思います。 通告のほうに水田の役割ということを書きましたので、ここで水田の様々 な役割があると思うんですけれども、そのことについてお答えください。</p>
<p>産業建設 課 長</p>	<p>ご質問のことにに関して、現在町内で地目が水田となっているところが農地 では300ヘクタールあるということでございます。減反政策、1971年頃か ら開始したということで、転作の補助制度とかによって水田の耕作面積が どんどん減ってきてしまったということで、今荒廢地、遊休農地、遊休水 田となっているところもあるんですが、水田の役割、いろいろありまして、 いろいろ意見を皆さんから聞いてきたんですけれども、まず田んぼダムと いうことで、これは千曲川流域水域の協議会というのがありまして、こ ういうところでも、この上流側、水田はダムの意味合いを持つということで、 災害から守ってくれると。それから、かつては弥生時代とか、ああいうと ころに中国の皆さんが日本を見て黄金の国だと、ジパング、本当にお米の 国だということで、水田はやはりお米をつくるための施設ではなくて田ん ぼということだと思います。 それから、そのほかにもいろいろ考えるに、田んぼは棚田とか、ああいう ところで景観をよくする、それから観光誘客にも使える、そういう資質も あるし、例えばガタリンピックだとか、ああいう田んぼを使っていろいろ なイベントをやったりとか、いろいろな使えることがあります。ですので、 基本はお米をつくっていくということなんですけれども、そのためにはい つでもつくれるように維持していかななくてはいけないということで、水田</p>

	<p>の役割に対応した水田維持をこれからも図っていききたいというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p>
6番議員	<p>今お答えいただいたように、水田には様々な役割があります。様々な生き物があり、食物連鎖、また、生態系を維持する役割、今課長のほうからありましたけれども、田んぼダム、洪水を防ぎ、土壌流失を防ぎ、地下水の涵養、水質の浄化、気温の低下など、災害対策や様々な環境保全の機能を持っており、中山間地域の維持そのものにも関わっています。水田を維持するための稲作がいかに重要な役割を果たしているかということです。</p> <p>そこで肝心なのが、町としてこの水田を維持するために、これ以上減らさないための対策、どのように考えておられるかということをお聞きしたいと思います。</p>
産業建設課長	<p>まず考えるに、この稲作について直接的な補助はないんですけども、農業全般に安定的な米の生産を確保するために、例えば農業用ビニールハウス、それは苗代をつくるハウスだとか、資材費、あぜを今プラスチックでやるとか、そういうものについての補助だとか、そういうものというのは、小海町は以前からにあるんですけども、それにつけて、今回の補正予算でも挙げさせていただいた開墾ドリームですとか、ああいうものを使って、田んぼでしたら田んぼをよみがえらせる、そういう事業を取り入れたり、今お聞きするところによると、去年田んぼをつくってなくて、今年何かつくっている方もいらっしゃるって、これは米の価格の高騰でということで、農業全般のこういう支援策を使って田んぼなら田んぼをつくっていただくような施策を順番に、だんだんにやっていきたいというふうに思っています。</p> <p>以上です。</p>
6番議員	<p>農業全般の支援策ということで考えていく、資材高騰に対しても補助をしていく、そういったことも考えにあるということで受け止めましたが、もちろんそれも大事だと思うんですけども、米の農家の時給がどれぐらいかご存じでしょうか。</p> <p>農水省の統計では、2023年の米農家の時給はたったの63円です。2023年の統計で63円ですから、ここ何年かの物価高騰で農業所得、本当にマイナスになるのではないのでしょうか。今資材高騰の話もありましたが、ここにしっかりと補助していくということを提案したいと思います。</p> <p>そして、この農家の労働が米価にほとんど反映されていないということで</p>

	<p>すので、町でできることの一つに、町で使う米に対してしっかりとした価格で買い取る、先日の温泉の委員会の中でもそういった意見をおっしゃった方もありました。ヤッホーも食材にこだわるということであれば、米も地元産にするべきではないかというそういったご意見もありました。</p> <p>そして、学校の給食などもそうです。町の子供たちが食べる米をつくることは張り合いが出ると思います。子供たちの食育にとっても本当にいいことだと思います。しっかりとした価格で買い取る仕組みをどうにかつけれないか、資材の補助と併せてお願いしたいわけですが、いかがでしょうか。</p>
産業建設課長	<p>大変に貴重な意見でございまして、これからもそういうことを念頭に入れて検討していきたいというふうに思っています。</p>
町長	<p>米価については、新しい農林水産大臣、思い切ったことをして、大変注目されておりますけれども、私とすれば、もう少し見極める時間がなければ、大変危険な方向に行くのではないかとこのように思います。最低限、今年の米は取れてどうなるかぐらいのことではないかと思っております。物価の高騰に対しては補填できるんですけれども、今度米が本当に余った場合どうするかというような話にはちょっと遠い話だというふうに思っています。</p> <p>したがって、ちょっとこれは時間をかけたほうがいいのかというのが私の考えですので、動向を見守っていただきたいというところでございます。</p>
6番議員	<p>今困っているところにぜひ物価高騰と併せて支援していただきたいなと思っております。米は余っているという理由で減反をしてきた。それが今の米騒動につながっていると思っておりますので、そこはしっかりと、そういった捉え方をしていただきたいと思っております。</p> <p>今一番の問題は、先ほども述べましたように、米をつくる生産者が本当に急速に減っているということです。米をつくれる人がいなくなってしまう危機です。担い手の育成についても何かお考えはないかとお伺いしたいんですが、お願いします。</p>
産業建設課長	<p>とても難しい問題で、何と答えていいかわからない。私も実をいうと農家の息子であって、でも、実際にお米、つくれません。ということで、これでお役所もちょっとリタイアになってというときに思っていることが、お米をつくる先生とか、そういうのに教わってつくりたいなというふうに思っていますので、的埜議員言うとおりの、教育、そういうのを、今すごいんです、長土連さんとか、農業支援センターとか、ああいう人たちが本当に親身になって支援してくれるもので、そういう皆さんと協力しながら米をつくる、野菜もそうなんですけれども、そういう支援をしてくれる仕組み</p>

	をつくりたいというふうに考えています。
6番議員	<p>ただいま産建課長おっしゃったように、本当に米を栽培するということは、野菜を栽培するのとまた全然違って、知識と技術、経験が本当に必要だと思えます。そして、今ありました機械も必要ですし、技術、教えていただいたり、機械を引き継がせていただけるようなそういった仕組みづくりが必要ではないかと思えます。</p> <p>先日、ちょっと面白い話をお聞きしまして、面白い取組だなと思ったのが、立科町で農業機械の組合をつくって、オペレーターが田植えや、コンバインを使って稲刈りをやってくれる。機械を個人で維持しなくてもいいし、年配の方が重労働が緩和できる。これに技術指導なども加えれば、若い方が新たに始めるのもいいなというふうに思いました。鞍掛豆やソバでも機械をオペレーターの方が扱ってくれているように、米づくりでもできないものかなと、そういったことを感じたわけです。</p> <p>そして、これらを町が直接やるのではなくて、今言いましたように組合的な組織が管理、運営、そこへ町が補助するような仕組みができればいいかなというふうに思いましたが、これは急な提案であります、いかがでしょうか。町長、いかがでしょうか。</p>
町長	<p>今は本当になりふり構ってはいられないというような状況に、何でもなっ てきております。そういった提案、やはり一番農業機械で使う頻度が薄く て高いのは果樹、次は米というふうに聞いております。野菜農家はそれな りに大きくなって、大きいトラクターを使っているわけですがけれども、米 に関しては、そういったいわゆるスーパーバイザーの皆さんがいないわけ でして、今課長が言ったように、農家に生まれながら米のつくり方を知ら ない、これは実情だと思えます。したがって、そういったことを取り入れ るということは、ご提案いただければ積極的にやっていきたいというふう に思っています。</p>
6番議員	<p>今町長おっしゃったように、米は本当に特殊な栽培方法で、継続していく のは本当に難しいということもあります。先ほど産建課長からありました ように教育で、子供たちにしっかりと米づくりの教育もするということがも 取組ができたらいいなと思えます。私も米をつくる生産者の一人として、 今後も真剣に取り組むたいと考えています。</p> <p>しかし、この米不足問題の背景には、自民党政府の三つの失策、失政があ ると思えます。需要減を理由に減反、減産を農家に押しつけてきたこと、 所得保障制度を全廃し、価格を市場任せにし、米の生産基盤を弱体化させ</p>

	<p>てきたこと、農家に減産を押しつけておきながら無関税のミニマムアクセス米を20年間毎年77万トンも輸入し続けてきたこと、国はこのような政策を改め、価格保証と所得保障で農家が安心して営農できるように転換することが急がれます。</p> <p>国民の主食である米づくりを支えることは命を守ることです。食の安全保障です。国会では米不足、高騰の大もとに争点を当てた議論をしていただきたいものです。</p> <p>それでは、三つ目の町営住宅の更新計画についてということで、先ほど1番議員の質問では、移住・定住促進の観点で、町営住宅の供給ということで議論がされました。私はまた違った観点から見ていきたいと思えます。町で入居者の募集がかかると、町営住宅はすぐに埋まっているような感じがするんですが。特に新しいタイプの住宅は、抽せんも行われているというふうにも聞いていますが、実際のところ、町営住宅の需要はどうなっているか、お答えください。</p>
町民課長	<p>町営住宅につきましてですが、やはり需要はある状況というふうに思っております。近年ですと、建設された子育て世代の住宅というものについては、建設後応募がありますと、定員以上になるというところで、抽せんを行ったりするというようなところもあります。また、町のヒルサイドコーポというようなワンルーム等のある住宅については、就労の関係、転入してきたの関係の方の入居というものについて、非常に需要的なものがあるかなというふうに感じているところであります。</p> <p>以上です。</p>
6番議員	<p>この後の更新計画のほうにも関わってきますが、今ヒルサイドコーポという話もありましたが、昭和時代に建設された住宅と最近建設された住宅の需要というのは、応募のほうかなり違ってきているのでしょうか。年齢層も含めていかがでしょうか。</p>
町民課長	<p>古い住宅、昭和建設の住宅についてはなかなか入居はない部分であります。また、その部分については、昭和建設ですので、更新的なことを考えた中では、入居者をなるべく入れないで次の更新に向けて空けておくというような形も考えてございます。</p> <p>平成年間で建てたものについては需要はありますので、空いた中では応募すると手を挙げる方というのは結構いるというような状況ではございません。</p>
6番議員	<p>需要はあるということですが、今の若い人たちは現代風の建物というもの</p>

	<p>を選ぶと思います。特に前に住んでいたような住まいが基準になると思いますので、町営住宅の需要は、町に移り住んでくる際に、また、Uターンで帰ってくる際に住むところがないと先ほどもありましたけれども、そういう側面と、家賃を抑えた町営、公営住宅を求めている、そういった側面もあると思います。そういった両側面で考えた住宅政策が今後必要になってくると思います。と同時に、築年数のたっている住宅の更新計画を早い時期に立てる必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>月曜日の全員協議会のほうで、耐震調査の診断結果ということで報告されるということですが、資料を見させていただいたところ、調査対象物全てで倒壊の可能性が高いと記されております。すみません、資料のほうを出していただいて。</p> <p>診断業者の意見としては、昭和56年以前に建てられた建物のため、改修ではなく建て替えを検討したほうがよいというふうにあります。当然の結果なのかなと思うわけですが、いよいよ急ぐ必要があると思いますが、ちょっと全員協議会でということですが、先取りになってしまいますが、更新計画、どのように考えておられるか、お答えください。</p>
<p>町民課長</p>	<p>町営住宅の更新計画ということでございます。今までなかなか更新計画をしてこなかったという部分もございます。今回の耐震調査、昭和56年以前建設という部分では耐震基準ということでございます。今回基準を基に業者に委託しまして、耐震結果を求めるとは、小海団地と馬流団地、2地区をやったわけですが、木造のものについてはちょっと倒壊の可能性がありという診断を受けております。その他、連棟の簡易耐火構造物については、耐震の保有があるというような状況ではあります。</p> <p>しかし、その診断された建築士の方にいわせると、昭和56年ですから、昭和100年といわれていると、もう50年近いということ、また、これを要するに耐震用に改築というか、耐震補強していくということになりますと、金額的にはリフォームするほどの金額がかかるということで、50年を過ぎた近いものに対してリフォームするというのは、費用効果を考えたが、しないほうがいいのではないかと。それよりむしろ更新していく計画を立てて、建て替えていくというような方向が有意義であるというご意見もいただいておりますので、今後長振等にも載ってはございますが、いわゆる耐震計画というものを早急に立てていって、来年、再来年の中で計画を立てた中で、更新計画というか、更新をしていくという方向で今動いているというような状況でございます。この中では県のほうにも相談しながら、更</p>

	<p>新をしていく中ではよりよい補助金もあるかどうかというところも相談をしながら、いわゆる早急的な更新計画と更新をしていくというふうには考えてございます。</p>
6番議員	<p>今ありました長期振興計画のほうでは令和8年度から3か年で低所得者住宅25戸建設、更新という計画になっています。しかし、昭和56年以前のものでいうと、現在36戸あります。入居戸数はちょっと減ってくると思いますが、長期振興計画の更新計画とはかなりのずれがあります。そして、また耐震計画をやっていくという話ですが、昭和に建てられたもの全体で見ると、59戸になります。解体計画も含めしっかりとした計画を策定していただきたいと思います。</p> <p>それと、長振の中で、先ほど1番議員のほうからもありましたが、若者定住住宅は令和9年度と令和11年度の2回で3棟ずつという計画になっています。これもこのスピード感でいいのかというふうに思うわけです。若い人向けの住宅建設計画も同時に進めていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
総務課長	<p>若者向けの住宅の件につきまして、涉外戦略のほうで検討している計画でございまして、この物価高騰に合わせて、なかなか土地を取得していただいて住宅を建てるというかなり費用が一気にかかるものに対して、少し建売のような考え方で、建てたものに対して家賃という形で支払いをしてもらうような考え方、そのような考え方がどうかということで、今内容検討をしております。いずれ計画には挙げておりますので、計画の実施を深めていきたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
6番議員	<p>内容検討のほうを深めていきたいということですので、よろしく願いいたします。</p> <p>最後の質問になります。</p> <p>町営住宅の入居の際、ネックになっている壁が幾つかあるわけですが、取り除いてもいいのではないかと壁、見直してもいいのではないかと思うことについて伺いたいと思います。</p> <p>一つ目は、入居条件の一つである連帯保証人です。連帯保証人が2人必要なかということをお伺いしたいんですが、お願いします。</p>
町民課長	<p>ただいま条例等に示されているものは、連帯保証人が必要というところがございます。昨今の中では、そのような方を立てるのが難しいというような方もございます。近隣等の町村、どのような対応をとっているかという</p>

	<p>ところも参考にしながら、ずっと続いてきた条例の中のものですが、状況を見ながら対応の変化も必要ではないかという部分は考えてございますので、そこら辺また、そういう事例も出てきたりすることもありますので、また検討する材料かなというふうには思っております。</p>
6番議員	<p>連帯保証人2人立てるのは難しいという声を私もお聞きしているので、ぜひこれは見直していただきたいなと思います。</p> <p>そして、敷金について伺いたいと思います。全住宅の入居時に、敷金を家賃の3か月分支払うことになっていますが、実際に敷金を活用と申しますか、使うことがあるのか、撤去時に返還するケースのほうが多いのか。敷金のほうどうなっているでしょうか、お願いします。</p>
町民課長	<p>敷金ということで、入居時に納めていただくということでございます。こちらもちまた、こちらのほうで金額を管理しております、退去時には室内等をチェックした中で、汚れているところ、またはそのときに使っているもの、サッシですとか、障子、そういうものの壊れている部分、穴が空いている部分などについては、クリーニングなり、修繕という形でその中から頂いて修繕をする。そして、金額が残れば、それについてはお返しするというような形では行っております。ですので、それほど大きく修繕がかかるというふうなケースは余りないようですので、多分クリーニング的なものだけで、あとは返還できるのではないかと申しております。</p>
6番議員	<p>返還していくことのほうが多いのかなということですが、物件の築年数によって修繕箇所も多くなってくると思います。修繕や清掃費、そういったこと、新しいものと一緒に一律に敷金が使われているということもちょっと見直したほうがいいのかというふうに思います。町営住宅ですから、資金を私は取らなくていいのかなと思います。今民間でも敷金礼金、要らないよというところも出てきていますので、こういったことも見直していただきたいなと。特に低所得者や働き始めた、本当に貯金がほとんどないような人、そういった人がよそから移ってくるだけで引っ越し費用もかかります。家賃プラス3か月分を支払うということは本当に大変なことだと思います。新しいそういったことも加味していただきたいなと思います。</p> <p>そして、新しい町営住宅には初めからエアコンが設置されているわけですが、近年本当に猛暑、酷暑による熱中症も増えていると聞いています。熱中症対策としても、低所得者対策としても、エアコンが設置されていない住宅へのエアコン設置、あるいは購入、設置費用の助成も必要ではない</p>

	かと思うんですが、この辺はどうお考えか、お願いします。
町民課長	<p>今新築をしたりしています子育て世代の住宅等につきましては、もうエアコンがついているというような状況でございます。古いと言ってはあれですが、昭和50年以後の建てている住宅についてはついていないというような現状ではございます。以前にも質問の中でお答えした部分もございませけれども、住宅改修というものが産業建設課のほうでリフォーム補助という部分がございませ。</p> <p>これを活用してエアコンの設置というものについては、町のほうとしても町営住宅、いいですよというふうにはしておりますので、もしエアコンの設置ということになりますれば、そういうものを活用した中でエアコンを設置していただければいいかなというふうに思います。設置をするのは駄目だとかいうようなことはございませないので、そのような設置の際には、そういうリフォーム補助みたいなものを使った中で設置していただければいいかなというふうに考えてございませ。</p>
6番議員	<p>住宅リフォームのほうも活用できるということですので、こういったことも周知していただきたいなと思います。</p> <p>それと、もう1点、思い切った家賃の見直しをしてもいいのではないかと、そういった提案をさせていただきたいと思ひませ。私の記憶では、南町の住宅を建設して募集をかけたときに、家賃の見直しがあつたと思ひませ。あれから10年ぐらいたつたわけなので、今度更新計画を立てるという中で、このタイミングで家賃の見直しも検討してはいかがでしょうか。</p>
町民課長	<p>家賃の見直しということではございませ。前回の見直しというのが新しい住宅を建てたときというようなことではございませ。それからかなり年数はたつているというような状況ではございませ。また、今後また新築をする予定ということもございませ。それぞれの住宅の構造築年数、設備等に考慮して、条例に基づいてまた算定していくというようなところがございませ。入居条件及び家賃につきましても、現時点では大きな問題が生じていないこともありますし、住宅の生活実態を踏まえた中で、今のところ現状は変更というところはまだ考えてはございませませんが、これからの今言わせてもらいました物価高騰ですとか、社会情勢、入居の状況というものは踏まえた中では今後検討していくべきものではないかと思ひませ。</p> <p>また、新築住宅等が今後できていく中では、それも一つの視点になるかなというふうには思ひませるので、また、これも検討材料とさせていただきたいと思ひませ。</p>

6 番議員	<p>実態を踏まえた中でのということですので、ぜひ低所得者対策、また、今ありました物価高騰対策としても、そして、民間の家賃補助、そういったことも含めまして、これは、移住・定住対策も含めて検討していただきたいと思えます。</p> <p>物価高騰が続き、加えて米の高騰、そして、国保税や介護保険料が町民の暮らしを本当に直撃しています。今回の補正予算に、私は何ら手だてがなかったことは非常に残念です。今回の質問を通していろいろな提案もさせていただきましたので、また、前向きなご検討を切にお願いしまして、私の一般質問を終わりにします。</p>
議 長	<p>以上で第 6 番 的埜美香子議員の質問を終わります。</p>
<p><u>○ 散 会</u></p>	
議 長	<p>以上で本日の一般質問は終了いたしました。</p> <p>なお、今後の日程といたしましては、9 日月曜日午前10時から全員協議会と現地視察を行います。現地視察は、旧小海リサイクルセンターと松原のホテル M I Y A M を予定しています。服装はブレザーをお願いします。</p> <p>これをもちまして本日は散会といたします。大変ご苦労さまでした。</p> <p style="text-align: right;">(ときに16時29分)</p>

令和 7 年 第 2 回

小海町議会定例会会議録

「第 12 日」

* 開会年月日時 令和 7 年 6 月 13 日 午後 2 時 00 分

* 閉会年月日時 令和 7 年 6 月 13 日 午後 4 時 11 分

* 開会の場所 小海町議会議場

会議の経過

○ 開 会

議 長 皆さんこんにちは。本日は令和 7 年第 2 回定例会最終日であります。議会改選後初めての定例会であります。議案質疑、また一般質問では新人議員が積極的に質問され、各常任委員会でも活発な意見が交わされました。全員協議会で、皆様に申し上げていただきましたが、議会報告会、各種団体の皆様との対話を積極的に行うことから、地域の課題を汲み取る事ができると思います。各常任委員会ごとに地域の課題について研修視察勉強会を重ね、町への政策提言ができるように活動を進めていただきたいと思います。ただ今の出席議員数は 12 人です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

尚、議会の ICT 化推進の目的から、議場へのタブレットの持ち込みを許可します。暑いようでしたら上着を脱いでいただいで結構です。

○ 議事日程報告

議 長 本日の議事日程は、掲載したとおりであります。

日程第 1 「諸般の報告」

議 長 日程第 1、「諸般の報告」を行います。

議長としての報告は、議事日程つづりの 3 ページに申し上げますので、ご確認の程をお願いいたします。その他、報告事項のある方は、お願いいたします。以上で諸般の報告を終わります。

日程第2 「行政報告」

議 長	日程第2「行政報告」を行います。町長から報告がありましたら、お願いいたします。黒澤町長。
町 長	<p>皆様、こんにちは。今月2日に開会しました、令和7年第2回定例会は、本日が最終日となりました。議案質疑、一般質問、全員協議会、各常任委員会において慎重なご審議をいただきましたことに対しまして、心より厚く御礼申し上げます。議会の会期は終了する訳ですが、会期に限らず役場に対し、議員の皆様のご指導・ご提案・ご相談等いただき、良好な町政運営ができますよう切にお願いを申し上げます。特に、一般質問があり、町民の皆様より米に対しての質問意見提案がございます。行政としても、関係各所団体とも協議の上、行政としての問題解決に対しての動きをこれから示していく所存でございます。何卒、よろしくお祈りを申し上げます。</p> <p>それでは、2件ご報告を申し上げます。1件目ですが、昨日午後3時頃八峰の湯にて源泉をくみ上げる揚湯ポンプが故障し、故障が発生いたしました。修理における関係工事店の手配を大至急いたしました。現在まだ不明な点が多くありますが、復旧のめどは立っておりません。復旧時等の内容につきましては、防災無線等にて、その都度ご連絡をさせていただきます。全力を挙げて一刻も早い復旧を目指してまいります。</p> <p>2件目ですが、去る6月8日（日）森の音楽祭が音楽堂において開催されました。23組の出演者が演奏し、特に、人数が増えたという小海小学校合唱クラブの発表は高く評価されました。また、小海中学校の吹奏楽部の演奏に合わせ、会場全体で「ふるさと」を合唱しましたが、参加者にとって非常に印象深いひとときになりました。老若男女が集う、小海町の活発な文化活動の一端が垣間見える、有意義な催しでありました。</p> <p>本日、令和7年度一般会計補正予算第3号を追加議案として上程させていただきます。追加議案を含め、本定例会にご提案申し上げますすべての案件につきまして、可決決定・承認賜りますようお願いを申し上げます。なお、補正3号に計上の保育園児専用バスの購入につきましては、契約議決が必要となりますので、準備が整い次第、臨時議会をお願いしたいと考えております。何卒、よろしくお祈り申し上げます。以上、ご報告とさせていただきます。</p>
議 長	他に行政報告がありましたらお願いいたします。

議 長	以上で行政報告を終わります。本日、会議事件説明のため出席を求めたものは、町長・教育長・各課長・所長であります。なお、小池こども課長は療養のため欠席であります。
<u>○ 議案の上程</u>	
議 長	それでは順次議案を上程いたします。
<u>日程第3 「議員派遣の件」</u>	
議 長	日程第3、「議員派遣の件」を行います。事務局長に朗読を求めます。小平事務局長。
(事務局長朗読)	
議 長	朗読が終わりました。お諮りいたします。 議事日程つづりの4ページに申し上げた「議員派遣の件」のとおり、議員を派遣したいと思えます。これにご異議ございませんか。
(異議なし)	
議 長	異議なしと認めます。したがって、議事日程つづりの4ページに記載のとおり、議員を派遣することに決定いたしました。
<u>日程第4 「承認第1号」</u>	
議 長	日程第4、承認第1号 「小海町税条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。 本案については、総務産業常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。 総務産業常任委員長 黒澤敦史 君。
(委員長報告—承認と決定)	
議 長	委員長報告に対する質疑を許します。質疑のある方は、挙手をお願いします。
(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いします。
(討論なし)	
議 長	これで討論を終わります。これから承認第1号を採決いたします。

	委員長の報告は、承認であります。承認第1号を委員長報告のとおり、承認することに賛成する方の挙手を求めます。
	(挙手全員)
議長	挙手全員と認めます。したがって承認第1号は、委員長報告のとおり承認する事に決定いたしました。
<u>日程第5～日程第8 「承認第2号～承認第5号」</u>	
議長	日程第5、承認第2号から日程第8、承認第5号までについては一括して議題といたします。本案については、予算決算常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。 予算決算常任委員長 古谷恒晴 君。
	(委員長報告—全て承認と決定) (委員会からの要望事項—1件)
<p>〈委員会からの要望事項〉</p> <p>専決補正での大幅な追加補正が目立つことから予算流用が恒常的にならないよう留意されたい。</p>	
議長	委員長報告に対する質疑は、全議員出席の委員会でございますので省略したいと思います。これにご異議ございませんか。
	(異議なし)
議長	ただ今の、予算決算常任委員会からの要望事項に対する町長の答弁を求めます。黒澤町長。
町長	専決での精算が大きくならぬよう、内容を十分精査し、3月定例会において数字を固めるとともに、予算の増減につきましては事業ごとに分離し、流用額が過大にならぬよう努めてまいります。
議長	これより承認第2号「令和6年度小海町一般会計補正予算（第8号）について」の討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。 第6番、的埜美香子くん。
6番議員	6番的埜です。的埜美香子です。令和6年度一般会計補正予算第8号を、賛成の立場で討論いたします。委員会の討論でも述べ、ただいま要望の方でも出ましたが、総じてこの時期に専決補正で歳出の大幅な追加補正が目立ちます。不用額の予算流用が恒常的に行われていると判断せざるを得ません。議会軽視ということでもあり、今後十分に気をつけていた

	<p>だきたいと思います。また、給料や共済費など、12月には確定する項目の補正がこの時期に出てくるということ自体も本当はないことです。この点についても指摘させていただきます。今後、大きな町の事業や課題に関わる各種審議会の回数が予定通り行われていません。町民からのご意見を直接お聞きする場がなかなかない中で、今は審議会が主になっています。この審議会ですら開かれないということは、事業の中身に町民の意見が反映されていないということで、町民にも議員にも見えないのは当然だと思います。事業計画の立案、策定に町民の意見がしっかりと反映させるような、されるような仕組み作りを、今一度見直していただきたいと思います。以上、要望を込めまして、賛成の討論とさせていただきます。以上です。</p>
議 長	<p>他に討論のある方はございませんか。これで討論を終わります。これから承認第2号を採決いたします。</p> <p>委員長の報告は、承認であります。承認第2号を委員長報告のとおり、承認することに賛成する方の挙手を求めます。</p>
(挙手全員)	
議 長	<p>挙手全員と認めます。したがって承認第2号は、委員長報告のとおり承認する事に決定いたしました。</p>
議 長	<p>つづいて承認第3号「令和6年度小海町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)について」の討論を行います。</p> <p>討論のある方は挙手をお願いいたします。</p>
(討論なし)	
議 長	<p>これで討論を終わります。これから承認第3号を採決いたします。</p> <p>委員長の報告は、承認であります。承認第3号を委員長報告のとおり、承認することに賛成する方の挙手を求めます。</p>
(挙手全員)	
議 長	<p>挙手全員と認めます。したがって承認第3号は、委員長報告のとおり承認する事に決定いたしました。</p>
議 長	<p>つづいて承認第4号「令和6年度小海町介護保険事業特別会計補正予算(第5号)について」の討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。</p>
(討論なし)	
議 長	<p>これで討論を終わります。これから承認第4号を採決いたします。</p> <p>委員長の報告は、承認であります。承認第4号を委員長報告のとおり、承認することに賛成する方の挙手を求めます。</p>

(挙手全員)	
議 長	挙手全員と認めます。したがって承認第 4 号は、委員長報告のとおり承認する事に決定いたしました。
議 長	つづいて承認第 5 号「令和 6 年度小海町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 2 号）について」の討論を行います。 討論のある方は挙手をお願いいたします。
(討論なし)	
議 長	これで討論を終わります。これから承認第 5 号を採決いたします。委員長の報告は、承認であります。承認第 5 号を委員長報告のとおり、承認することに賛成する方の挙手を求めます。
(挙手全員)	
議 長	挙手全員と認めます。したがって承認第 5 号は、委員長報告のとおり承認する事に決定いたしました。
日程第 9 「議案第 31 号」	
議 長	日程第 9、議案第 31 号「小海町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。本案については、民生文教常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。 民生文教常任委員長 渡邊晃子 君。
(委員長報告一可決と決定)	
議 長	委員長報告に対する質疑を許します。質疑のある方は、挙手をお願いします。
(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。第 6 番、的埜美香子くん。
6 番議員	はい、6 番的埜美香子です。議案第 31 号、国民健康保険条例の一部を改正する条例について討論いたします。今回の条例改正での値上げには反対したいところですが、しかし、9 年度に資産割をなくすということの中で、段階的に仕方がない部分もあります。これらについて、国保の運協や一般質問の中でも、それに係る資産割の部分を何とかという事も議論したわけですが、制度上、国保会計からは難しいということでした。であるならば、町の一般会計から町の政策として検討していただきたいと思います。特に低所得者や子供に係る均等割部分に対しては、町でできる範囲だと思います。運営協議会の中でも、町長、何らかの形や方法で

	検討するとお答えいただいておりますので、何らかの対策を実施していただくということで、賛成討論とさせていただきます。以上です。
議長	他に討論のある方はございませんか。これで討論を終わります。これから議案第 31 号を採決いたします。 委員長の報告は、可決であります。議案第 31 号を委員長報告のとおり、決定することに賛成する方の挙手を求めます。
(挙手全員)	
議長	挙手全員と認めます。したがって議案第 31 号は、委員長報告のとおり可決する事に決定いたしました。
<u>日程第 10 「議案第 32 号」</u>	
議長	日程第 10、議案第 32 号「災害に際し応急措置の業務に従事した者に係る損害賠償に関する条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。本案については、民生文教常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。 民生文教常任委員長 渡邊晃子 君。
(委員長報告—可決と決定)	
議長	委員長報告に対する質疑を許します。質疑のある方は、挙手をお願いします。
(質疑なし)	
議長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
(討論なし)	
議長	これで討論を終わります。これから議案第 32 号を採決いたします。委員長の報告は、可決であります。議案第 32 号を委員長報告のとおり、決定することに賛成する方の挙手を求めます。
(挙手全員)	
議長	挙手全員と認めます。したがって議案第 32 号は、委員長報告のとおり可決する事に決定いたしました。
<u>日程第 11 「議案第 33 号」</u>	
議長	日程第 11、議案第 33 号「小海町消防団員の定員・任免・給与・服務等に関する条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。本

	案については、民生文教常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。 民生文教常任委員長 渡邊晃子 君。
	(委員長報告一可決と決定)
議 長	委員長報告に対する質疑を許します。質疑のある方は、挙手をお願いします。
	(質疑なし)
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
	(討論なし)
議 長	これで討論を終わります。これから議案第 33 号を採決いたします。委員長の報告は、可決であります。議案第 33 号を委員長報告のとおり、決定することに賛成する方の挙手を求めます。
	(挙手全員)
議 長	挙手全員と認めます。したがって議案第 33 号は、委員長報告のとおり可決する事に決定いたしました。
<u>日程第 12～日程第 13 「議案第 34 号～議案第 35 号」</u>	
議 長	日程第 12、議案第 34 号と日程第 13、議案第 35 号については、一括議題といたします。 本案については、予算決算常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。 予算決算常任委員長 古谷恒晴 君。
	(委員長報告一全て承認と決定) (委員会からの要望事項－ 1 件)
	〈委員会からの要望事項〉 旧小海リサイクルセンターの残産廃の対応については、地域住民の要望もあるので、町としてできる対応をお願いしたい。
議 長	委員長報告に対する質疑は、全議員出席の委員会でございますので省略したいと思います。これにご異議ございませんか。
	(異議なし)
議 長	ただ今の、予算決算常任委員会からの要望事項に対する町長の答弁を求

	めます。黒澤町長。
町長	はい。旧小海リサイクルセンターの残産廃の対応につきましては、産業廃棄物でありますので県との協議を持ち、地域住民の不安を取り除くよう対応してまいります。以上です。
議長	これより議案第34号「令和7年度小海町一般会計補正予算（第2号）について」の討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。第12番、渡辺均くん。
12番議員	<p>渡辺でございます。賛成の立場で討論させていただきます。実は悩みました。一部について修正動議も考えましたが、しかし賛成しようと決断しました。なぜ賛成理由、賛成するか。今ここであえて町政の流れにブレーキをかけたくない。そういう理由が第1。また、本予算を獲得するにあたって、職員各位が年度末の多忙な時期に、かつ、4月の議会選挙という日程の中で、獅子奮迅の活躍をされたという話を聞きまして、この労務に報いたいと思ひまして、賛成をしたわけでございます。しかしながら、疑問も感じております。この件につきましては、補正予算の本来の性格から逸脱しているのではないかと。補正というのは緊急予算でございますので、当然待たないで来るわけですが、またそれを国自体が時々世論の意向を見ながら、乱発とは言いませんけども、提案すると。それを基として町長が財政の厳しい中で、これを確保しようということについては異論は全くありませんが、ただ補正である故に、緊急に出るがゆえに、職員への負担が多くなるのではないかと。このことを懸念しておりまして、その職員への日常の業務に加えて、予算申請に向けての書類申請や、国や県への打診。そういったことの手間暇の関係上、どうしても内容的に形を作ることが先行して、中身の充実、本当に町民のため、どこにどういうふうな形で成果が還元されるのか見えにくくなる懸念があります。それは、私は全協や委員会で、事業内容をわかりやすく説明して欲しいという要請をいたしました。なかなか見えにくい状況にありました。それらはひょっとしたら、多忙の中にさらに多忙を重ねる予算申請という手続きのオーバーロードにひょっとしたら原因があるのではないかと考えまして、この辺は補正にあまり頼らないで、通常の一般会計の方で中長期のビジョン作成は進めたいという思いがありましたので、疑問を感じた次第でございます。また、取り上げる議案も非常に多いように感じてます。やはりメリハリをつけて町民の方がこれなら私も参加できる。十分理解できるという説明資料を用意して、参加を要請し、町民本位の事業計画を作りたいと思ひます。なかなか両建ては難しいかもしれませんが、そんなことを</p>

	懸念しながら迷い、そしてしかし、やっぱり応援しようということで賛成の意見にさせていただきました。以上です。
議 長	他に討論のある方はございますか。これで討論を終わります。これから議案第 34 号を採決いたします。 委員長の報告は、可決であります。議案第 34 号を委員長報告のとおり、決定することに賛成する方の挙手を求めます。
(挙手全員)	
議 長	挙手全員と認めます。したがって議案第 34 号は、委員長報告のとおり可決する事に決定いたしました。
議 長	つづいて議案第 35 号「令和 7 年度小海町介護保険事業特別会計補正予算（第 1 号）について」の討論を行います。 討論のある方は挙手をお願いいたします。
(討論なし)	
議 長	これで討論を終わります。これから議案第 35 号を採決いたします。 委員長の報告は、可決であります。議案第 35 号を委員長報告のとおり、決定することに賛成する方の挙手を求めます。
(挙手全員)	
議 長	挙手全員と認めます。したがって議案第 35 号は、委員長報告のとおり可決する事に決定いたしました。
日程第 14 「陳情第 3 号」	
議 長	日程第 14、陳情第 3 号「フォワード導入に関する補助金の陳情書」を議題と致します。陳情第 3 号については、総務産業常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。 総務産業常任委員長 黒澤敦史 君。
(委員長報告—採択と決定) (委員会からの要望事項—1 件)	
<p>〈委員会からの要望事項〉</p> <p>町の林業政策として、機械増設による補助を実施し伐期を逃すことなく施業、主伐、再造林と森林保全に努めることを期待すると共に、町の林業施策に対する林業計画を立てることを要望する。</p>	
議 長	委員長報告に対する質疑を許します。質疑のある方は、挙手をお願いし

	ます。第5番、渡邊晃子くん。
5番議員	5番渡邊晃子です。よろしくお願いいたします。フォワーダ導入に関して必要性だとか、価格がだいぶ高騰しているなどは十分理解できるんですが、南佐久中部森林組合自体の財政力というか、力がどうなのか。自腹では厳しいのか。その資金繰りに関して何も資料はここにはついていないんですけども、そのあたりは委員会の方で議論になったかどうか、お願いします。
7番議員	はい、お答えします。そういったことに関してですね、支払い能力がということに関しては議論にはなりません。ただ、概ね経営状況としては悪くはないというような、町として町長のご説明がございました。以上です。
議長	他に質疑のある方はございますか。これで質疑を終わります。ただ今の、総務産業常任委員会からの要望事項に対する町長の答弁を求めます。黒澤町長。
町長	はい。現在、町では5年ごとに作成する小海町森林整備計画を、長野県地域森林計画と整合性をとりながら策定しております。森林経営の委託を受けた森林組合が、町の森林整備計画をもとに森林経営計画を作成し、森林整備を行っております。これまで手入れしてきました貴重な森林財産を有効活用できるよう、地域の声をお聞きしながら進めてまいります。以上です。
議長	これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
(討論なし)	
議長	これで討論を終わります。これから陳情第3号を採決いたします。委員長の報告は、採択であります。陳情第3号を委員長報告のとおり、決定することに賛成する方の挙手を求めます。
(挙手全員)	
議長	挙手全員と認めます。したがって陳情第3号は、委員長報告のとおり採択することに決定いたしました。
<p><u>日程第15 「陳情第4号」</u></p> <p><u>日程第20 「発議第3号」</u></p>	
議長	日程第15、陳情第4号「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める陳情」及び日程第20、発議第3号「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書について」は関連がありますので、一括して議題と致します。陳情第4号については、総務産業常任委員会に付

	託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。総務産業常任委員長 黒澤敦史 君。
	(委員長報告—採択と決定)
議 長	委員長報告に対する質疑を許します。質疑のある方は、挙手をお願いします。
	(質疑なし)
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。5番渡邊晃子くん。
5番議員	5番渡邊晃子です。私はこの女性差別撤廃禁止条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書採択に、賛成の立場で討論をいたします。議会に出され3回目にしてようやく採択かとの正直思いであります。県内77市町村のうち最後、これは皆さんにとっても大きな衝撃だったのではないのでしょうか？日本政府は本年1月29日、国連女性差別撤廃委員会を日本の拠出金の使途から除外することを決め、国連側に伝えました。当委員会が昨年10月に、男系男子の皇位継承を定めた皇室典範の改正を勧告したことへの抗議の意図を示す狙いのようで、異例の措置と言われていますが、意に沿わない勧告への報復制裁ともいうべき行動は、条約締約国として絶対に許されないことだと考えます。私はこれに対し厳しく抗議撤回を求めてまいります。求めます。肝心なのは、日本は条約締約国だということです。昨年10月にこの国連女性差別撤廃委員会が日本の女性差別撤廃条約実施状況を審議した際に、日本政府代表団の団長自身が冒頭、「1985年の批准から約40年我が国は、女性差別撤廃条約を一つの重要なよりどころとし、法律上のおよび実質的な差別の撤廃を目指して、男女共同参画のための取り組みを進めてきました。女性に対するあらゆる差別の撤廃および男女共同参画社会の早期の実現に向けて、今後も女性差別撤廃委員会とともに歩みを進めていきます」と、政府の立場を表明しています。また、この意見書案の中にもありますように、2020年の第5次男女共同参画基本計画で、選択議定書について真剣な検討を進めると表明し、省庁間研究会を23回も開催しています。国連女性差別撤廃委員会は、この選択議定書の批准の検討に時間をかけすぎていることを遺憾に思うと10月の総括所見で述べております。女性差別撤廃委員会の勧告は、日本政府の報告のみならず、市民社会や差別の当事者などからの様々な情報提供をもとに、政府との建設的な対話を通じて発せられたものであります。政府は条約締約国として条約を真摯に履行する義務を負っています。よって、その日本政府関係各位に意見書を上げることは、地方議会として当然の行為と考えをもって賛成討論といたします。以上

	です。
議長	他に討論のある方はございますか。これで討論を終わります。これから陳情第4号を採決いたします。委員長の報告は、採択であります。陳情第4号を委員長報告のとおり、決定することに賛成する方の挙手を求めます。
(挙手多数) × 7 番議員	
議長	挙手多数と認めます。したがって陳情第4号は、委員長報告のとおり採択することに決定いたしました。
議長	事務局長に発議第3号の朗読を求めます。小平事務局長。
(事務局長朗読)	
議長	朗読が終わりました。提出者に提案理由の説明を求めます。 第6番 的埜美香子 君。
6 番議員	第6番的埜美香子です。ただいま女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書について読み上げられました。この意見書提出に当たり、提出理由を述べたいと思います。ただいま意見書で述べられた通りなのですが、皆さん男女平等、だんだん進んできている中で、やはりあまり感じないかもしれません、まだまだ進んでいない面もあります。男女の賃金格差や、性暴力、避妊や中絶、選択的夫婦別姓などを元に訴えられている例もたくさんあります。そして訴えることもできずに悩み苦しんでいる方も多々おられる、そういう状況であります。ここに書かれてありますように、選択議定書は、国連女性差別撤廃委員会により、個人通報制度と調査制度を認めており、議定書を批准することによって、締約国は被害者救済に向け具体的な措置をとるよう、同意委員会から要請されるため、国際的な人権基準に基づき女性の人権侵害の救済や性別による不平等をなくすための効力が強まることが期待されるということです。最後の方にも書かれてあります女性差別撤廃条約の締約国は、女性に対する差別を撤廃する政策を全ての適当な手段により、かつ遅延、遅滞なく追求することに合意としてあります。女性差別の撤廃条約、国連が定めた国際的な人権基準の適用を積極的に国内で進めることが条約締約国である日本政府の役割であります。選択議定書の批准は女性の人権保障、女性の性別撤廃の取り組みを強化し、ジェンダー平等社会の形成を促進することに繋がります。女性差別撤廃条約選択議定書を速やかに批准することを強く求めるよう、皆さん、議員の皆さんのご賛同をよろしくお願いいたします。以上です。
議長	説明が終わりました。これから質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。

(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
(討論なし)	
議 長	これで討論を終わります。これから発議第 3 号を採決いたします。提出者の説明のとおり、発議第 3 号に賛成する方の挙手を求めます。
(挙手多数) × 7 番議員	
議 長	挙手多数と認めます。したがって発議第 3 号は、原案のとおり可決され、関係機関に提出することといたします。 ここで 3 時 15 分まで休憩とします。 <div style="text-align: right;">(ときに 15 時 01 分)</div>
<p><u>日程第 16 「陳情第 5 号」</u></p> <p><u>日程第 21 「発議第 4 号」</u></p>	
議 長	休憩前に引き続き会議を開きます。 日程第 16、陳情第 5 号「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める陳情書及び、日程第 21、発議第 4 号、「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」と「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書は、関連がありますので一括議題といたします。陳情第 5 号については、民生文教常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。民生文教常任委員長 渡邊晃子 君。
(委員長報告—採択と決定)	
議 長	委員長報告に対する質疑を許します。質疑のある方は、挙手をお願いいたします。
(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
(討論なし)	
議 長	これで討論を終わります。これから陳情第 5 号を採決いたします。委員長の報告は、採択であります。陳情第 5 号を委員長報告のとおり、決定することに賛成する方の挙手を求めます。
(挙手全員)	
議 長	挙手全員と認めます。したがって陳情第 5 号は、委員長報告のとおり採

	択することに決定いたしました。
議 長	事務局長に発議第 4 号の朗読を求めます。小平事務局長。
	(事務局長朗読)
議 長	朗読が終わりました。提出者に提案理由の説明を求めます。 第 10 番 古谷恒晴 君。
10 番議員	ただいま上程されました、さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保義務教育費国庫負担制度の堅持拡充を求める意見書の提出につきまして、提案理由の説明を申し上げます。さらなる少人数学級の推進、複式学級定員の引き下げ、教員基礎数算出に用いる係数の改善等を含めまして、どの子にも行き届いた教育をするため、国補負担を 2 分の 1 に復元する、2 点に賛同いたします。議員各位の皆様にはご理解をいただき、ご賛同を賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明とさせていただきます。
議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。
	(質疑なし)
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
	(討論なし)
議 長	これで討論を終わります。これから発議第 4 号を採決いたします。提出者の説明のとおり、発議第 4 号に賛成する方の挙手を求めます。
	(挙手全員)
議 長	挙手全員と認めます。したがって発議第 4 号は、原案のとおり可決され、関係機関に提出することといたします。
<u>日程第 17 「陳情第 6 号」</u> <u>日程第 22 「発議第 5 号」</u>	
議 長	日程第 17、陳情第 6 号「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書採択の陳情について及び、日程第 22、発議第 5 号、「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書は、関連がありますので一括議題といたします。陳情第 6 号については、民生文教常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。民生文教常任委員長 渡邊晃子 君。
	(委員長報告—採択と決定)

議 長	委員長報告に対する質疑を許します。質疑のある方は、挙手をお願いします。
(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
(討論なし)	
議 長	これで討論を終わります。これから陳情第6号を採決いたします。委員長の報告は、採択であります。陳情第6号を委員長報告のとおり、決定することに賛成する方の挙手を求めます。
(挙手全員)	
議 長	挙手全員と認めます。したがって陳情第6号は、委員長報告のとおり採択することに決定いたしました。
議 長	事務局長に発議第5号の朗読を求めます。小平事務局長。
(事務局長朗読)	
議 長	朗読が終わりました。提出者に提案理由の説明を求めます。 第3番 菊池一巳 君。
3番議員	3番菊池一巳です。カリキュラム・オーバーロードの改善を求める意見書について提案理由の説明をいたします。教員給与増、改正法が11日、参院本会議で可決成立しました。これは公立学校教員の残業代の代わりに基本給の4%相当を上乗せし支給する教職調整額で、31年に10%とするもので、教員の働き方改革を推進し、給与増と負担軽減を進め、深刻な教員のなり手不足の解消を図ることを目的とするものです。また、衆議院の審議では、教員の時間外勤務を29年度までに月平均30時間程度に減らすことを目標とし、1人当たりの担当授業時間数の削減に必要な措置を講じることを附則に明記する修正を行いました。しかしながら、この法制化の問題点として、月30時間の勤務時間内に収めるため、持ち帰り残業が増える可能性があり、長時間労働が固定化される恐れが懸念されます。抜本的な解決には業務量の削減が不可欠だとし、1人当たりの授業時間削減などの取り組みを国の責任で行うべきであるとの趣旨であると解釈いたしました。そして子供たちにも、詰め込み教育ではなく、自由で柔軟な考えを活かすことができる豊かな学びを保障するため、学習指導要綱の内容の精選が必要だと解釈いたしました。以上をもって提案理由の説明とさせていただきますが、議員の皆さんのご賛同をいただきますようお願いいたします。
議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。質疑のある方は挙手を

	お願いします。
	(質疑なし)
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
	(討論なし)
議 長	これで討論を終わります。これから発議第5号を採決いたします。提出者の説明のとおり、発議第5号に賛成する方の挙手を求めます。
	(挙手全員)
議 長	挙手全員と認めます。したがって発議第5号は、原案のとおり可決され、関係機関に提出することといたします。
日程第18 「陳情第7号」	
議 長	日程第18、陳情第7号「国保制度の改善を求める陳情書」についてを議題といたします。陳情第7号については、民生文教常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。民生文教常任委員長 渡邊晃子 君。
	(委員長報告—継続審査と決定)
議 長	委員長報告に対する質疑を許します。質疑のある方は、挙手をお願いします。
	(質疑なし)
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。第6番、的埜美香子くん。
6番議員	6番的埜美香子です。この国保制度の改善を求める陳情に対しては私は賛成ですので、継続審査には反対の立場で討論をいたします。先ほどの条例改正もそうですが、県の統一化に向けて進んでいるわけですが、多くの自治体で保険税の引き上げをしてくれています。町はこの間、国保税が引き上がらないよう、また急激に上がらないように努力してくれていると思います。それでも高過ぎて払えない、払いたくても払えない状況が滞納という形で現れているわけです。誰もが等しく医療に関わることができるのが公的医療制度です。国民皆保険の最後の砦、セーフティネットが国保制度のはずです。高過ぎて払えない保険状態になり、病院に行けない医療が受けられない、そんなことが起きているのです。その一番の大きな要因が、国の予算削減です。現に、町の国保会計ではどうすることもできないのではないのでしょうか？だから、全国知事会でも要望が

	上がってきているように、国が1兆円の公費を投入してくださいというものです。それにより、国保加入者の特徴に合わせ、加入者の所得に応じた応能負担での保険料にというもので、1自治体としても願うところではないでしょうか？国へしっかりと声を上げ、国保制度の改善を求めようではありませんか。以上、継続審査には反対といたします。
8番議員	8番鷹野文則です。この国保制度の継続審査について、賛成の立場で討論させていただきます。ただいま的埜議員申しましたように、ただいま国保制度、県単位での統一化に向かっていろいろ動いております。そういう中で、先般、国の方は特例調整交付金を廃止いたしました。というのは、この都道府県単位の国保制度について、もう調整してる余裕はありませんよという国のメッセージだと思います。私はこの国保制度の改革に反対するわけではありません。どちらかというとな賛同しますが、今その時期ではなく、今やることは都道府県単位の制度を統一化していくという部分かというふうに考えます。ついてはやはりこれを提出する時期としては、せめて佐久圏域での保険料統一ができる、そういう段階での意見書提出というのが適切かと思っておりますので、継続審議に賛成いたします。
議長	他に討論のある方はございますか。これで討論を終わります。これから陳情第7号を採決いたします。委員長の報告は、継続審査であります。陳情第7号を委員長報告のとおり、継続審査と決定することに賛成する方の挙手を求めます。
(挙手多数) × 5番議員、6番議員	
議長	挙手多数と認めます。したがって陳情第7号は、委員長報告のとおり継続審査とすることに決定いたしました。
<p><u>日程第19 「陳情第8号」</u></p> <p><u>日程第23 「発議第6号」</u></p>	
議長	日程第19、陳情第8号「高額療養費の限度額引き上げの撤回を求める陳情書」について及び、日程第23、発議第6号、「高額療養費の限度額引き上げの撤回を求める意見書」は、関連がありますので一括議題といたします。陳情第8号については、民生文教常任委員会に付託してありますので、委員長より審査結果の報告を求めます。民生文教常任委員長渡邊晃子 君。
(委員長報告一採択と決定)	
議長	委員長報告に対する質疑を許します。質疑のある方は、挙手をお願いし

	ます。
	(質疑なし)
議長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
	(討論なし)
議長	これで討論を終わります。これから陳情第8号を採決いたします。委員長の報告は、採択であります。陳情第8号を委員長報告のとおり、決定することに賛成する方の挙手を求めます。
	(挙手全員)
議長	挙手全員と認めます。したがって陳情第8号は、委員長報告のとおり採択することに決定いたしました。
議長	事務局長に発議第6号の朗読を求めます。小平事務局長。
	(事務局長朗読)
議長	朗読が終わりました。提出者に提案理由の説明を求めます。 第8番 鷹野文則 君。
8番議員	8番鷹野文則です。ただいま上程されました、高額療養費の限度額引き上げの撤回を求める意見書の提出につきまして、提案理由の説明を申し上げます。高額療養費制度は、医療費の負担を軽減する制度ですが、高齢化や高額薬剤の普及により、総額は年々増加しており、結果として現役世代を中心とした保険料が増加してきたことにより、厚労省は見直す方針を示しましたが、政府は8月予定の高額療養費の限度額引き上げを見送ることとしました。制度の改定内容は、中間所得層の約10%の増額になるものです。そして、現役世代の保険料軽減額は、92円から417円となります。現在の物価高騰の中、医療負担増加は、家計やライフプランに影響を及ぼし、受診控えに繋がることも懸念されます。ついては、安心して医療を受けられる制度、役割を維持していく必要があると考えますので、高額療養費の限度額引き上げの撤回を求める意見書の提案をいたします。議員各位にはご理解をいただき、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます、提案理由の説明といたします。
議長	説明が終わりました。これから質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。
	(質疑なし)
議長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
	(討論なし)

議 長	これで討論を終わります。これから発議第 6 号を採決いたします。提出者の説明のとおり、発議第 6 号に賛成する方の挙手を求めます。
	(挙手全員)
議 長	挙手全員と認めます。したがって発議第 6 号は、原案のとおり可決され、関係機関に提出することといたします。
日程第 24 「発議第 7 号」	
議 長	日程第 24、発議第 7 号「給食無償化に際し、質・量の確保を担保するための国による十分な予算措置を求める意見書について」を議題といたします。事務局長に発議第 7 号の朗読を求めます。小平事務局長。
	(事務局長朗読)
議 長	朗読が終わりました。提出者に提案理由の説明を求めます。 第 7 番 黒澤敦史 君。
7 番議員	ただいま上程されました、給食無償化に際し、質・量の確保を担保するための国による十分な予算措置を求める意見書の提出につきまして、提案理由の説明を申し上げます。学校給食法の目的目標は、適切な栄養摂取による児童生徒の心身の健全な発達や、給食を通じた食に関する理解や、判断力の育成とされており、この目的目標を実現するため、給食実施に対する諸政策や、経済的困窮により、給食費の支払いが困難な世帯に対する負担軽減措置が講じられております。そんな中、国による小学校の給食無償化が予定されていますが、全国一律の無償化により、自治体においては限られた予算内で給食費を賄う必要が生じ、その結果、物価高騰やコメ不足等の影響により、給食の質や量が低下しかねず、自治体ごとに格差が生じる恐れがあります。従って、無償化は家庭の経済的負担軽減という側面のみならず、給食の質と量の維持向上という観点からも実施されなければなりません。不登校の児童生徒数が増加する中、そういった状況社会情勢の中、その子供たちはその恩恵を受けることができませんし、有機食材の使用拡大や食育の推進と、子供たちの食を巡る取り組みが今、重要視されております。国による給食無償化の実施に当たっては、全ての児童生徒の速やかな健やかな成長を促す上において、給食の質および量の担保を可能とする十分な予算措置を講じるとともに、自治体格差が生じないことを強く要望するため意見書を提出したいと考えます。議員各位には本件について何卒ご理解いただき、ご賛同賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明とさせていただきます。以上です。

議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします
(質疑なし)	
議 長	これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
(討論なし)	
議 長	これで討論を終わります。これから発議第 7 号を採決いたします。提出者の説明のとおり、発議第 7 号に賛成する方の挙手を求めます。
(挙手全員)	
議 長	挙手全員と認めます。したがって発議第 7 号は、原案のとおり可決され、関係機関に提出することと致します。
<u>日程第 25 「議案第 36 号」</u>	
議 長	日程第 25、議案第 36 号「令和 7 年度小海町一般会計補正予算（第 3 号）について」を議題といたします。事務局長に議案の朗読を求めます。小平事務局長。
(事務局長朗読)	
議 長	朗読が終わりました。本案について提案理由の説明を求めます。吉澤総務課長。
(総務課長説明)	
議 長	説明が終わりました。これから質疑を行います。歳入歳出とも補正予算書で、ページごとに行います。質疑のある方は挙手をお願いします。歳入、6 ページ、款 19 繰入金。歳出、7 ページ、款 3、民生費。
(質疑なし)	
議 長	その他全体を通じて質疑のある方は、ございますか。これで質疑を終わります。これより討論を行います。討論のある方は挙手をお願いいたします。
(討論なし)	
議 長	これで討論を終わります。これから議案第 36 号を採決いたします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。
(挙手全員)	
議 長	挙手全員と認めます。したがって議案第 36 号は原案とおり可決することに決定いたしました。

議 長	次に各常任委員長、議会運営委員長から、それぞれ閉会中の所管事務等の調査の申し出がありました。お諮りいたします。各常任委員長、議会運営委員長からの申し出のとおり、閉会中の所管事務等の調査に付することにご異議ございませんか。
(異議なし)	
議 長	異議なしと認めます。したがって、各常任委員長、議会運営委員長からの申し出のとおり、閉会中の所管事務等の調査に付することに決定いたしました。
<u>○ 閉 会</u>	
議 長	以上をもちまして本定例会に提案されました議案に対する審議は、すべて終了いたしました。これにて令和7年第2回小海町議会定例会を閉会といたします。ご苦労様でした。 <div style="text-align: right;">(ときに 16 時 11 分)</div>

以上、会議の経過を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議 長

3 番 議 員

4 番 議 員